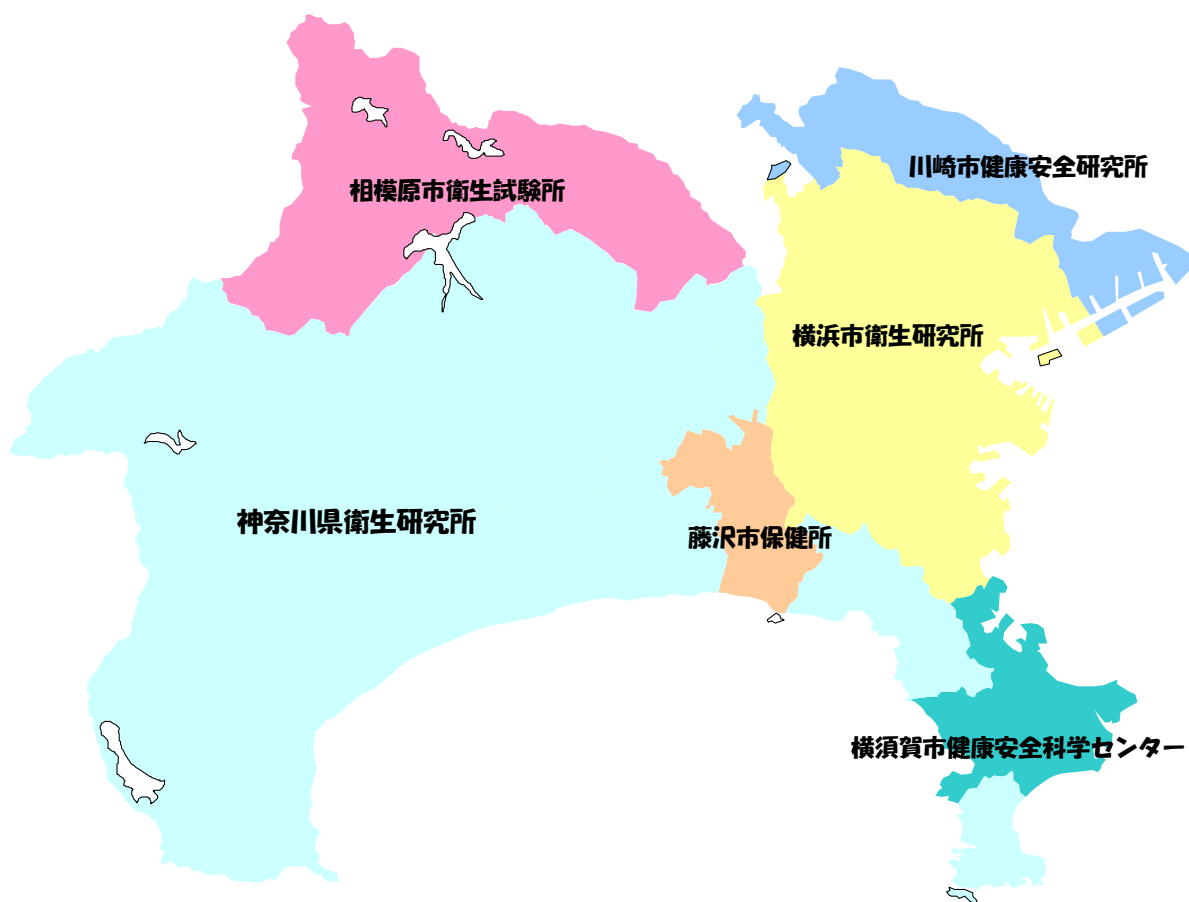


平成 25 年

# 神奈川県感染症

PART I 平成 25 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 平成 25 年地域における感染症発生状況の概要



神奈川県衛生研究所

## はじめに

平成 25 年は、海外では中東呼吸器症候群 (MARS) や高病原性鳥インフルエンザ (H5N1)、低病原性鳥インフルエンザ (H7N9) の報告が注目されました。また、国内では風しんの流行、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、薬剤耐性菌の問題などがあり、感染症に対する健康危機管理対策の重要性はより増してきています。

神奈川県衛生研究所 (以下、当所) では、こうした状況のなかで健康危機管理や感染症対策に向けて神奈川県医師会や病院協会及び関係機関の方々との連携を強化するとともに、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページやパンフレット等による情報発信や研修会など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市保健所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所及び当所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報等についてまとめ、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T I と、各地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T II に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

最後に、『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 4 月

神奈川県衛生研究所長

岡 部 英 男

## 目 次

### < PART I > 平成 25 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

#### I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	1
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	4
(2) 週報対象疾患	5
(3) 月報対象疾患	15
3 トピックス	
<神奈川県の HIV/エイズの概要>	19
【資料】	
資料 1 平成 25 年全数把握対象の感染症 保健所別報告数	20

### < PART II > 平成 25 年地域における感染症発生状況の概要

#### I 病原微生物検出状況（資料編）

1 ウイルス検出概況	21
2 病原細菌検出概況	22
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	23
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）	34

#### II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症	
(1) インフルエンザ	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の インフルエンザの動向（神奈川県衛生研究所）	39
② 横浜市のインフルエンザの動向（横浜市衛生研究所）	41
③ 川崎市のインフルエンザの動向（川崎市健康安全研究所）	49
④ インフルエンザ感受性調査（神奈川県衛生研究所）	50
(2) HIV/エイズ	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況（神奈川県衛生研究所）	53
② 藤沢市における HIV 即日検査の実施状況（藤沢市保健所）	55

(3) ウイルス性感染性胃腸炎	
(3) -1	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	56
(3) -2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	58
② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	59
③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市健康安全研究所）	63
④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生試験所）	63
⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	64
⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	64
(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検出状況（神奈川県衛生研究所）	65
② 川崎市の検出状況（川崎市健康安全研究所）	65
(5) 蚊媒介感染症	
① 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	66
② 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（川崎市健康安全研究所）	68
③ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横須賀市健康安全科学センター）	69
(6) その他のウイルス性感染症	
(6)-1	
① 県全体の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	70
(6)-2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	71
② 相模原市の麻疹ウイルス検出状況（相模原市衛生試験所）	71
(6)-3	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	72
(6)-4	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	73

## 2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の チフス菌等のフェージ型別結果(神奈川県衛生研究所)	75
② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果(横浜市衛生研究所)	75
③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果(川崎市健康安全研究所)	76
(2) 細菌性腸管系感染症	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の 腸管出血性大腸菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	77
② 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の 赤痢菌及びコレラ菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	77
③ 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の 散発下痢症患者からの病原菌検出状況(神奈川県衛生研究所)	78
④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況(横浜市衛生研究所)	79
⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況(横浜市衛生研究所)	79
⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況(川崎市健康安全研究所)	80
⑦ 相模原市の腸管病原菌検出状況(三類感染症発症者の家族等の病原菌検索) (相模原市衛生試験所)	81
⑧ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの 腸管系病原菌検出状況(横須賀市健康安全科学センター)	81
⑨ 藤沢市の腸管病原菌(三類感染症)検出状況(藤沢市保健所)	82
(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
① A群溶血性レンサ球菌の分離及びT型別成績(神奈川県衛生研究所)	83
② 横浜市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(横浜市衛生研究所)	85
③ 川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(川崎市健康安全研究所)	85
(4) 結核	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)における QFT検査成績(神奈川県衛生研究所)	86
② 横浜市におけるQFT検査成績(横浜市衛生研究所)	87
③ 川崎市におけるQFT検査成績(川崎市健康安全研究所)	88
④ 横須賀市におけるQFT検査成績(横須賀市健康安全科学センター)	88
(5) 百日咳	
① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の 百日咳検査成績(神奈川県衛生研究所)	89
② 横浜市における百日咳検査成績(横浜市衛生研究所)	90

(6) マイコプラズマ肺炎	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマ検出状況（神奈川県衛生研究所）	92
3 その他の感染症	
(1) つつが虫病	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病（神奈川県衛生研究所）	93
【参考資料】 予防接種実施状況	94
感染症関係機関	95

# < PART I > 平成 25 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 26 年 3 月)

## I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

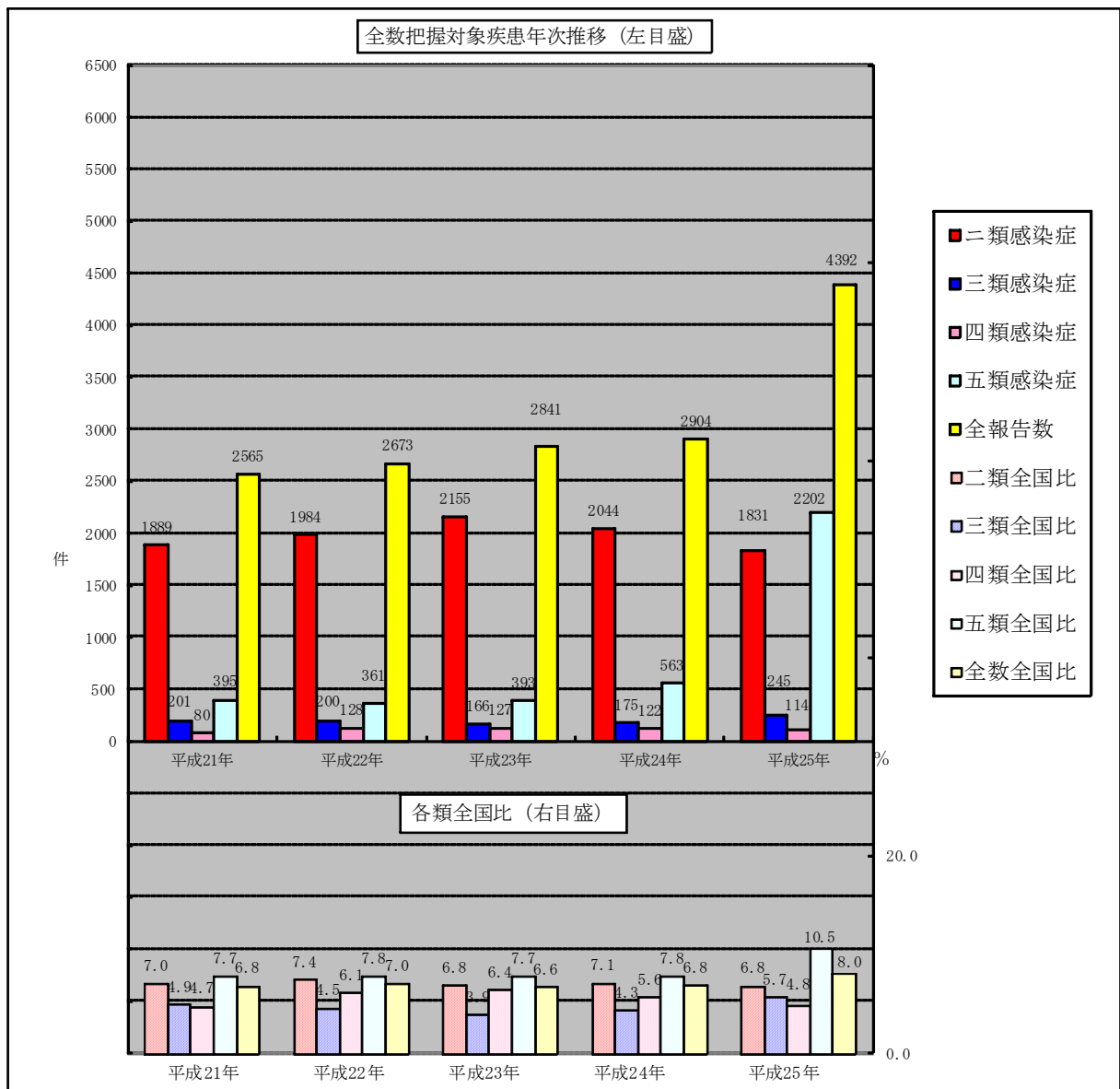
### 1 全数把握対象疾患

平成 25 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、4392 件と前年より 1488 件増加した。

類別では、二類感染症 1831 件、三類感染症 245 件、四類感染症 114 件、五類感染症 2202 件であった。平成 25 年報告総数の全国に占める割合は、前年から増加し 8.0%であった。最も割合の高かった類は五類感染症で 10.5%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 25 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核 1831 件であり、前年より減少した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも 70 件増加して 245 件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症が 218 件で、前年より 69 件増加した。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈川 県(左 を除く)	全 国
	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県							
13 コレラ	3		3	2								4
14 細菌性赤痢	19	22	29	13	13	7			1		5	143
15 腸管出血性大腸菌感染症	173	168	132	149	218	74	74	11	13	5	41	4044
16 腸チフス	3	6		8	8	5	1				2	65
17 パラチフス	3	3	2	3	6	2	2			1	1	50
合 計	201	199	166	175	245	88	77	11	14	6	49	4306

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

9 疾患の報告があり、報告数は前年よりも件減少して 114 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で 63 件、続いて、デング熱 16 件であった。

表 2 四類感染症報告数（件）

疾患名	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	(横 浜市)	(川 崎市)	(相 模原 市)	(横 須賀 市)	(藤 沢市)	神奈川 県(左 を除く)	全 国
	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県							
18 E型肝炎	2	1	3	4	7	4		1	1		1	127
20 A型肝炎	7	28	10	16	11	4	4		2		1	128
21 エキノコックス症		1										20
23 オウム病	1		1									8
36 チクングニア熱			2	2	1		1					14
37 つつが虫病	22	21	29	13	11	2					9	344
38 デング熱	6	14	10	19	16	11	3				2	249
47 ブルセラ症					1	1						2
51 マラリア	3	6	7	11	2	1	1					48
54 ライム病	1	1										20
57 類鼻疽		1	1									4
58 レジオネラ症	37	55	64	54	63	25	10	10	2	7	9	1124
59 レプトスピラ症	1			3	2	2						29
合 計	80	128	127	122	114	50	19	11	5	7	22	2360

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む

※平成23年2月よりチクングニア熱が追加された 2



《五類感染症》

14 疾患の報告があり、報告数は 2099 件であった。最も報告の多かった疾患が風しんで 1691 件、次いで後天性免疫不全症候群が 120 件、アメーバ赤痢が 88 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年							全国
	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	神 奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神 奈 川 県 (左 を 除 く)	
61 アメーバ赤痢	69	81	85	82	88	42	24	9	1		12	1047
62 ウイルス性肝炎	16	13	12	4	19	2	9	2		1	5	288
63 急性脳炎	27	12	11	13	17	5	9	2			1	364
65 クロイツフェルト・ヤコブ病	10	9	6	8	11	6	3			1	1	207
66 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6	12	10	13	16	3	8		1	2	2	210
67 後天性免疫不全症候群	79	79	92	90	120	55	20	19	7	2	17	1584
68 ジアルジア症	6	10	6	4	5	2	2				1	82
69 侵襲性インフルエンザ菌感染症					7	4	1		1		1	108
70 侵襲性髄膜炎菌感染症										1		23
71 侵襲性肺炎球菌感染症						39	30	9	10	5	8	1000
72 先天性風しん症候群	1	1		3	3	2		1				32
73 梅毒	34	33	43	50	76	29	21	4	7	2	13	1236
74 破傷風	4	3	2	6	6	3		1			2	128
76 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	29	22	17	7	9	2	1				6	55
77 風しん	13	8	64	259	1691	624	500	94	67	93	313	14362
78 麻しん	97	78	45	24	31	2	6		3	3	17	230
髄膜炎菌性髄膜炎							1					2
合計	391	361	393	563	2099	820	635	141	97	110	399	20977

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病を含む

※平成20年1月より風しん、麻しんが追加された

※平成25年4月より侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が追加された。それに伴い髄膜炎菌性髄膜炎は削除された

## 2 定点把握対象疾患

### (1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	152	54	23	345
小児科定点	73	92	33	15	213
眼科定点	16	19	7	4	46
STD(性感染症)定点	23	27	7	5	62
基幹定点	5	4	2	1	12

#### ○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

#### ○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

#### ○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

#### ○基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性アシネトバクター感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

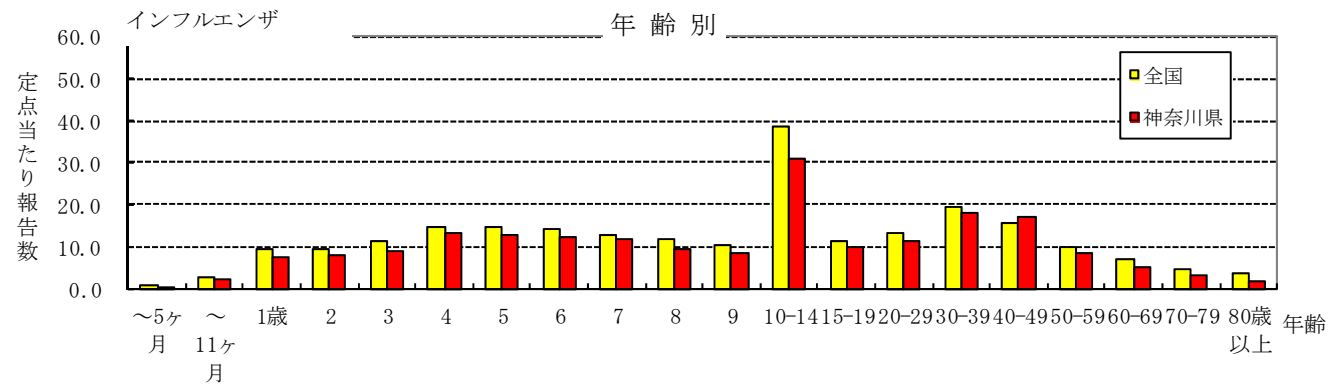
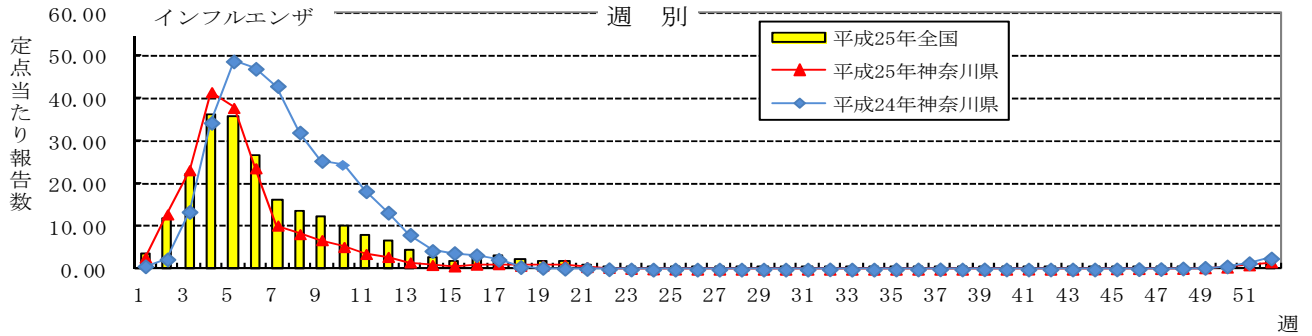
#### ○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全県）

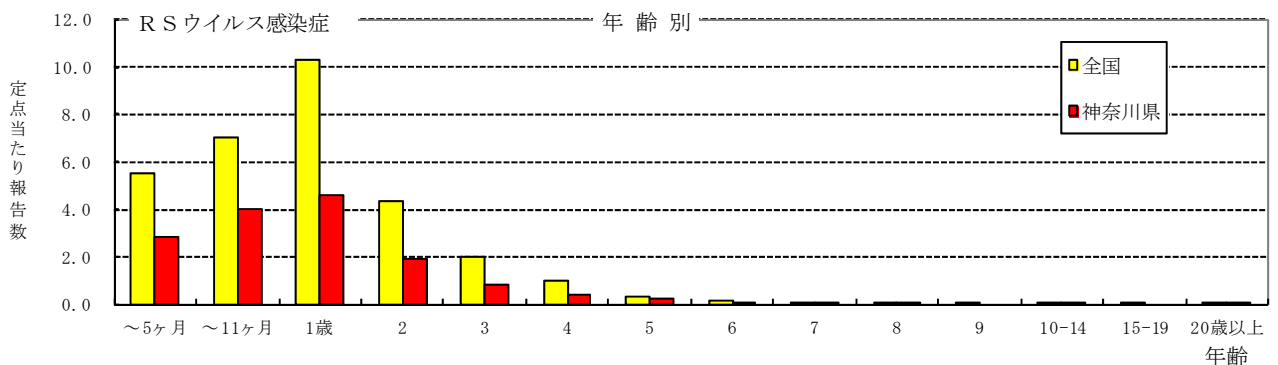
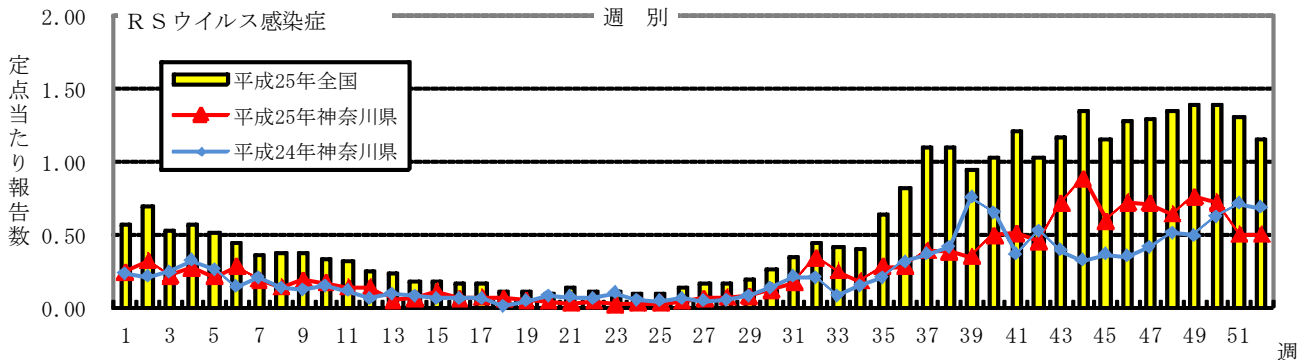
インフルエンザ

第4週に流行のピークがみられ、年齢別では、10歳から14歳に報告が多かった。



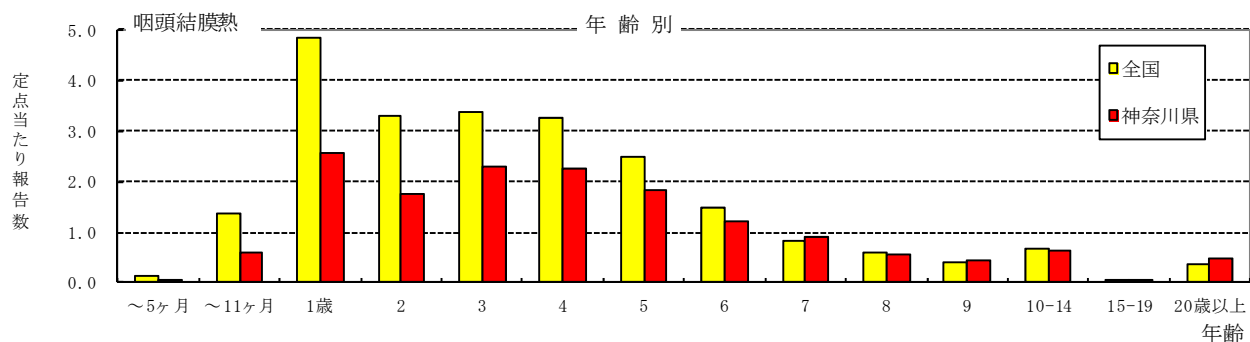
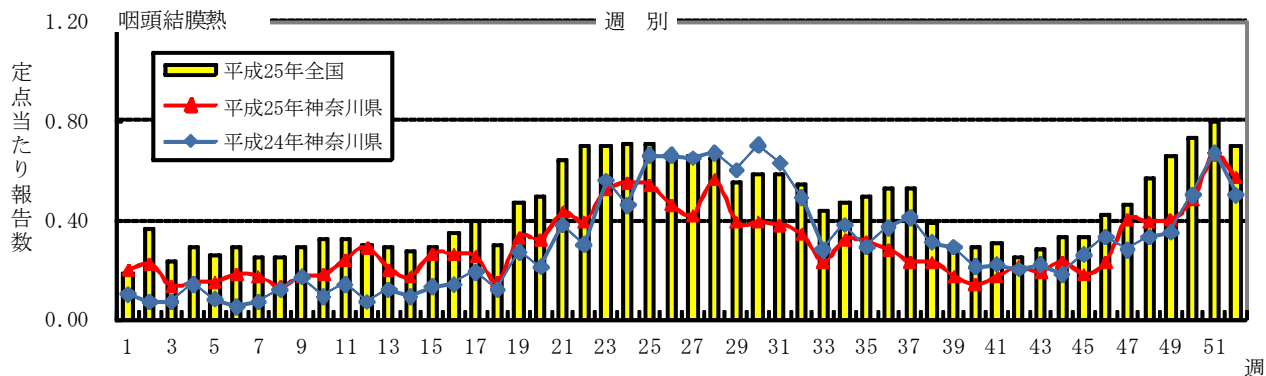
RSウイルス感染症

例年より早く第30週以降に増加し、第44週にピークがみられた。年齢別では、1歳以下に報告が多かった。



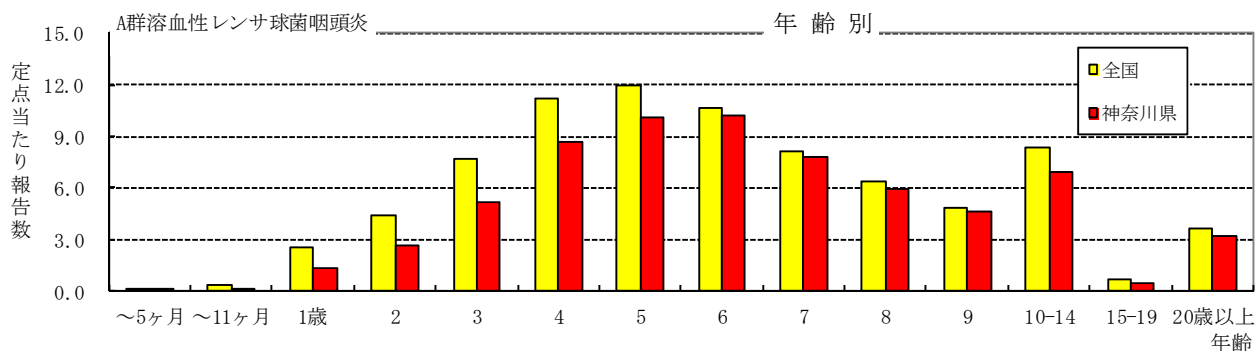
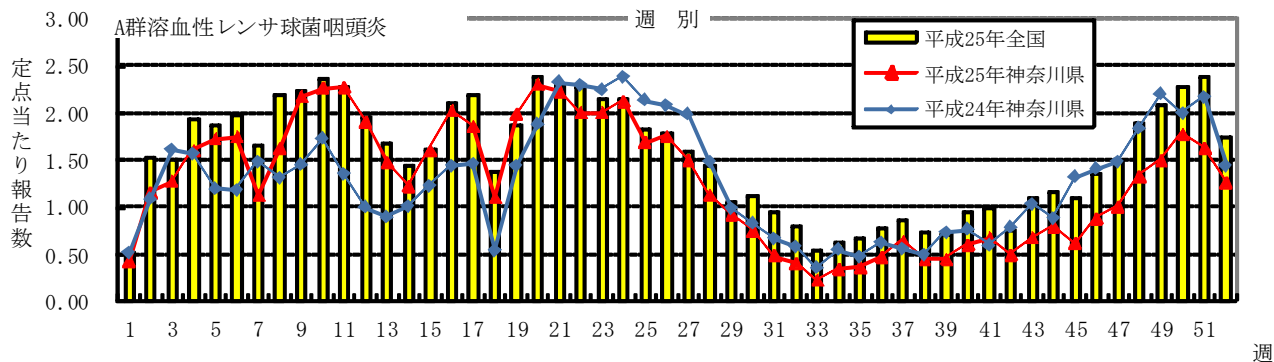
## 咽頭結膜熱

第23週から第28週に流行がみられたのち、第51週にも流行のピークがみられた。年齢別では、1歳から5歳を中心に報告が多かった。



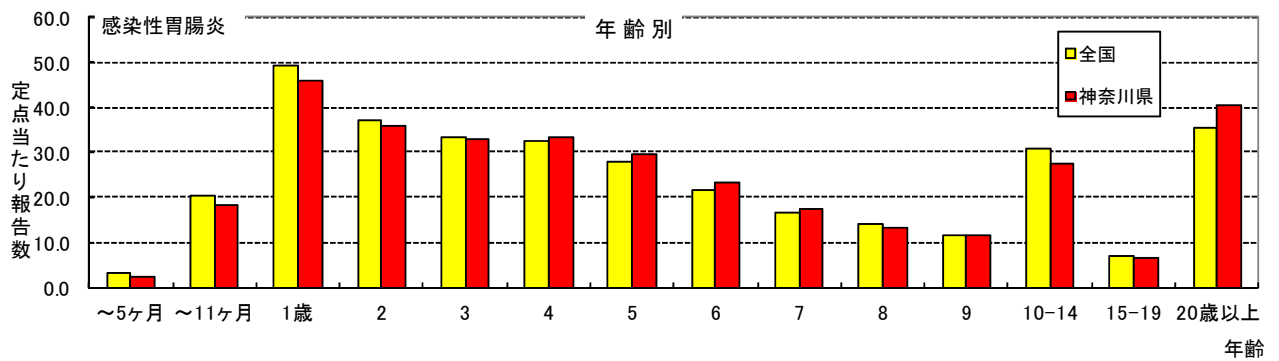
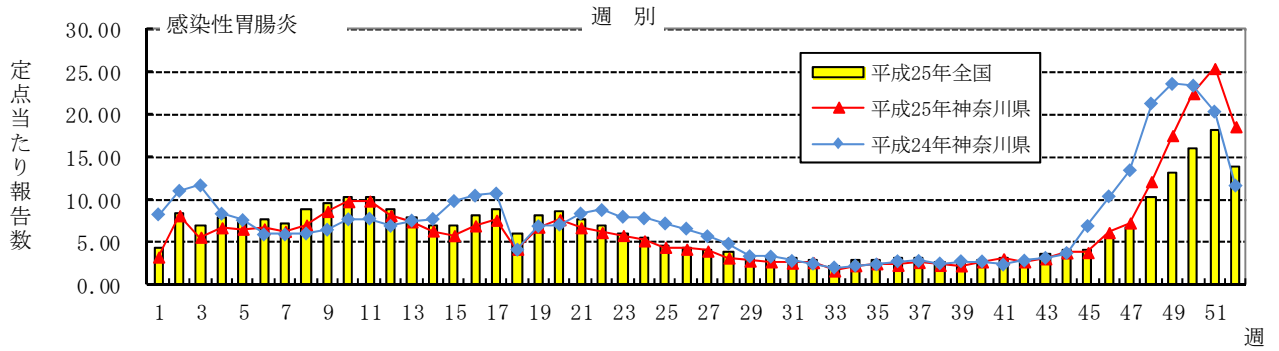
## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

春から初夏にかけて報告が増加した。年齢別では、5歳から6歳を中心に報告が多かった。



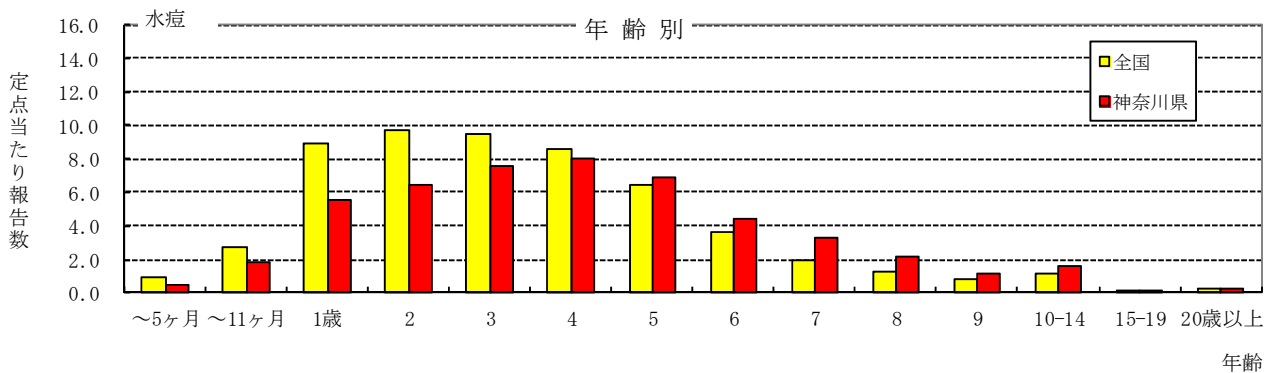
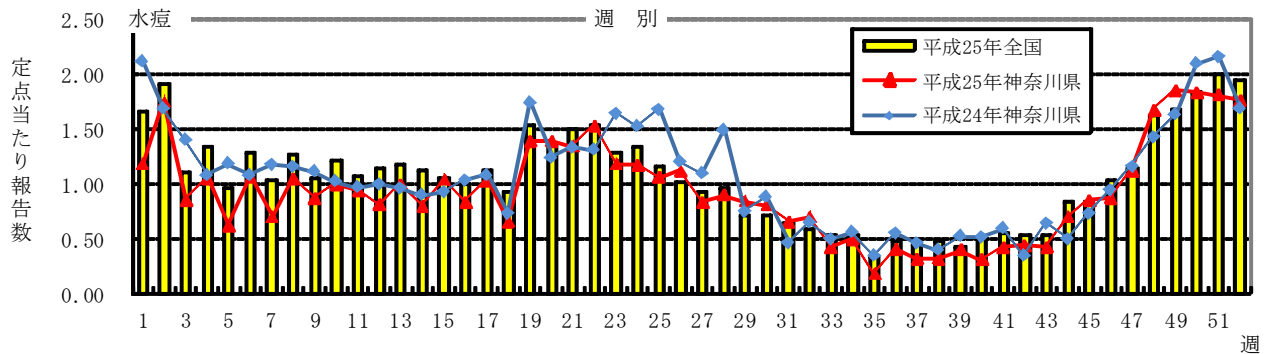
## 感染性胃腸炎

第51週に流行のピークがみられ、年齢別では、1歳に報告が多かった。



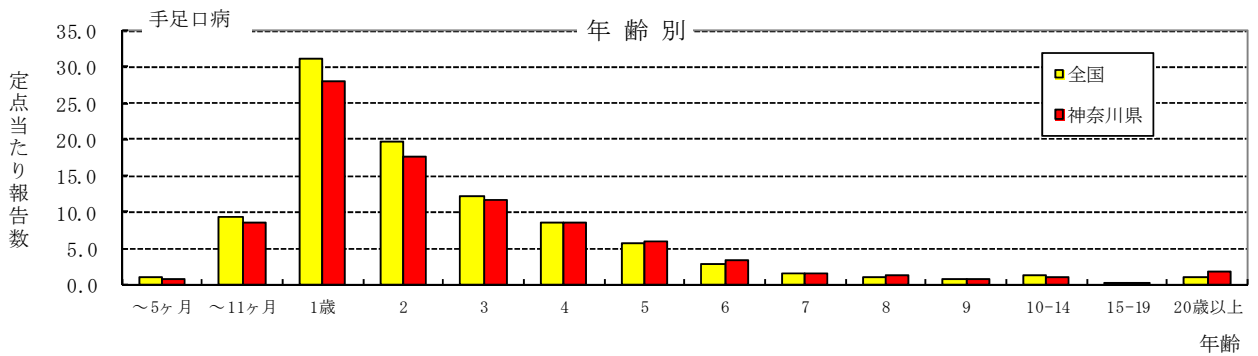
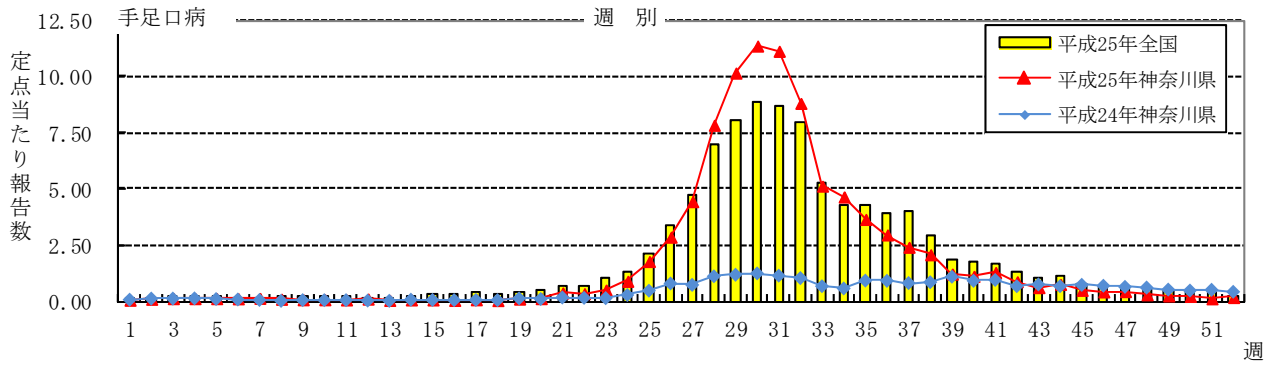
## 水痘

8月から10月には報告が減少し、例年と同様の流行であった。年齢別では、1歳から5歳に報告が多かった。



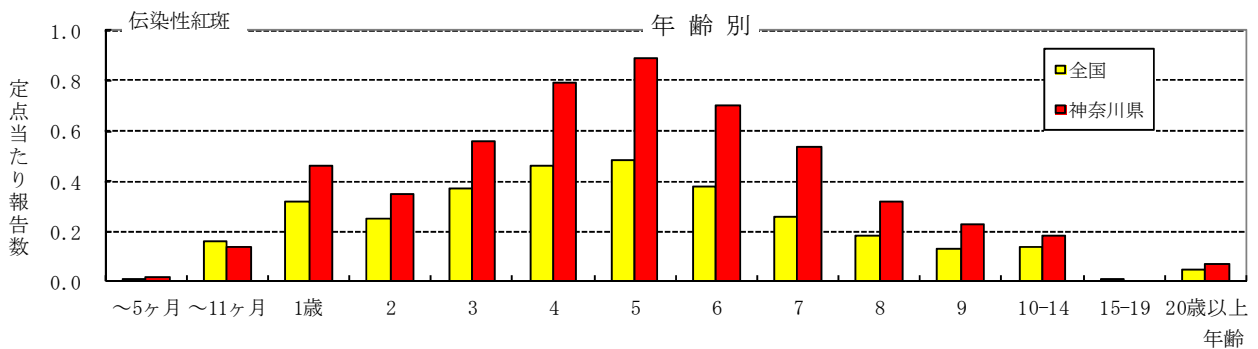
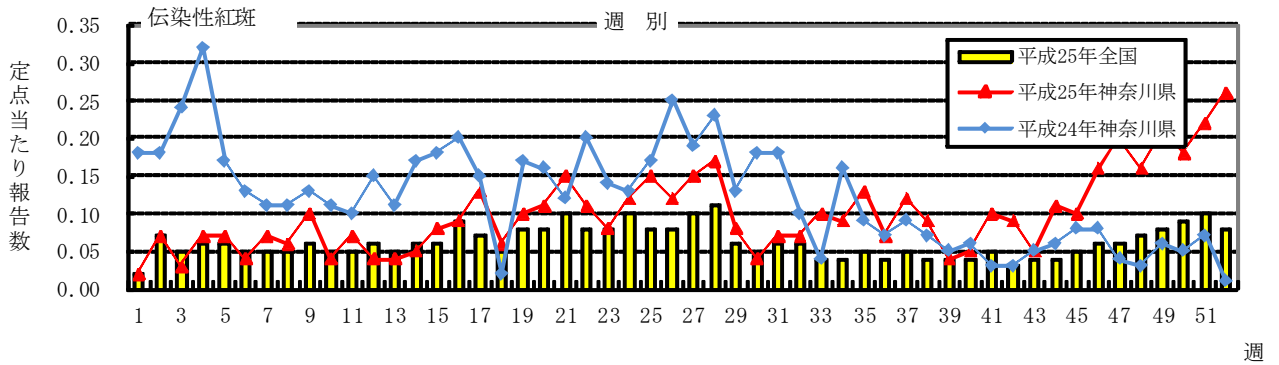
## 手足口病

第30週をピークとする流行がみられた。年齢別では、1歳を中心に報告が多くみられた。



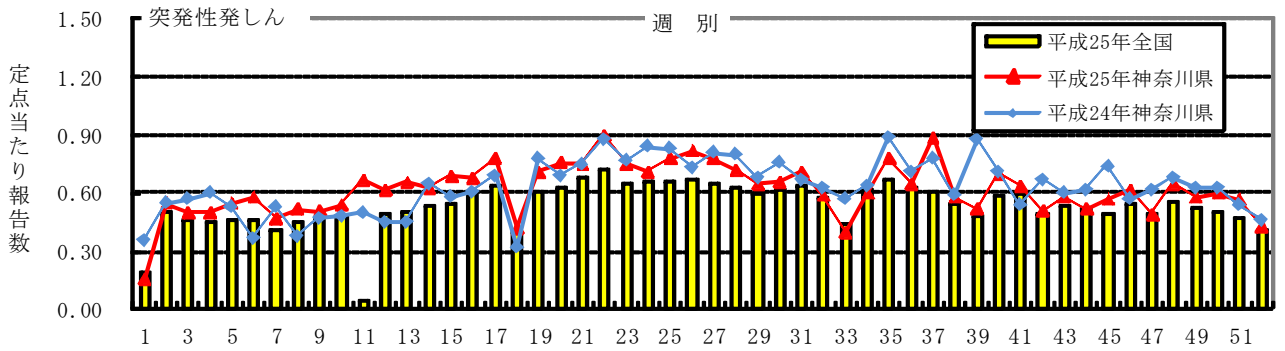
## 伝染性紅斑

平成24年に続き、明らかな流行のピークはみられなかった。年齢別では、5歳を中心とした報告がみられた。

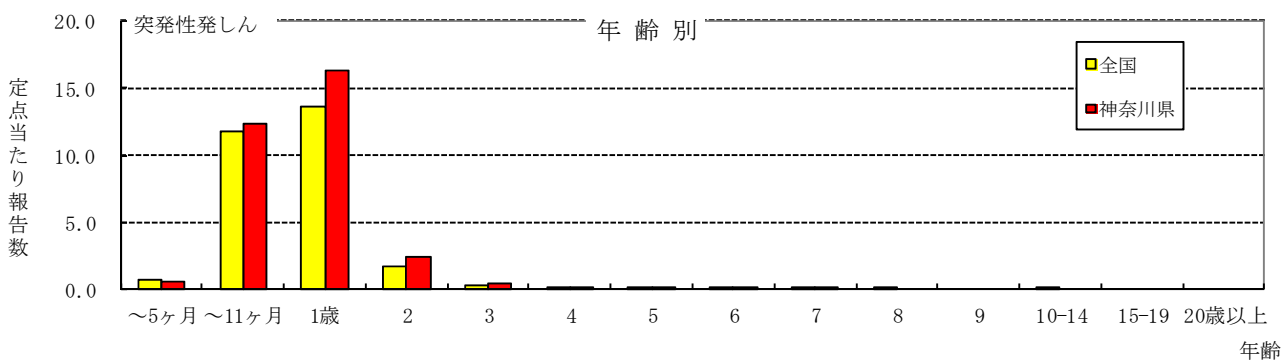


## 突発性発しん

例年と同様に年間を通して報告がみられた。年齢別では、6ヶ月から1歳を中心とした報告がみられた。

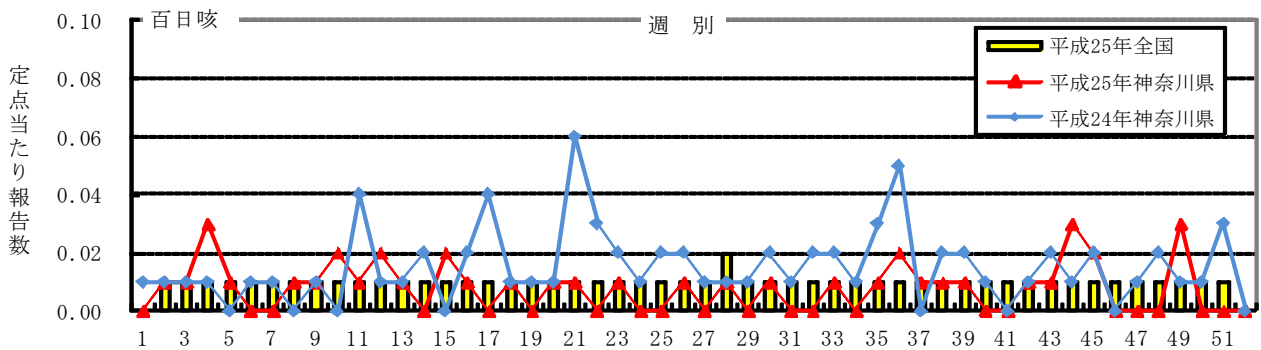


週

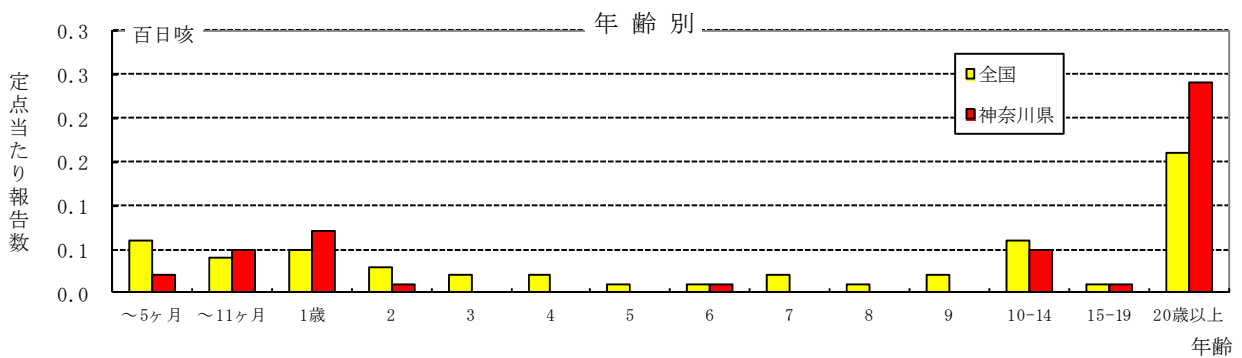


## 百日咳

平成24年よりも報告は減少した。年齢別では、20歳以上の報告が多かった。

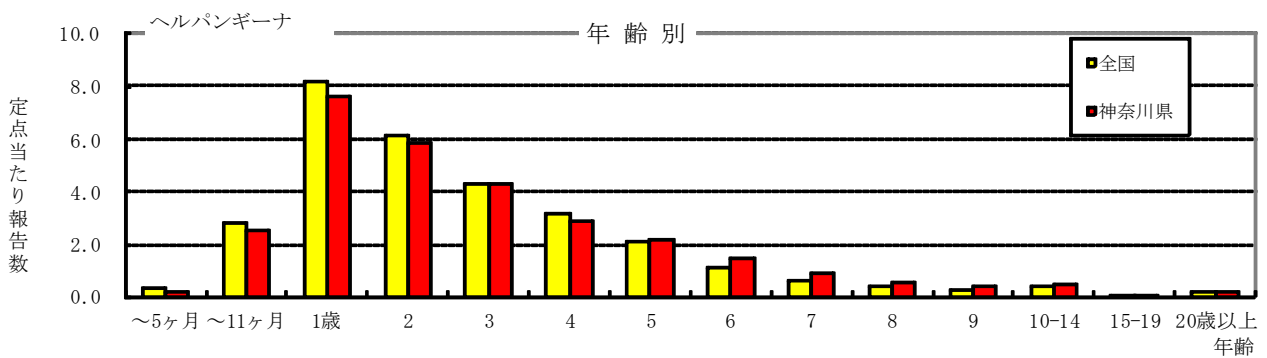
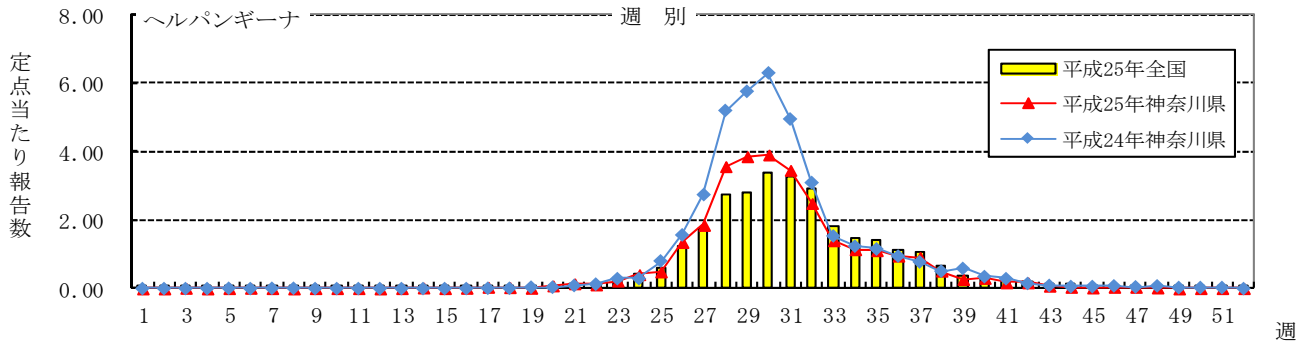


週



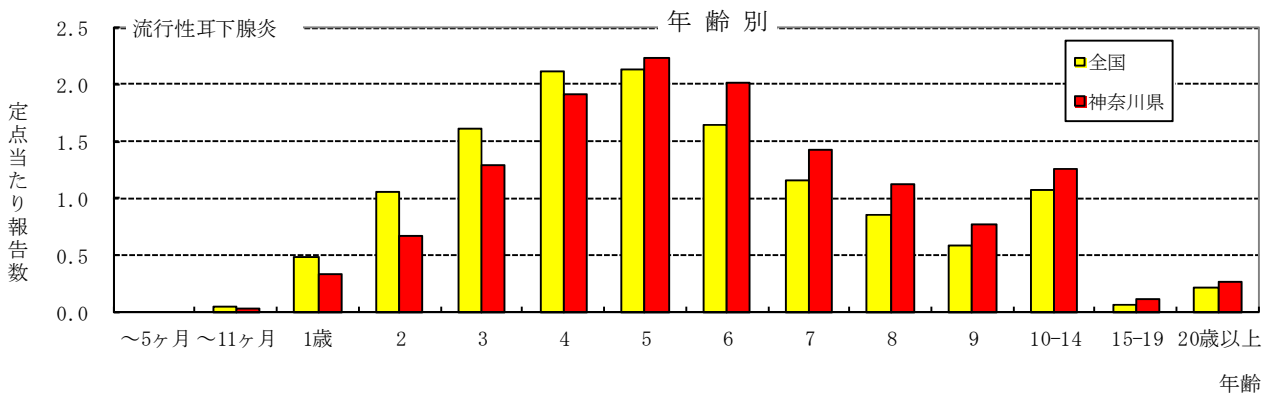
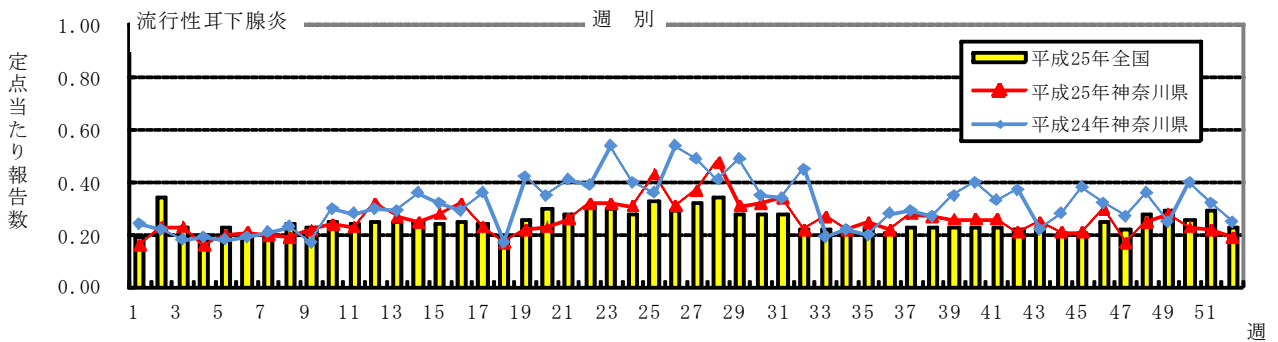
## ヘルパンギーナ

平成24年よりも報告数は減少した。ピークは、平成24年と同様に第30週であった。年齢別では、1歳を中心に報告がみられた。



## 流行性耳下腺炎

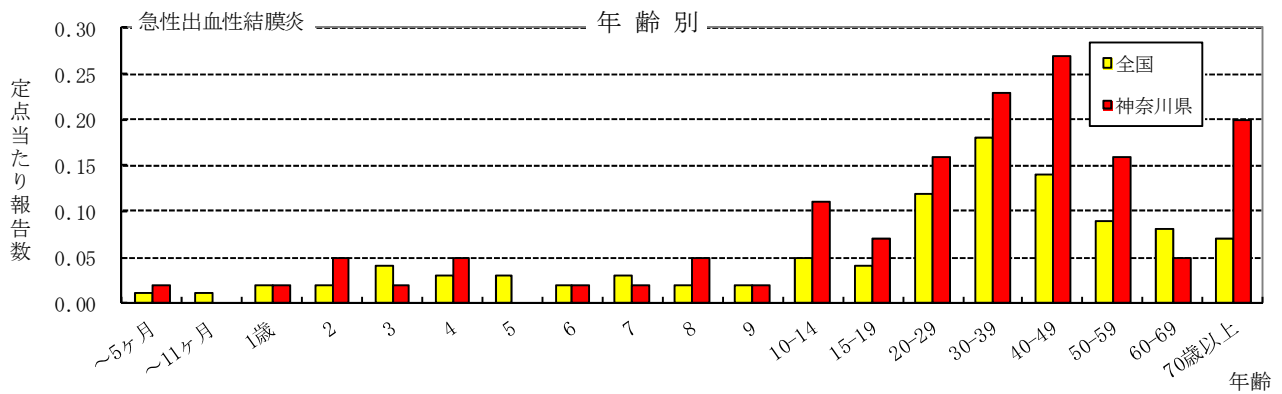
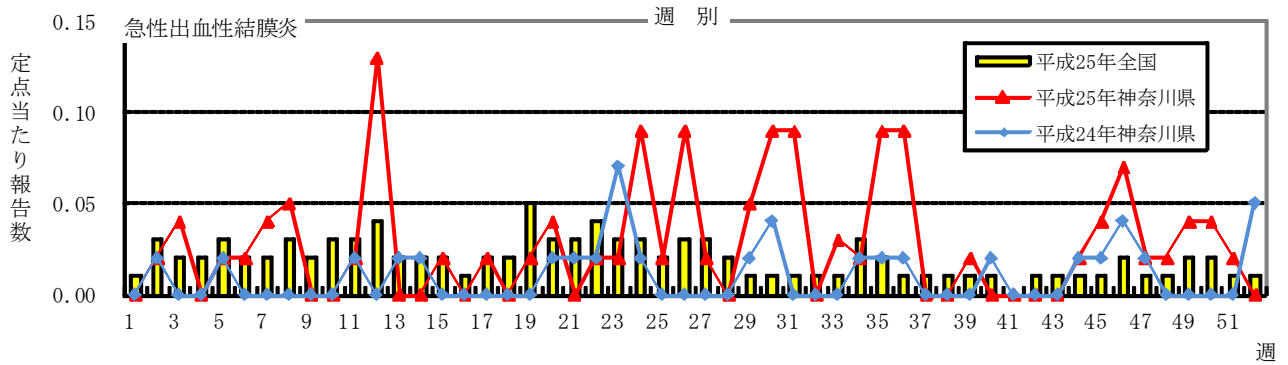
年間を通して報告がみられた。年齢別では、4歳から6歳を中心に報告がみられた。





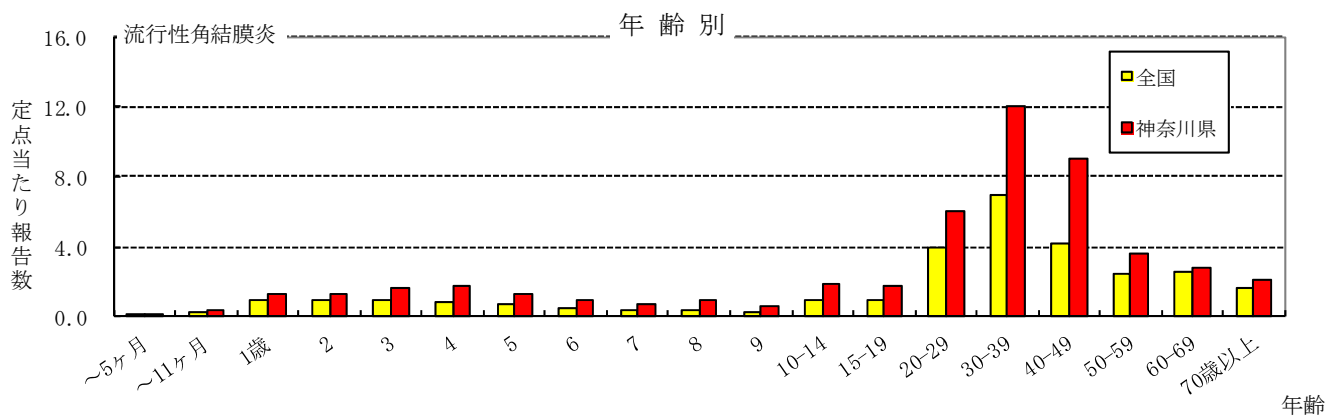
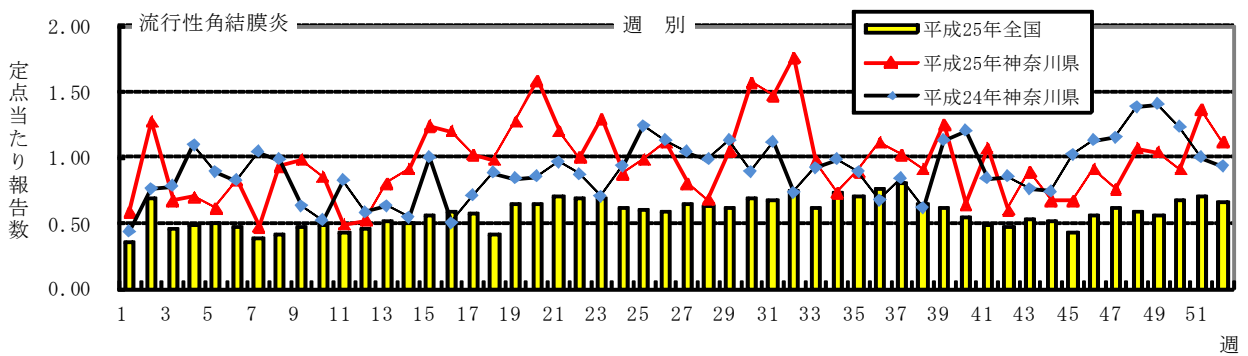
## 急性出血性結膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、40歳から49歳に報告が多かった。



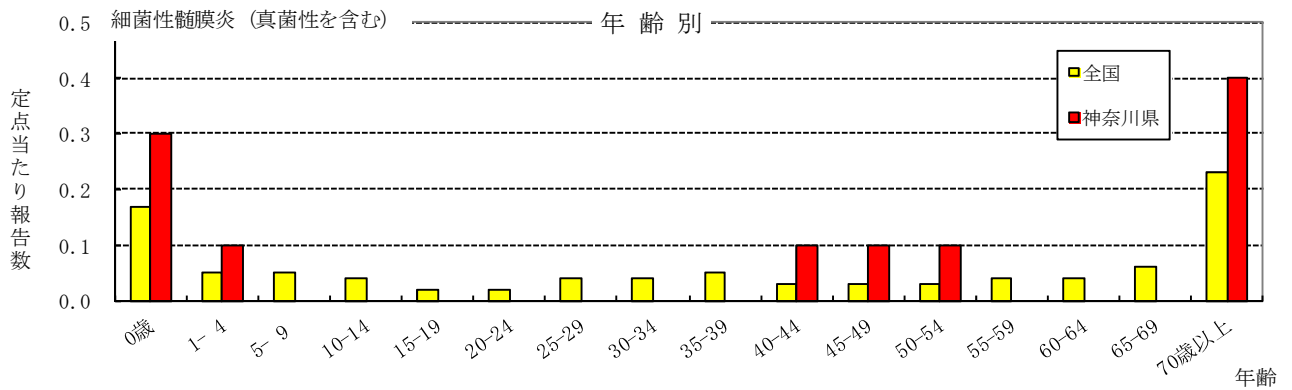
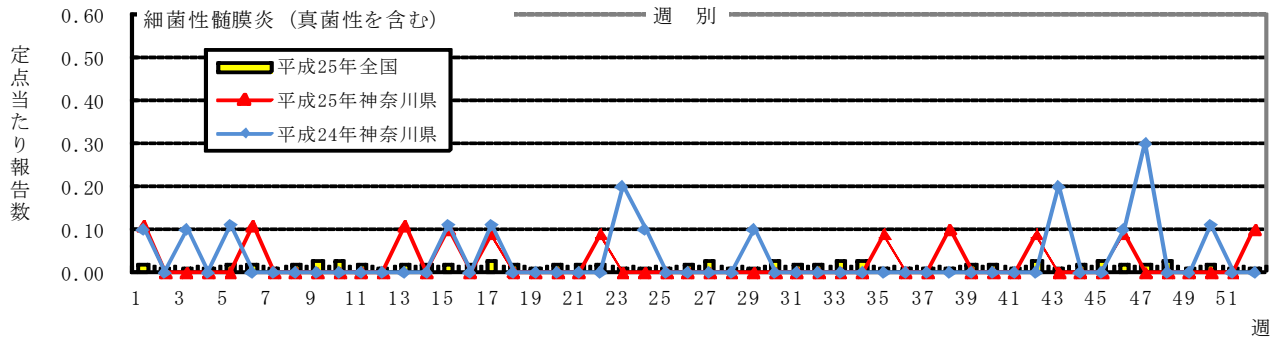
## 流行性角結膜炎

年間を通して報告がみられた。年齢別では、30歳から39歳に報告が多かった。



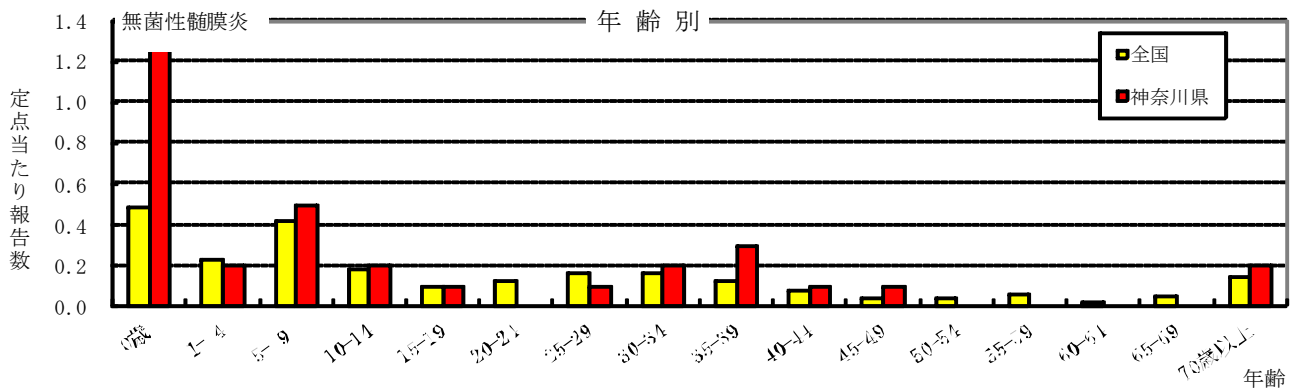
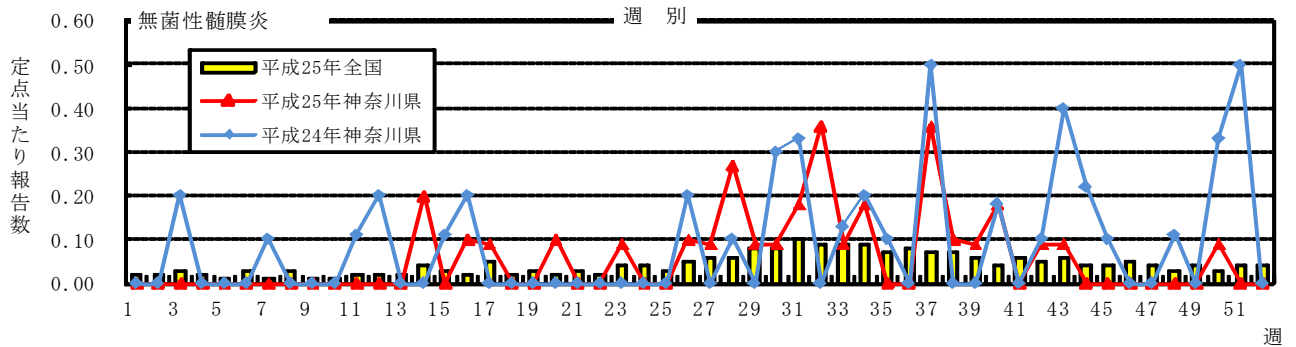
## 細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、0歳および70歳以上に報告が多かった。



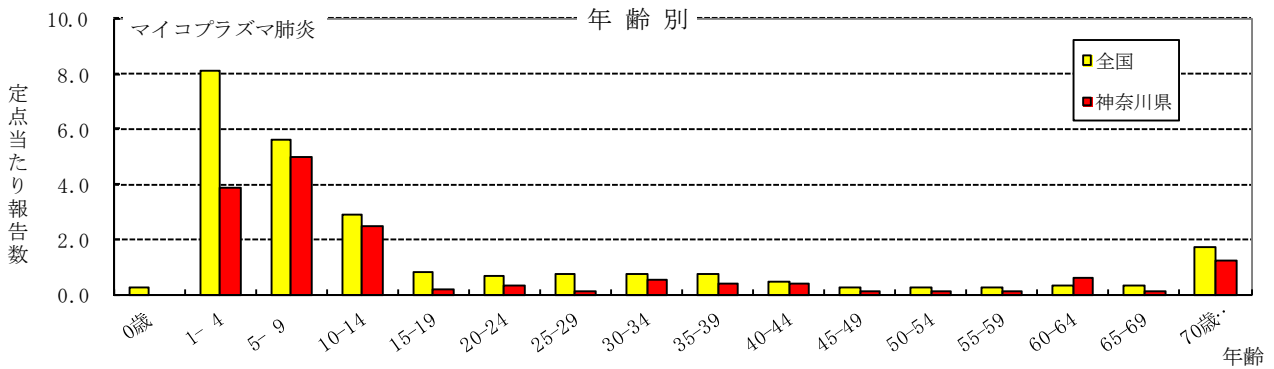
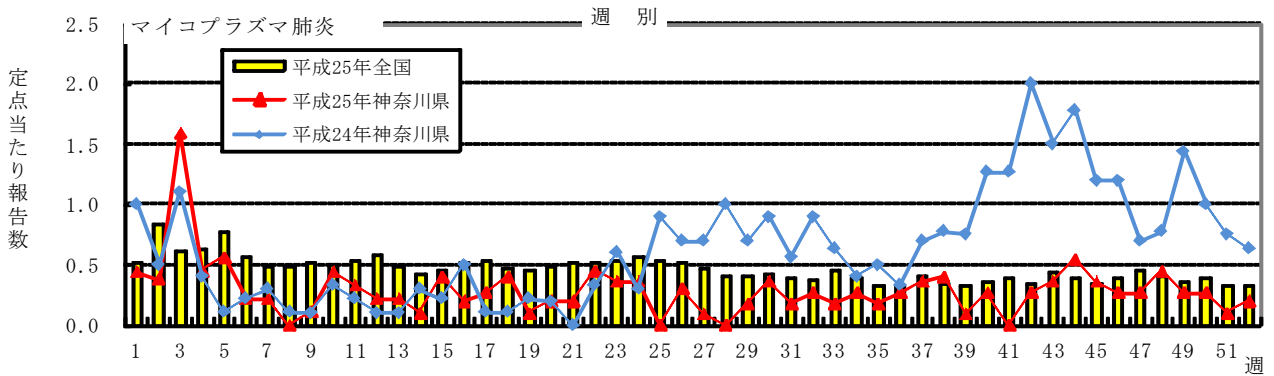
## 無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、0歳に報告が多かった。



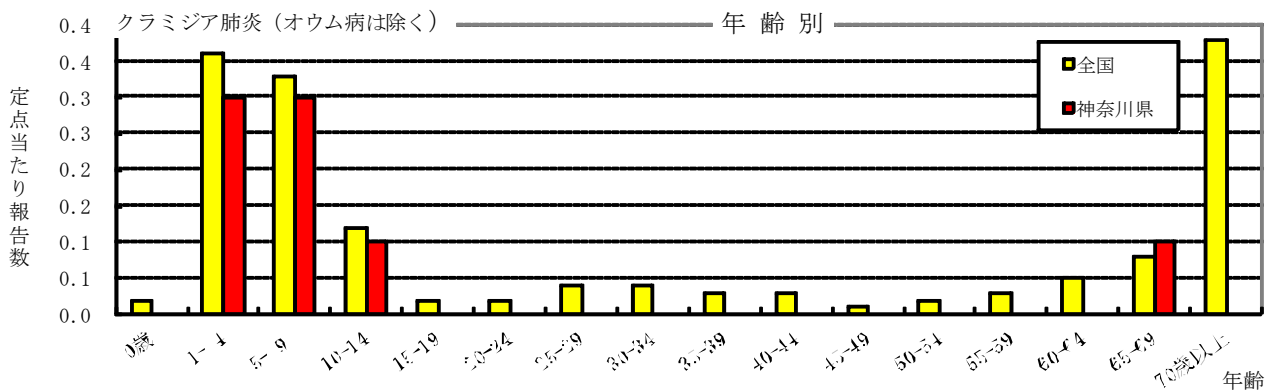
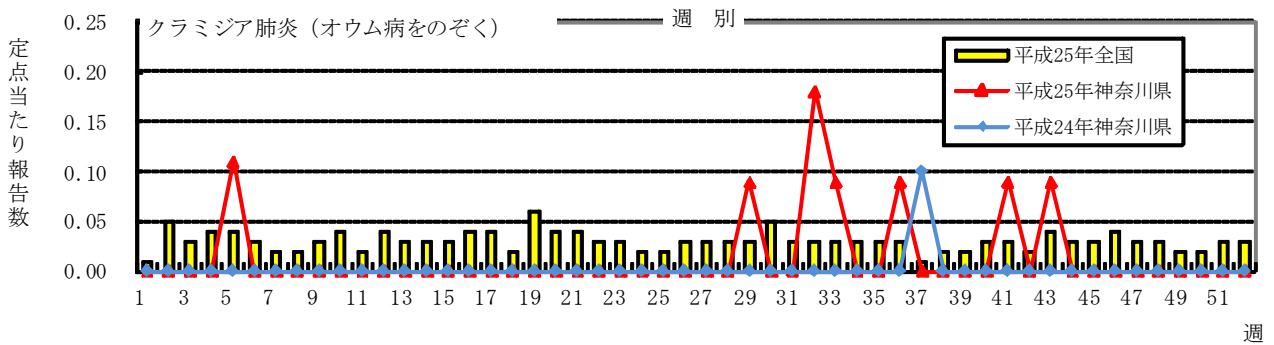
## マイコプラズマ肺炎

平成24年と比較し報告が少なかった。年齢別では、1歳から14歳を中心とした報告がみられた。



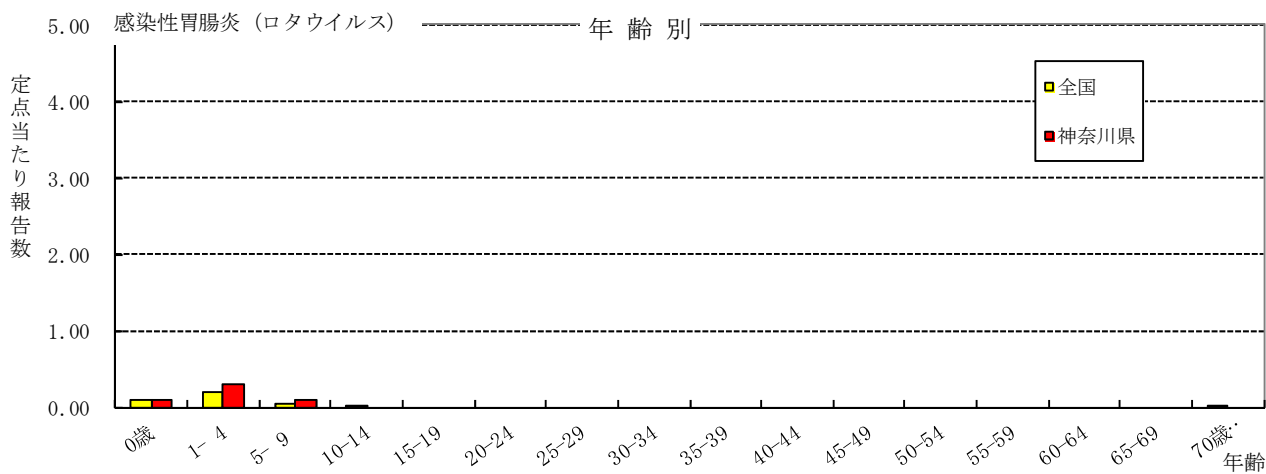
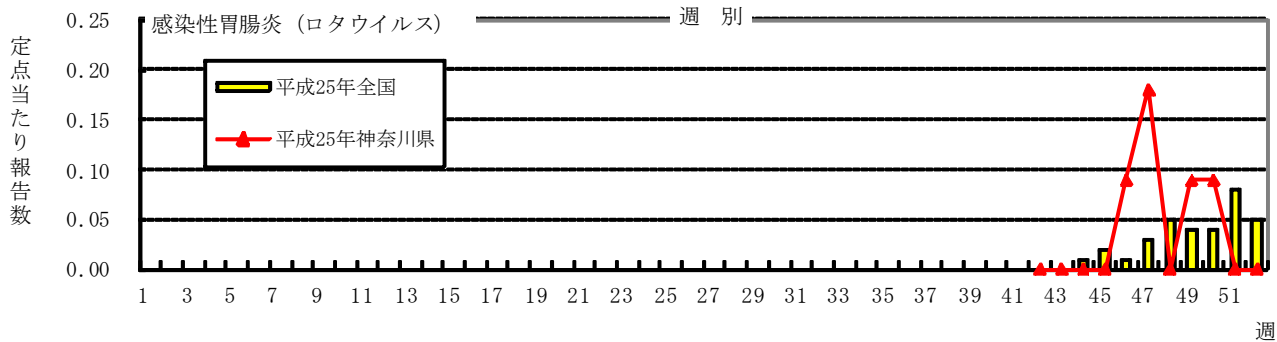
## クラミジア肺炎（オウム病を除く）

散発的な報告がみられた。年齢別では、1歳から9歳に報告が多くみられた。



### 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

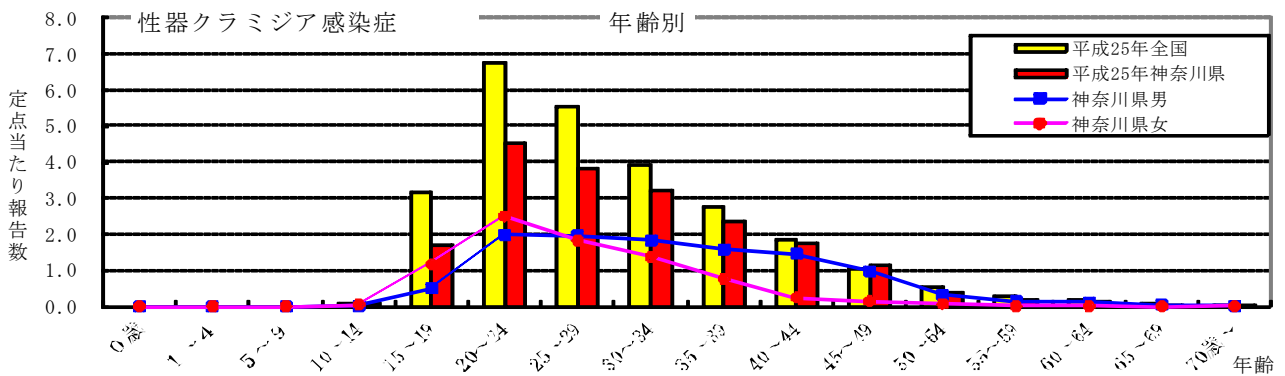
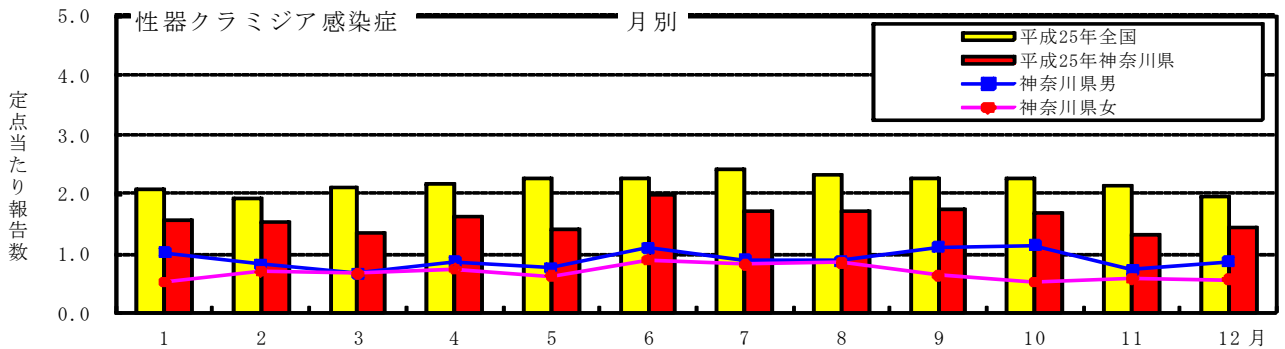
第42週から基幹定点把握疾患となり、散発的な報告がみられた。年齢別では、1歳から4歳の報告が多かった。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全県）

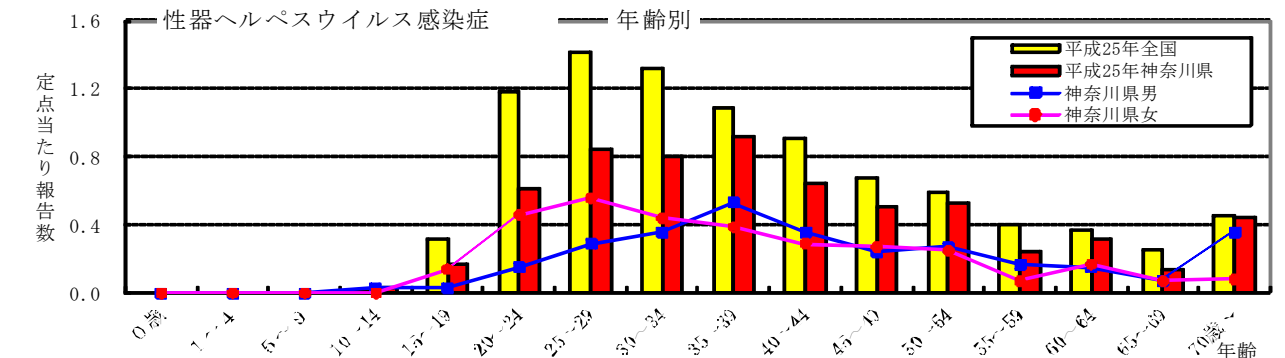
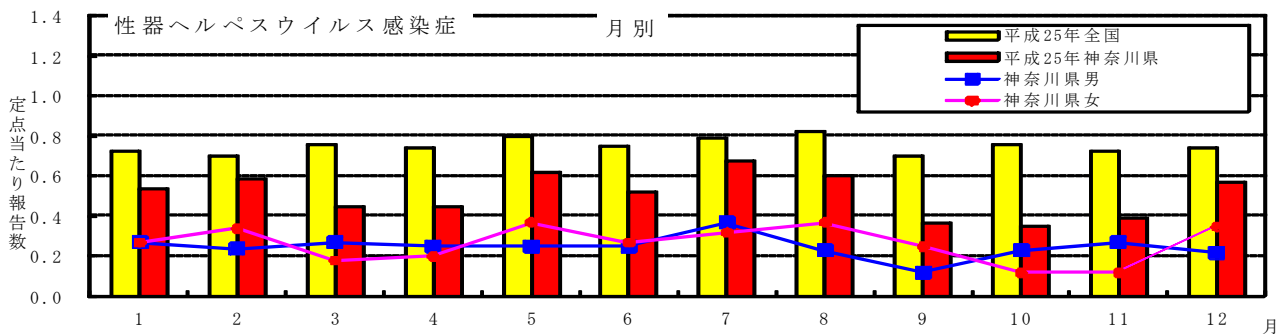
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が20歳から29歳、女性が20歳から24歳に報告が多かった。



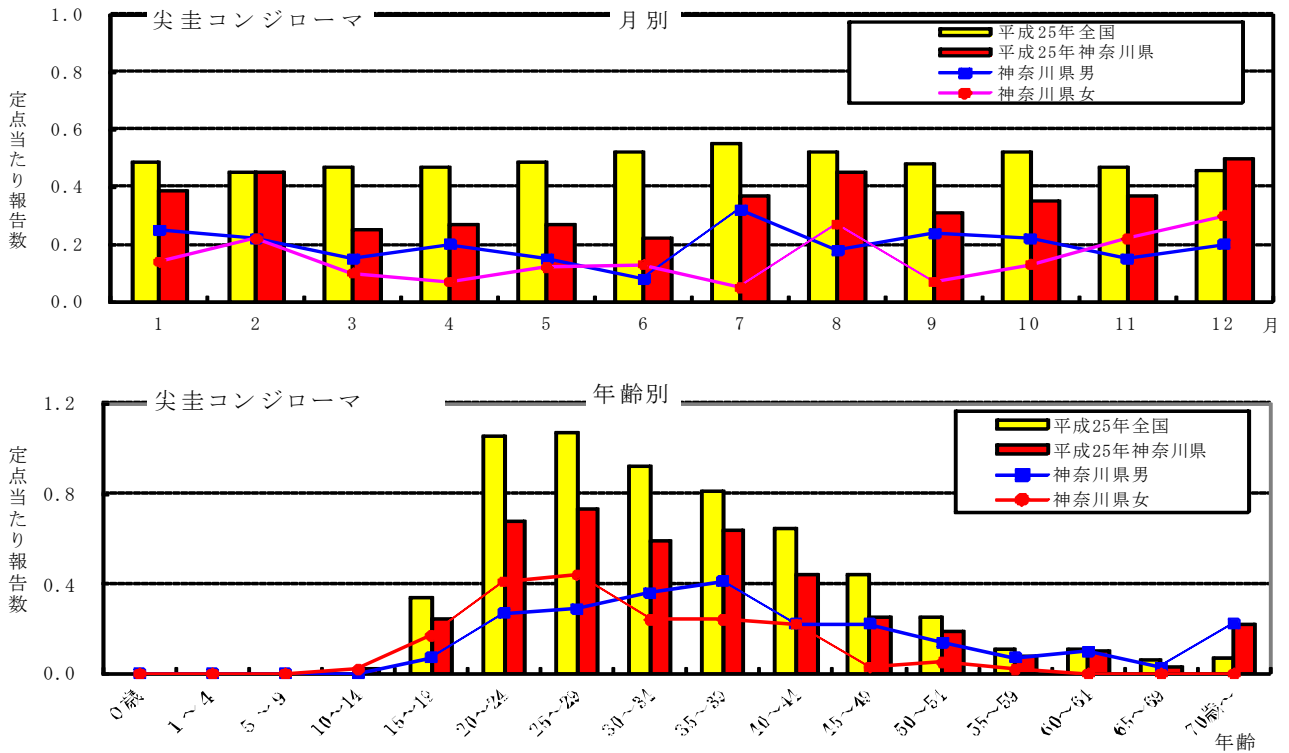
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が35歳から39歳、女性が25歳から29歳に報告が多かった。



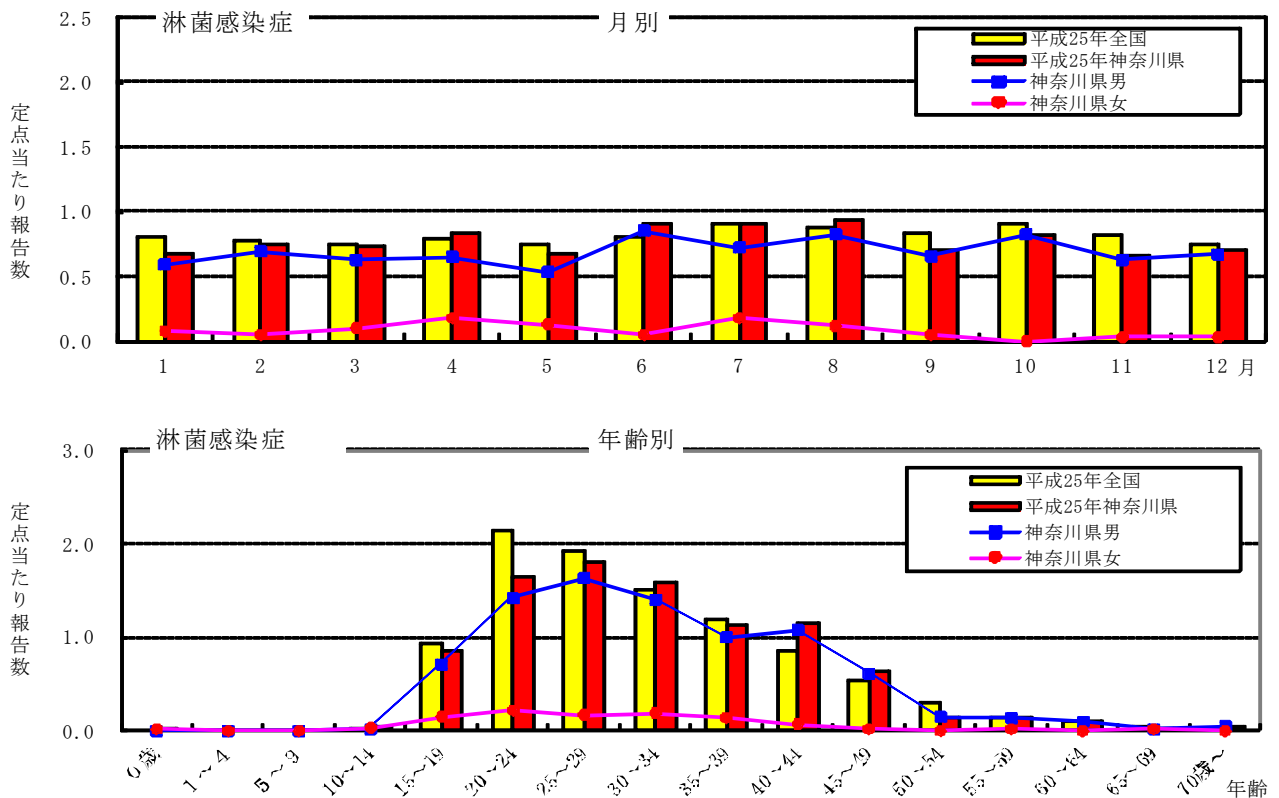
## 尖圭コンジローマ

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が35歳から39歳、女性が25歳から29歳に報告が多かった。



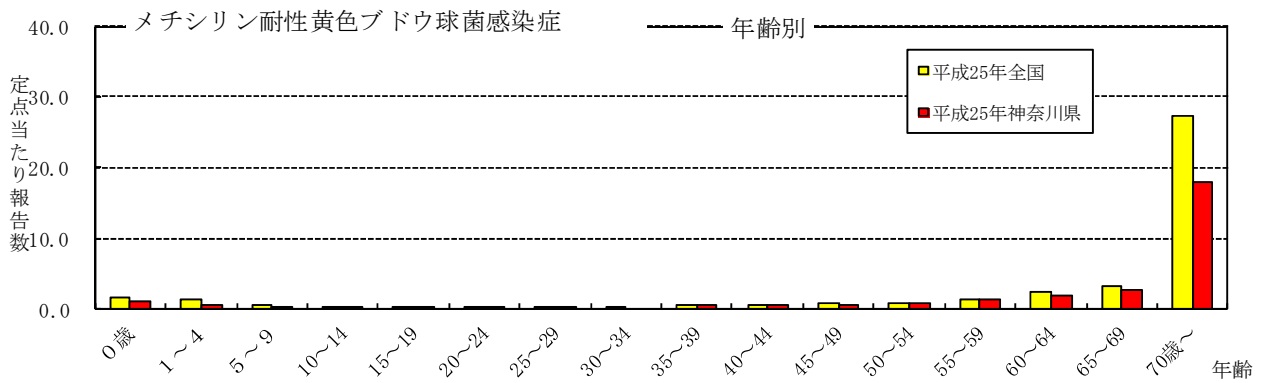
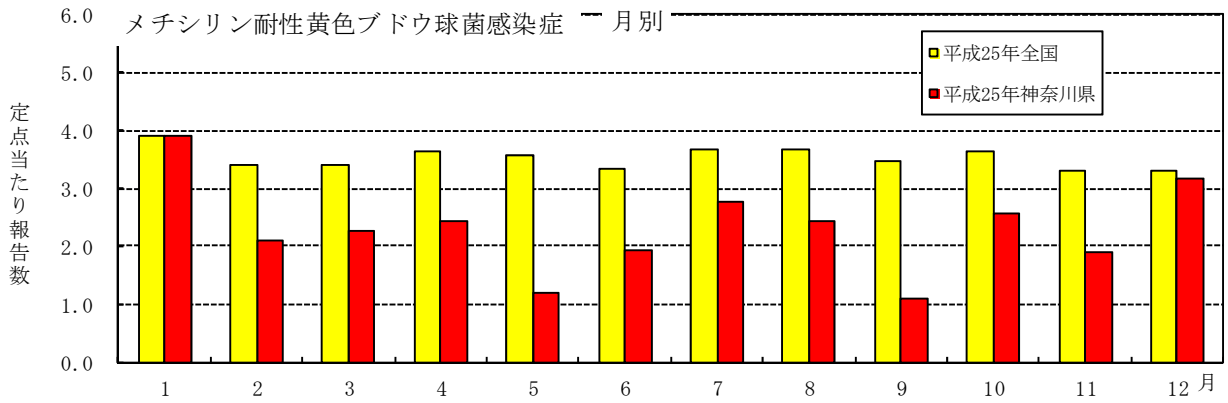
## 淋菌感染症

男性は年間を通して報告がみられたが、女性は年間を通して報告が少なかった。年齢別では、男性が25歳から29歳、女性が20歳から24歳に報告が多かった。



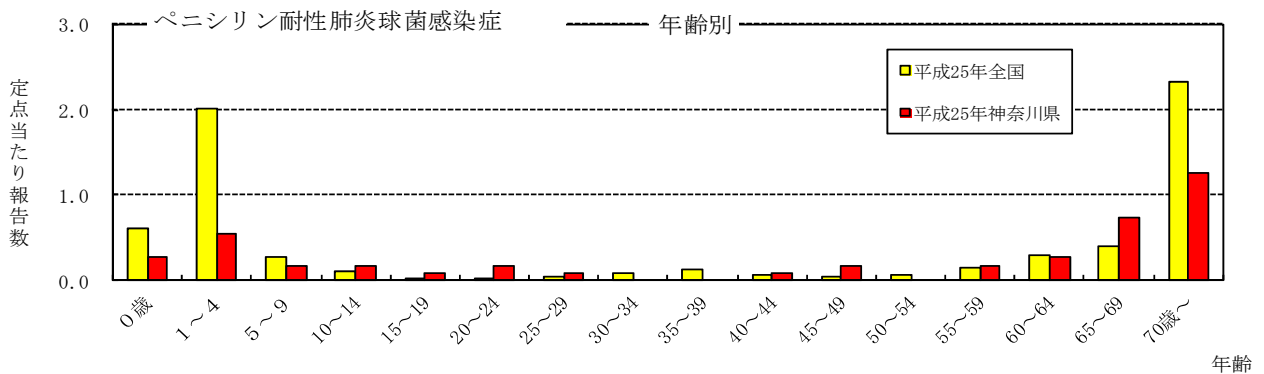
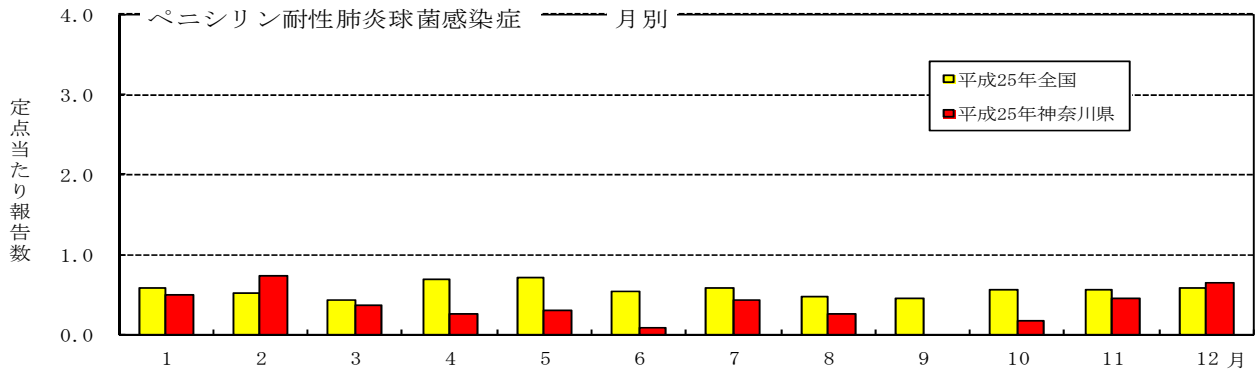
### メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



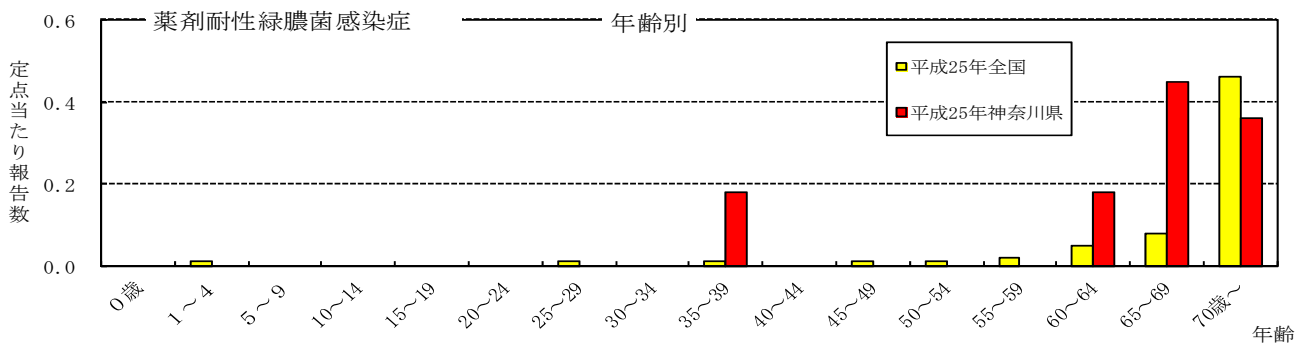
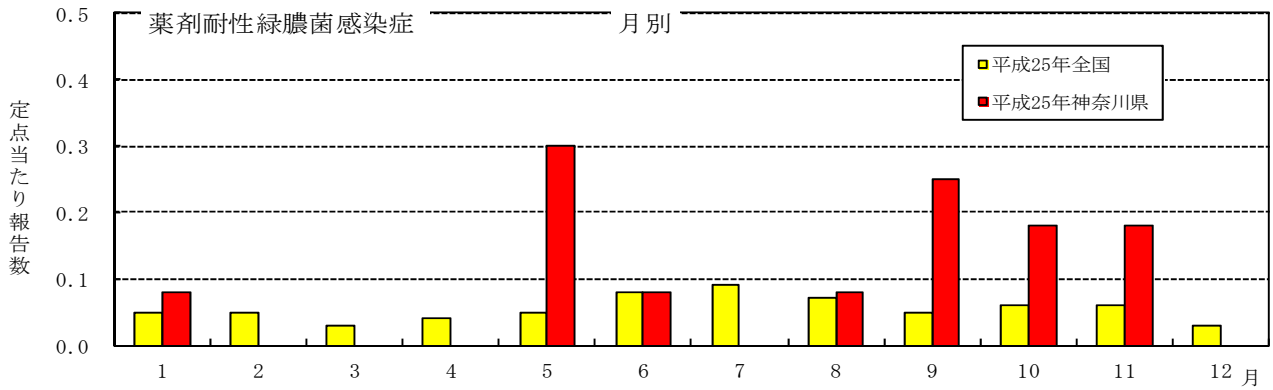
### ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2月と12月に報告が多かった。年齢別では、1歳から4歳と65歳以上に報告が多かった。



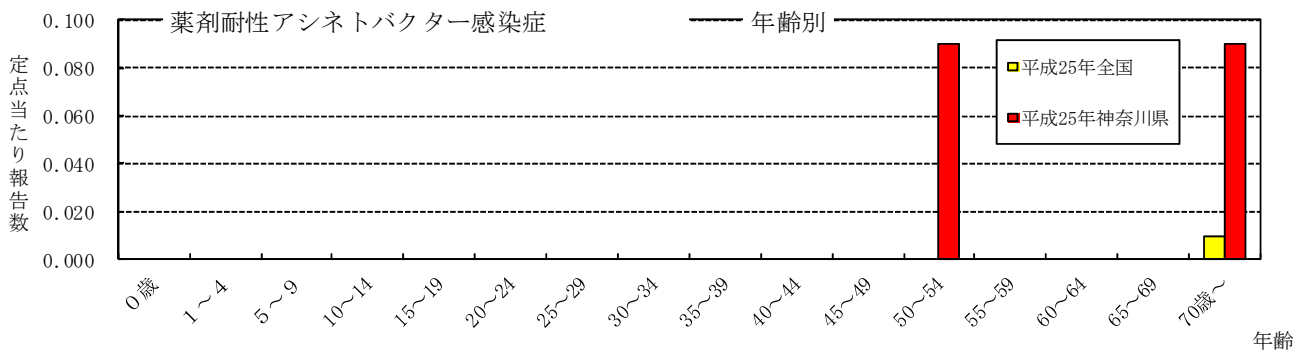
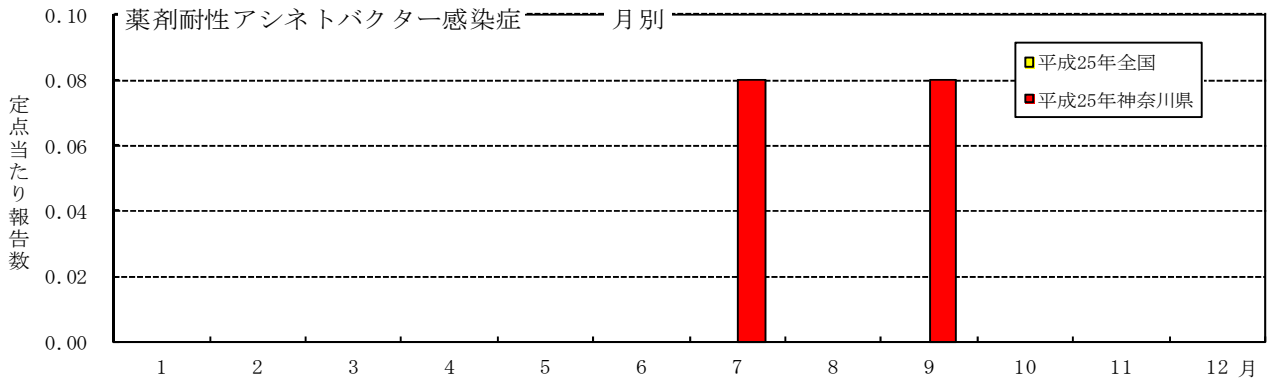
## 薬剤耐性緑膿菌感染症

5月と9月に報告が多かった。年齢別では、65歳以上に報告が多かった。



## 薬剤耐性アシネトバクター感染症

7月と9月に報告がみられた。年齢別では、50歳から54歳および70歳以上における報告がみられた。





### 3 トピックス

#### < 神奈川県 HIV/エイズの概要 > (速報値)

平成 25 年の神奈川県における新規登録 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 119 人であった（速報値であるため、6 ページにある後天性免疫不全症候群の報告数と異なる）。平成 24 年と比較し、感染者は増加したが、患者は減少した。（表 1）

表 1 新規登録 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移（神奈川県）

(人)

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	昭和60年からの累計
男性	総数	74	59	66	84	80	73	69	75	92	115	1,372
	感染者	46	41	44	52	59	51	49	51	60	87	898
	患者	28	18	22	32	21	22	20	24	32	28	474
女性	総数	8	10	12	12	12	8	8	8	8	4	252
	感染者	8	7	9	7	7	6	6	7	6	2	192
	患者	0	3	3	5	5	2	2	1	2	2	60
合計	総数	82	69	78	96	92	81	77	83	100	119	1,624
	感染者	54	48	53	59	66	57	55	58	66	89	1,090
	患者	28	21	25	37	26	24	22	25	34	30	534

(平成 25 年 12 月 31 日現在)

平成 25 年の HIV 検査実施件数は、前年比 0.1%増の 9217 件であった。（表 2）

表 2 HIV 検査実施件数年次推移

(件)

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
県域	1,247	1,553	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409	2,208	1,983
横浜市	3,197	3,601	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169	4,057	4,312
川崎市	2,077	1,943	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789	1,753	1,710
相模原市	401	477	434	585	559	584	486	491	499	227
横須賀市	299	293	298	440	352	322	340	262	262	538
藤沢市			115	192	388	367	383	436	430	447
合計	7,221	7,867	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556	9,209	9,217
前年比 (%)	12.8	8.9	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0	-3.6	0.1

\* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 25 年 12 月 31 日現在)

(※表 1・表 2 数値：県健康危機管理課提供)

＜ 資料 ＞

資料 1 平成 25 年全数把握対象感染症保健所別報告数

(平成 26 年 3 月現在)

(単位：件)

Table with 67 columns (2-67) representing infection categories and 26 rows (21-26) representing years and municipalities. The table includes a diagonal header for '感染症番号' and '感染症名', and a final column for '保健所別計'.

## < PART II > 平成 25 年地域における感染症発生状況の概要

### I 病原微生物検出状況

#### 1 ウイルス検出概況

平成 25 年に県内で検出されたウイルスは 1975 件で前年より減少した。月別検出状況は、新型インフルエンザ (AH1pdm09) が流行した平成 21 年を除き、例年、同じ傾向を示しているが、平成 25 年は 7 月の検出が高くなっている (図 1)。これは、手足口病の流行によるものと考えられ、神奈川県定点当たりの報告数のピークは第 30 週 (7/22~7/28) の 11.43 で、前年ピークの第 30 週 (7/23~7/29) の 1.24 よりかなり多く、患者から検出されたコクサッキーウイルス A6 の増加によるものである。

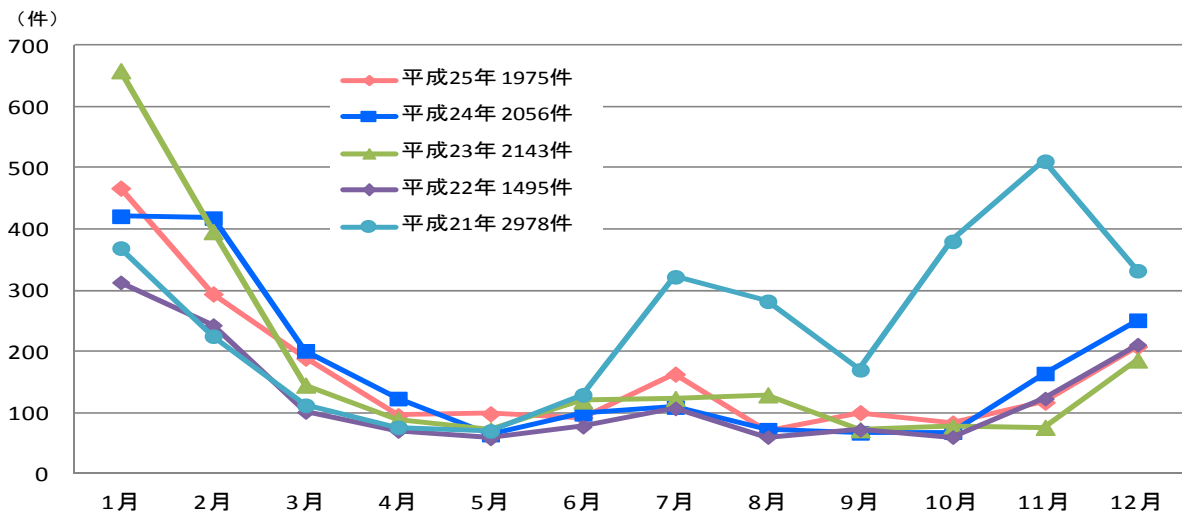


図 1 ウイルス月別検出状況年別比較

検出ウイルス種類別では、前年と同様にインフルエンザウイルス AH3 (31.9%) が最も多く検出され、次いでノロウイルス (15.1%)、インフルエンザウイルス B (7.2%) の順となり、前年 4 番目に多かったロタ (2.6%) に替り、平成 25 年に流行した手足口病から検出されたコクサッキーウイルス A6 (6.8%) が次に多かった。

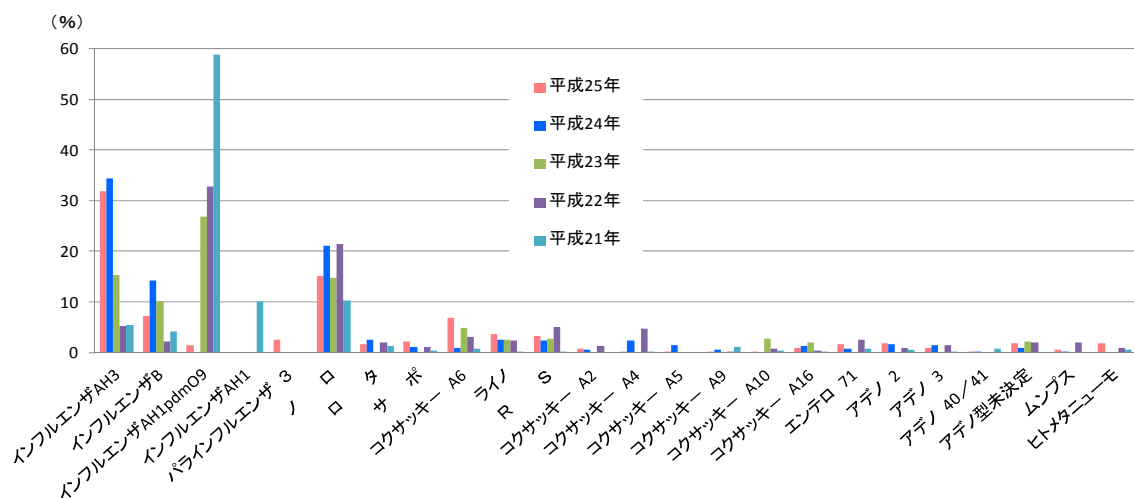


図 2 ウイルス年別検出割合比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況はウイルス等の検出状況表に記載。  
(伊東久美子)

## 2 病原細菌検出概況

平成 25 年に県内で検出された病原細菌は 749 件で前年より増加した。これは、腸管出血性大腸菌の検出が 221 件と前年の 132 件より大幅に増加したことによるものと思われる。月別では 6 月が検出数のピークを示した。海外渡航者からは例年、件数は少ないものの年間を通じて検出されているが、平成 25 年は、パラチフス A 菌、赤痢菌フレキシネル、赤痢菌ソンネ、チフス菌の検出の半数以上が海外渡航者からの検出であった（図 1）。

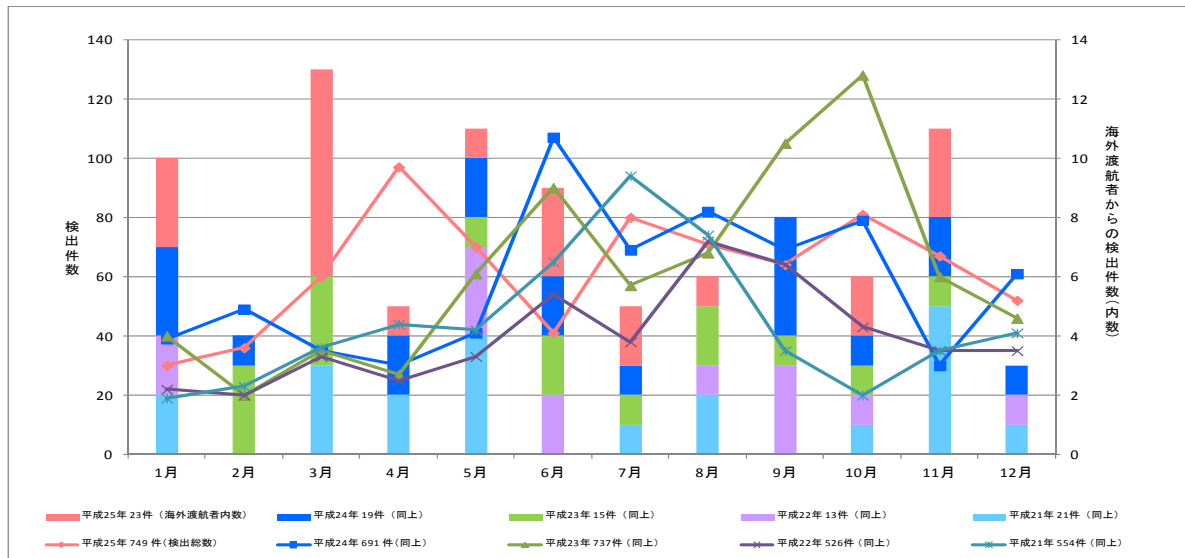


図 1 細菌月別検出状況年別比較

最も多く検出された病原細菌は、腸管出血性大腸菌の 29.5%で全体の 1/3 近くを占め、次いでレンサ球菌 A 群の 12.6%、カンピロバクター ジェジュニの 11.6%、黄色ブドウ球菌の 6.4%の順であった。（図 2）。

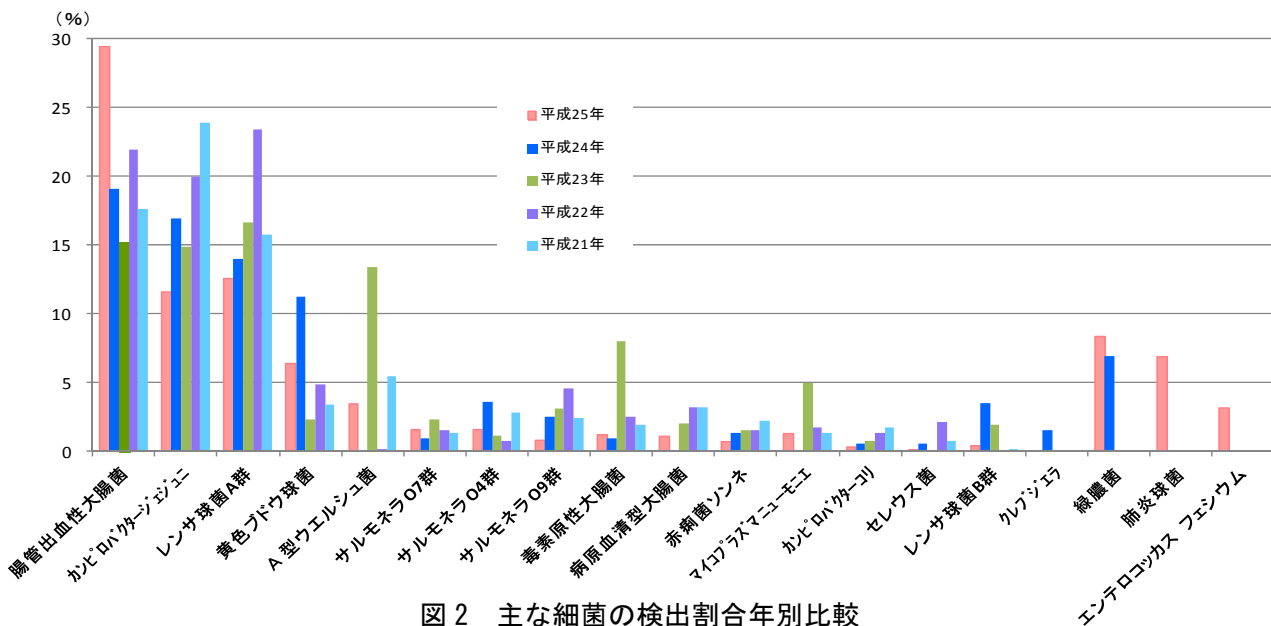


図 2 主な細菌の検出割合年別比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生試験所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は病原細菌検出状況表に記載。

(伊東久美子)

### 3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

#### 3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患						定点把握対象疾患											合計
	鳥インフルエンザ	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	風しん	麻しん※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他		
インフルエンザ AH1pdm09	1											27			1	29		
インフルエンザ AH3	1											625			4	630		
インフルエンザ B												132			10	142		
パラインフルエンザ 1															20	20		
パラインフルエンザ 2															8	8		
パラインフルエンザ 3							1								48	49		
R S							21								44	65		
ヒトメタニューモ															35	35		
コクサッキー A2										4					9	13		
コクサッキー A4										1						1		
コクサッキー A5									1	2						3		
コクサッキー A6							1		108	19				1	6	135		
コクサッキー A8										1					1	2		
コクサッキー A9														1	1	2		
コクサッキー A10										2						2		
コクサッキー A12										1						1		
コクサッキー A16									16					2		18		
コクサッキー B1										2				4	6	12		
コクサッキー B2															2	2		
コクサッキー B3														9	3	12		
コクサッキー B4										2	2			1		5		
コクサッキー B5										1				4		5		
エコー 6														1	4	5		
エコー 7									2					2	1	5		
エコー 9														1		1		
エコー 11														2		2		
エコー 18														4	1	5		
エコー 25									1						5	6		
エンテロ 68														2		2		
エンテロ 71										30	1			2	1	34		
パレコ 1										1						1		
パレコ 3														1		1		
ライノ							2			8		1		4	57	72		
ムンプス												8			1	9		
麻疹					6	4										10		
麻疹 D5						1										1		
麻疹 D8						2										2		
風疹						79										79		
アデノ 1								3	4				1	2	5	15		
アデノ 2								12	3	1	2		1	2	14	35		
アデノ 3								9	1				1		8	19		
アデノ 4								10				1	5		9	25		
アデノ 5										2	2				1	5		
アデノ 6															1	1		
アデノ 19													1			1		
アデノ 31									1							1		
アデノ 37														1		1		
アデノ 40/41									4							4		
アデノ 56												1		2		3		
アデノ（型未決定）						2	2	2					1		30	37		
単純ヘルペス 1										2	1				2	5		
単純ヘルペス 2															1	1		
サイトメガロ						3									1	4		
ヒトヘルペス 6						2									2	4		
ヒトヘルペス 7															3	3		
ロ タ									31							31		
ノ ロ									204							204		
サ ボ									137							137		
アストロ									2							2		
デ ン グ						4										4		
柯エンチア ヲツガムシ						7										7		
計	2	7	4	5	6	86	27	36	391	172	41	10	785	13	50	340	1975	

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	576	1	5	7			2				1		2	12	29
インフルエンザ AH3	327	704	356	181	54	5	3				2	4	7	18	630
インフルエンザ B	216	296	11	47	46	11	8					1	6	12	142
パラインフルエンザ 1	11	17				1	1	6	4		1	4	2	1	20
パラインフルエンザ 2	2	8										2	4	2	8
パラインフルエンザ 3	12	14				4	8	21	5	2	1	3	1	4	49
R S	61	47	2	5	4	2	2	2	1	1	7	10	12	17	65
ヒトメタニューモ	39	8	1	1	4	9	5	13	2						35
ポリオ 1	4	1													
ポリオ 2	1														
コクサッキー A2		10					2		4	2	4	1			13
コクサッキー A4		48										1			1
コクサッキー A5	10	31							3						3
コクサッキー A6	106	18	3	1		1		11	82	23	10	2	1	1	135
コクサッキー A8		3							1	1					2
コクサッキー A9	2	13							1	1					2
コクサッキー A10	58									1		1			2
コクサッキー A12	1								1						1
コクサッキー A16	45	26						3		3	3	4	2	3	18
コクサッキー B1	14	1							1	1	3	5	1	1	12
コクサッキー B2		1								1		1			2
コクサッキー B3								1	2	4	1	3	1		12
コクサッキー B4	1	2							3		1		1		5
コクサッキー B5	3								1	2	2				5
エコー 3	1														
エコー 6	10	21	1								4				5
エコー 7		7						2	3						5
エコー 9	2	2									1				1
エコー 11												1		1	2
エコー 18								1		1		3			5
エコー 25										2	2	1	1		6
エンテロ 68												2			2
エンテロ 71		16	2	1	1				4	6	10	9	1		34
エンテロ (型未決定)		4													
パレコ 1	5					1									1
パレコ 3	13										1				1
ライノ	55	52	1	1	7	9	7	2	8	1	5	10	17	4	72
ムンプス	6	4		1	1	1	1	1	1		1	1	1	1	9
麻疹	5		1		2	3					2			2	10
麻疹 D5										1					1
麻疹 D8										2					2
麻疹 ※	11	16	3	12	19	12	12	11	6		3	1			79
風疹 1E ※		1													
風疹 2B ※		19													
アデノ 1	1	7	1				3	1	3	3		2		2	15
アデノ 2	11	35	1		4	9	6	2	10				2	1	35
アデノ 3	27	29	2		1	1	2	2	2		1	2	5	1	19
アデノ 4	4	20	3		1	3	2	3	2	4	2			5	25
アデノ 5	3	3		1				1	2					1	5
アデノ 6	2	1	1												1
アデノ 8	22	1													
アデノ 19										1					1
アデノ 31		1					1								1
アデノ 33		1													
アデノ 37	1	1			1										1
アデノ 40/41	4	5					1	1					1	1	4
アデノ 53		2													
アデノ 54	1														
アデノ 56		4					1		1			1			3
アデノ (型未決定)	47	21		1	3	2	1				1		11	18	37
単純ヘルペス 1	8	8		2			1	1			1				5
単純ヘルペス 2								1							1
水痘・帯状疱疹		1													
サイトメガロ	3											3		1	4
ヒトヘルペス 6	1	4							2	1	1				4
ヒトヘルペス 7		1				2		1							3
ロタ	26	51		5	9	8	5	1	3						31
ノロ	318	432	72	24	28	5	10	2	3	3	28	1	30	92	298
サポ	31	23		5	4	5	13	2	2	1		2	2	7	43
アストロ	10	4					2								2
Dengue	3	5	1							1	1	1			4
オエンチア ツツガムシ	23	5										1	6		7
計	2131	2006	467	294	189	95	98	92	163	69	100	83	117	208	1975

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	デング熱	麻疹	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09										11			11
インフルエンザ AH3										291			291
インフルエンザ B										71			71
パラインフルエンザ 3				1									1
R S				7									7
コクサッキー A2								1					1
コクサッキー A4								1					1
コクサッキー A5							1	2					3
コクサッキー A6							70	12					82
コクサッキー A9												1	1
コクサッキー A10								1					1
コクサッキー A12								1					1
コクサッキー A16							15				1		16
コクサッキー B1											2		2
コクサッキー B3											4		4
コクサッキー B4							2	2					4
コクサッキー B5								1			1		2
エコー 7							2				1	1	4
エコー 18											1		1
エンテロ 68											1		1
エンテロ 71							24	1			1	1	27
ライノ							6		1		2	3	12
ムンプス									7				7
麻疹			4										4
風疹			32										32
アデノ 1					3						1		4
アデノ 2					12			1					13
アデノ 3					8								8
アデノ 4					8								8
アデノ 5							2	2					4
アデノ 56									1				1
アデノ（型未決定）						2							2
単純ヘルペス 1							2	1					3
単純ヘルペス 2												1	1
サイトメガロ												1	1
ロ タ						12							12
ノ ロ						79							79
サ ポ						32							32
アストロ						2							2
デング		1											1
オリエチア ツツガムシ	7												7
計	7	1	36	8	31	127	124	26	9	373	15	8	765

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	258		3	2			1						2	3	11
インフルエンザ AH3	136	343	191	73	10	1	1						6	9	291
インフルエンザ B	114	119	5	37	13	5	1						3	7	71
パラインフルエンザ 1	3														
パラインフルエンザ 2	1														
パラインフルエンザ 3		1							1						1
R S	20	4		3								1	2	1	7
ヒトメタニューモ	1														
ポリオ 1		1													
コクサッキー A2		5										1			1
コクサッキー A4		34										1			1
コクサッキー A5	8	20								3					3
コクサッキー A6	65	12	1	1		1		3	56	14	5		1		82
コクサッキー A9		4							1						1
コクサッキー A10	45									1					1
コクサッキー A12	1								1						1
コクサッキー A16	23	22						2		3	3	4	1	3	16
コクサッキー B1	7											2			2
コクサッキー B2		1													
コクサッキー B3									1	2	1				4
コクサッキー B4		1							3				1		4
コクサッキー B5	1								1	1					2
エコー 6	3	7													
エコー 7		1						2	2						4
エコー 9		1													
エコー 18												1			1
エンテロ 71		5	2	1	1				1	5	8	8	1		27
エンテロ 68												1			1
エンテロ（型未決定）		2													
パレコ 1	2														
パレコ 3	3														
ライノ	10	9			1		1	2	2	1	1	1	3		12
ムンプス	4	3		1	1	1		1	1		1			1	7
麻疹	1										2			2	4
風疹 ※	9	12	2	3	8	8	3	5	1		1	1			32
アデノ 1		3								1		1		2	4
アデノ 2	5	13			4	2	4	1	1				1		13
アデノ 3	7	14	2				1				1		3	1	8
アデノ 4	1		1			1	2		2					2	8
アデノ 5	1	2			1			1	2						4
アデノ 56							1								1
アデノ（型未決定）	11	6			1		1								2
単純ヘルペス 1	2	2		2				1							3
単純ヘルペス 2								1							1
水痘・帯状疱疹		1													
サイトメガロ												1			1
ヒトヘルペス 7		1													
ロ タ	16	33			3	7	1		1						12
ノ ロ	78	104	17	11	10		7	1	1				6	26	79
サ ボ	23	16		5	2		11	2	1	1		2	1	7	32
アストロ	10	4					2								2
デ ン グ		2									1				1
柯エンチ ツガムシ	23	5										1	6		7
計	892	813	224	139	55	26	37	22	82	29	25	25	37	64	765



3-3 横浜市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	性器ヘルペス	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09							4				1	5
インフルエンザ AH3							111				4	115
インフルエンザ B							25				10	35
パラインフルエンザ 1											20	20
パラインフルエンザ 2											8	8
パラインフルエンザ 3											48	48
R S	14										44	58
ヒトメタニューモ											35	35
コクサッキー A2					3						9	12
コクサッキー A6	1			29	7				1		6	44
コクサッキー A8					1						1	2
コクサッキー A10					1							1
コクサッキー B1					2				1		6	9
コクサッキー B2											2	2
コクサッキー B3									1		3	4
エコー 6											4	4
エコー 11									2			2
エコー 18											1	1
エコー 25											5	5
エンテロ 71				5								5
パレコ 1			1									1
ライノ	2										54	56
ムンプス						1					1	2
アデノ 1			1						1		5	7
アデノ 2					1			1	2		14	18
アデノ 3			1								8	9
アデノ 4		2					1	3			9	15
アデノ 5											1	1
アデノ 6											1	1
アデノ 37								1				1
アデノ（型未決定）	2	2									30	34
単純ヘルペス 1											2	2
ロ タ			6									6
ノ ロ			8									8
サ ポ			2									2
計	19	4	19	34	15	1	141	5	8		332	578

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	76	1	1									1			3	5
インフルエンザ AH3	51	107	45	43	18	2						2	3	1	1	115
インフルエンザ B	59	79		4	17	3	6						1	2	2	35
パラインフルエンザ 1	8	17				1	1	6	4			1	4	2	1	20
パラインフルエンザ 2	1	8											2	4	2	8
パラインフルエンザ 3	12	13				4	8	21	4	2	1	3	1	4	48	
R S	41	43	2	2	4	2	2	2	1	1	7	9	10	16	58	
ヒトメタニューモ	38	8	1	1	4	9	5	13	2						35	
ポリオ 1	4															
ポリオ 2	1															
コクサッキー A2		5					2		4	2	3	1			12	
コクサッキー A4		14														
コクサッキー A5	2	10														
コクサッキー A6	32	6	2					8	18	8	5	2		1	44	
コクサッキー A8		3							1	1					2	
コクサッキー A9	2	8														
コクサッキー A10	13												1		1	
コクサッキー A16	19	1														
コクサッキー B1	7								1	1	3	2	1	1	9	
コクサッキー B2										1		1			2	
コクサッキー B3									1			2	1		4	
エコー 3	1															
エコー 6	3	8									4				4	
エコー 7		4														
エコー 9	2															
エコー 11													1		1	2
エコー 18									1							1
エコー 25											2	1	1	1		5
エンテロ 71		11							2	1	1	1				5
パレコ 1	3					1										1
パレコ 3	10															
ライノ	45	43	1	1	6	9	6		4		4	9	12	4	56	
ムンプス		1											1	1		2
アデノ 1	1	3	1				2	1		2		1				7
アデノ 2	5	18	1			7	2	1	5				1	1		18
アデノ 3	19	14			1	1	1	2				2	2			9
アデノ 4	3	15	1		1	2		3		3	2			3		15
アデノ 5	2	1													1	1
アデノ 6	2	1	1													1
アデノ 37						1										1
アデノ 40/41	3	1														
アデノ（型未決定）	31	15		1	2	2							11	18		34
単純ヘルペス 1	5	5					1				1					2
ヒトヘルペス 6	1	1														
ロ タ	5	11		1	3		1	1								6
ノ ロ	14	18				1		1					1	5		8
サ ポ	4	2							1					1		2
計	525	495	56	53	56	45	37	60	48	24	36	47	52	64		578

3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	急性脳炎	麻疹	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09							6			6
インフルエンザ AH3							79			79
インフルエンザ B							14			14
コクサッキー A6						9				9
コクサッキー A9									1	1
コクサッキー A16						1				1
コクサッキー B3									2	2
コクサッキー B4									1	1
コクサッキー B5									2	2
エコー 9									1	1
エコー 18									2	2
エンテロ 71						1				1
パレコ 3									1	1
ライノ						2				2
麻疹 D5			1							1
風疹 1E ※			1							1
風疹 2B ※			30							30
アデノ 2						1				1
アデノ 3				1						1
アデノ 4								1		1
アデノ 40/41					1					1
サイトメガロ		3								3
ヒトヘルペス 6		2								2
ノロ					52					52
デング	3									3
計	3	5	32	1	53	14	99	1	10	218

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	87		1	1											4	6
インフルエンザ AH3	31	98	56	8	5	2	1						1		6	79
インフルエンザ B	18	43		4	5	2	1								2	14
コクサッキー A5		1														
コクサッキー A6	9									8	1					9
コクサッキー A9											1					1
コクサッキー A16	3	3												1		1
コクサッキー B3									1				1			2
コクサッキー B4	1											1				1
コクサッキー B5	1											2				2
エコー 6	4	3														
エコー 7		1														
エコー 9												1				1
エコー 18											1		1			2
エンテロ 71												1				1
パレコ 3												1				1
ライノ										2						2
ムンプス	1															
麻疹	2															
麻疹 D5												1				1
風疹 1E ※		1									1					1
風疹 2B ※		19	1	9	10	2	5	1	2							30
アデノ 1		1														
アデノ 2										1						1
アデノ 3		1								1						1
アデノ 4		2	1													1
アデノ 8	22															
アデノ 40/41	1	1							1							1
アデノ 53		2														
アデノ 56		2														
単純ヘルペス 1	1	1														
サイトメガロ	3												2		1	3
ヒトヘルペス 6		3								1		1				2
ロ タ		1														
ノ ロ	35	59	24	2							3			12	11	52
デ ン グ	3	3	1								1		1			3
計	222	245	84	24	20	6	7	3	16	8	7	6	13	24		218

※麻しんを疑う患者検体からの検出

### 3-5 相模原市衛生試験所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	麻疹	感染性 胃腸炎	インフル エンザ様	流行性 角結膜炎	合計
インフルエンザ AH3			9		9
インフルエンザ B			3		3
エコー 25		1			1
風疹 ※	6				6
アデノ 1		3		1	4
アデノ 2		3			3
アデノ 3				1	1
アデノ 31		1			1
アデノ 40/41		3			3
アデノ 56				2	2
ロ タ		13			13
ノ ロ		47			47
サ ポ		9			9
計	6	80	12	4	102

※麻疹を疑う患者検体からの検出

### 3-5 相模原市衛生試験所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計		
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
インフルエンザ AH1pdm09	23																
インフルエンザ AH3	11	25	3	5	1												9
インフルエンザ B	11	3			1	1									1		3
エコー 25												1					1
麻疹	2																
風疹 ※								3	1	1		1					6
アデノ 1								1		3							4
アデノ 2	1	4								3							3
アデノ 3	1									1							1
アデノ 4		1															
アデノ 31		1						1									1
アデノ 33		1															
アデノ 37	1	1															
アデノ 40/41		3						1						1	1		3
アデノ 56		2								1			1				2
ロ タ	5	6		4	3	1	3			2							13
ノ ロ	80	75	13	5	7					2			1	9	10		47
サ ポ	1	2			2	5	2										9
計	136	124	16	14	14	7	11	1	13			2	2	11	11		102

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	鳥インフルエンザ	麻しん	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09	1			5		6
インフルエンザ AH3	1			94		95
インフルエンザ B				18		18
風疹 ※		10				10
アデノ 4					1	1
アデノ 19					1	1
アデノ（型未決定）					1	1
サポ			94			94
計	2	10	94	117	3	226

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm	83			4			1							1	6
インフルエンザ AH3	87	102	41	35	17		1							1	95
インフルエンザ B	10	43	5	2	10									1	18
コクサッキー B1		1													
エコー 7		1													
エンテロ（型未定）		2													
風疹 ※				1	2	1	4	1		1					10
アデノ 4		2								1					1
アデノ 8		1													
アデノ 19										1					1
アデノ（型未決定）	5										1				1
ノロ	83	37	14	6	4	4					28		2	36	94
サポ		1													
計	268	190	60	47	32	6	3	4	1	2	30		2	39	226

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	風しん	麻しん	感染性胃腸炎	インフルエンザ様	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09				1		1
インフルエンザ AH3				41		41
インフルエンザ B				1		1
コクサッキー A16					1	1
コクサッキー B1					1	1
コクサッキー B3					2	2
コクサッキー B5					1	1
エコー 6					1	1
エコー 7					1	1
エコー 18					1	1
エンテロ 68					1	1
エンテロ 71					1	1
ライノ					2	2
麻疹	6					6
麻疹 D8		2				2
ヒトヘルペス 6					2	2
ヒトヘルペス 7					3	3
ノロ			18			18
計	6	2	18	43	17	86

3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成23年	平成24年	平成25年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	49													1	1
インフルエンザ AH3	11	29	20	17	3									1	41
インフルエンザ B	4	9	1												1
コクサッキー A9		1													
コクサッキー A16							1								1
コクサッキー B1											1				1
コクサッキー B3									2						2
コクサッキー B4		1													
コクサッキー B5	1									1					1
エコー 6		3	1												1
エコー 7								1							1
エコー 9		1													
エコー 18												1			1
エンテロ 68												1			1
エンテロ 71								1							1
ライノ													2		2
ムンプス	1														
麻疹			1	2	3										6
麻疹 D8										2					2
風疹 ※	2	4													
ヒトヘルペス 6									1	1					2
ヒトヘルペス 7		1			2		1								3
ノロ	28	139	4	7	3									4	18
サボ	3	2													
計	99	190	27	17	12	5	3	2	3	6		3	2	6	86

※麻しんを疑う患者検体からの検出

## 4 病原細菌検出状況表（ヒト由来、月別）

### 4-1 神奈川全県

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計										
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者									
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者					
腸管出血性大腸菌(EHEC)	112		132	3	1	4	2		6	9	31	57	46	55			221										
毒素原性大腸菌(ETEC)	59	3	7	2			2	2		2		3		1	1	1	9	4									
病原血清型大腸菌(EPEC)	15		2					1			1	3		1			2	8									
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)													1					1									
他の下痢原性 E. coli	1																										
チフス菌			4	3	2	2		1	1				2	1		1	1	8	5								
バラチフス A菌	3	3	1	1				1	1	1	1	2	2					4	4								
サルモネラ 04群	9		25				7	1	1		1		2				1	12	1								
サルモネラ 07群	17		7		1		7	2		1			1			1	1	12	2								
サルモネラ 08群	2		4				1	1		3								5									
サルモネラ 09群	23		17				3	1		1						2		6	1								
サルモネラ 03,10群	2																										
サルモネラ 030群											1								1								
サルモネラ 039群	2																										
サルモネラ 群不明																1			1								
リステリア モノサイトゲネス																1			1								
エルシニア エンテロコリチカ			2																								
コレラ菌 01	2	1	2	2																							
コレラ菌 non-01 & 0139	2		1	1																							
腸炎ビブリオ	1		8											1					1								
ビブリオ フルビアリス													1						1								
エロモナス ハイドロフィラ														2					2								
エロモナス ソブリア	1																										
エロモナス キャビエ	1		1																								
カンピロバクター ジェジュニ	110		117			4	3	4	12	4	9	2	1	8	28	12		87									
カンピロバクター コリ	6		4														2		2								
黄色ブドウ球菌	17		78		1	8	9	2	1	1	12	4		1	5	4		48									
A型ウエルシュ菌	99		1			1	14		1		2		1			7		26									
破傷風菌			1																								
セレウス菌			4											1					1								
赤痢菌フレキシネル	3		2	2	1	1								1	1	2	1		4	3							
赤痢菌ボイド			1	1																							
赤痢菌ソッネ	11	8	9	4				1		1	1	1	1	1			1		5	3							
レンサ球菌A群	123		97		12	10	11	7	13	12	5		5	2	5	12		94									
レンサ球菌B群	14		24				1								2				3								
レンサ球菌G群	1						2	1			2			1	1				7								
レンサ球菌 上記以外の群			1											1					1								
肺炎球菌	7		8		2	1		11	12	6	4	1	2	2	3	8		52									
エンテロコッカス フェーカリス	3		2																								
エンテロコッカス フェシウム	18		2			1			19	1	1	1				1			24								
百日咳菌	7		5									1	1	1	1				4								
レジオネラ ニューモフィラ	13		3								3		1	1					5								
緑膿菌			47					63											63								
結核菌	3		6		5	5		1											11								
マイコバクテリウム			1																								
インフルエンザ菌	13		9		1	1		1			1	1		1	1				7								
クレブジエラ ニューモニエ			10																								
髄膜炎菌					2															2							
マイコプラズマ ニューモニエ	37		45		2	1							3	1	3				10								
その他の細菌			1																								
計	737	15	691	19	30	3	36	60	7	97	1	70	1	41	3	80	2	71	1	64	81	2	67	3	52	749	23



4-2 神奈川県衛生研究所

年・月  菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	5	7							2	1		1	1	6			11	
毒素原性大腸菌(ETEC)	9	2									1						1	
サルモネラ 04群		3			1	1				1							3	
サルモネラ 07群	5	3																
サルモネラ 09群	5	4													1		1	
サルモネラ 群不明															1		1	
腸炎ビブリオ		1																
ビブリオ フルビアリス												1					1	
エロモナス ハイドロフィラ													1				1	
エロモナス ソブリア	1																	
エロモナス キャピエ	1	1																
カンピロバクター ジェジュニ	41	42			2	2	1	11	1	2			2	4	3		28	
カンピロバクター コリ	3	1														2	2	
黄色ブドウ球菌	3	8									1						1	
A型ウエルシュ菌					14												14	
セレウス菌													1				1	
赤痢菌ソルネ							1										1	
レンサ球菌A群	62	34	4	6		1	5	7	3		2	1	2	8		39		
レンサ球菌G群	1																	
レンサ球菌 上記以外の群		1											1				1	
肺炎球菌		1				1							1			1	3	
百日咳菌	7	5																
レジオネラ ニューモフィラ	4	1																
インフルエンザ菌	1																	
マイコプラズマ ニューモニエ	37	45	2	1								3	1	3			10	
その他の細菌		1																
計	185	160	6	9	17	5	18	10	7	1	7	14	11	14		119		

4-3 横浜市衛生研究所

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計									
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者								
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者				
腸管出血性大腸菌(EHEC)	64		92	2	1	4	1		3	5	12	18	12	21	3	1	81									
毒素原性大腸菌(ETEC)	43	3	3	1					2		1			1	1	1	5	2								
病原血清型大腸菌(EPEC)	9		2				1			1							2									
他の下痢原性 E.coli	1																									
チフス菌			2	2	2	2	1	1			1	1		1	1	1	7	5								
バラチフス A菌	3	3	1	1					1	1	1	1					2	2								
サルモネラ 04群	8		16				5	1					2			1	8	1								
サルモネラ 07群	11		3				7	2								1	8	2								
サルモネラ 08群	1		2				1	1		2							4									
サルモネラ 09群	17		11				3	1		1					1		5	1								
サルモネラ 03,10群	2																									
サルモネラ 030群											1						1									
リステリア モノサイトゲネス															1		1									
コレラ菌 01	2	1	2	2																						
コレラ菌 non-01 & 0139	2																									
腸炎ビブリオ			6																							
エロモナス ハイドロフィラ														1			1									
カンピロバクター ジェジュニ	38		47			2		2		1	1		1	1	20	6	34									
黄色ブドウ球菌			40		1	3	8				9	4		1	4	3	33									
A型ウエルシュ菌	88							1			1					7	9									
破傷風菌			1																							
赤痢菌フレキシネル	2		1	1	1	1								1	1	2	4	3								
赤痢菌ボイド			1	1																						
赤痢菌ゾンネ	10	7	5	3						1	1	1	1			1	4	3								
レンサ球菌A群	55		57		4	4	6	5	7	5	2		2	1	3	4	43									
レンサ球菌B群	14		24				1								2		3									
レンサ球菌G群							2	1							1		4									
肺炎球菌	7		7		2	1		9	12	6	4	1	2	1	3	7	48									
エンテロコッカス フェーカリス	3		2																							
エンテロコッカス フェシウム	18		2			1			19	1	1	1				1	24									
百日咳菌												1	1	1	1		4									
レジオネラ ニューモフィラ	9		2								2		1				3									
緑膿菌			47					63									63									
結核菌	3		5		5	5		1									11									
マイコバクテリウム			1																							
インフルエンザ菌	12		9		1	1		1			1	1		1	1		7									
クレブジエラ ニューモニエ			10																							
髄膜炎菌					2												2									
計	422	14	401	13	19	3	21	32	5	86	47	1	23	2	37	2	29	1	20	31	2	44	3	32	421	19

4-4 川崎市健康安全研究所

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者			うち海外渡航者	
腸管出血性大腸菌(EHEC)	32		24						1	2	12	36	33	28	6		118			
毒素原性大腸菌(ETEC)	3										1						1			
病原血清型大腸菌(EPEC)	1																			
チフス菌			2	1							1						1			
パラチフス A菌							1	1		1	1						2	2		
サルモネラ 04群			1																	
サルモネラ 07群	1														1		1			
サルモネラ 08群			1																	
サルモネラ 09群	1		1																	
エルシニア エンテロコリチカ			2																	
腸炎ビブリオ	1		1																	
カンピロバクター ジェジュニ	21		18		1	1			2	4	1			4	2	2	17			
カンピロバクター コリ			2																	
黄色ブドウ球菌			13				2	1	1	1					1		6			
赤痢菌フレキシネル			1	1																
赤痢菌ソクネ			2																	
レンサ球菌A群	6		4	4	4	1	1						1				11			
レンサ球菌G群											2			1			3			
計	66		72	2	4		5	5	1	3	6	1	21	37	34	33	10	2	160	2

4-5 相模原市衛生試験所

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計			
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者		
					うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者	うち海外渡航者				
腸管出血性大腸菌(EHEC)	5										1	1							2	
毒素原性大腸菌(ETEC)	4																			
サルモネラ 08群	1																			
サルモネラ 09群			1																	
カンピロバクター ジェジュニ	2		8								2				2				4	
カンピロバクター コリ	2		1																	
黄色ブドウ球菌	7		6								1								1	
A型ウエルシュ菌	1										1								1	
セレウス菌			3																	
赤痢菌フレキシネル	1																			
赤痢菌ソクネ			2	1																
レンサ球菌A群			2				1												1	
レジオネラ ニューモフィラ											1			1					2	
計	23		23	1			1				6	1			1		2		11	

4-6 横須賀市健康安全科学センター

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	5		4				1				6	1						8	
毒素原性大腸菌(ETEC)			1	1			2	2										2	2
病原血清型大腸菌(EPEC)	5										3		1			2		6	
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)													1					1	
サルモネラ 04群			1				1											1	
サルモネラ 07群			1	1					1			1						3	
サルモネラ 039群	2																		
腸炎ビブリオ														1				1	
カンピロバクター ジェジュニ			2						1							1		2	
黄色ブドウ球菌	1		5			5	1									1		7	
A型ウエルシュ菌						1							1					2	
セラウス菌			1																
結核菌			1																
計	13		16	1	1	6	5	2		2		9	2	3	1		4	33	2

4-7 藤沢市保健所

年・月 菌種・菌型	平成23年		平成24年		平成25年												合計		
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		5	1						1								1	
毒素原性大腸菌(ETEC)			1																
サルモネラ 04群	1		4																
サルモネラ 08群			1							1								1	
コレラ菌 non-01 & 0139			1	1															
カンピロバクター ジェジュニ	8											1		1				2	
カンピロバクター コリ	1																		
黄色ブドウ球菌	6		6																
A型ウエルシュ菌	10		1																
赤痢菌ソクネ	1	1																	
肺炎球菌							1											1	
計	28	1	19	2				1		2		1		1				5	

## II 地域における感染症発生状況の分析

### 1 ウイルス性感染症

#### (1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 25 年は第 4 週に流行のピークがみられ、年齢別では、10 歳から 14 歳に報告が多かった。

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

2012/2013 シーズン（2012 年 35 週～2013 年 34 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2013 年 4 月以降も少ないながら報告が続いていたが、18 週（4/29～5/5）に定点あたりの報告数が 1.0 人を下回った後は再び 1.0 人を超えることなく、2013/2014 シーズン（2013 年 35 週～2014 年 34 週）をむかえた。2013/2014 シーズンの県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2013 年 52 週（12/23～29）に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人を超えた後、2014 年 2 週（1/6～12）以降報告数が急増して流行期に入った。定点あたり報告数のピークは 5 週（1/27～2/2）の 47.88 人であった。その後、患者数は減少傾向となり、13 週（3/24～30）に定点あたり報告数が注意報レベルの 10.0 人を下回った後は、徐々に終息に向かっている。（図 1）

感染症発生動向調査病原体定点（藤沢市からの一般依頼を含む）からの依頼検体 434 件についてウイルス分離を実施し、一部の検体についてはインフルエンザウイルス遺伝子検出も併せて実施した。2013 年 4 月～8 月には 11 例の検査を行い 1 例から AH1pdm09 が、1 例から A 香港 (H3) 型が、5 例から B 型が検出された。9 月～12 月には 25 例の検査を行い、5 例から AH1pdm09 が、13 例から A 香港 (H3) 型が、4 例から B 型が検出された。2014 年 1 月～3 月には 385 例の検査を行い、134 例から AH1pdm09 が、33 例から A 香港 (H3) 型が、140 例から B 型が検出された。

基幹定点医療機関にインフルエンザで入院した患者（入院サーベイランス）検体について、インフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。検体数は、2013 年 4 月 1 例、2014 年 1 月 7 例、2 月 5 例、3 月 7 例の計 20 例であった。2013 年 4 月は 1 例から B 型が、2014 年 1 月は 4 例から AH1pdm09 が、1 例から A 香港 (H3) 型が、1 例から B 型が、2 月は 1 例から AH1pdm09、3 例から B 型が、3 月は 1 例から AH1pdm09 が、1 例から A 香港 (H3) 型が、2 例から B 型が検出された。

集団かぜ調査は、県域各保健所及び藤沢市保健所管内の初発 1 集団ずつを対象とし、10 集団 47 例についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは 2013 年 11 月に発生したがインフルエンザウイルスは検出されず、その後発生した 11 月と 12 月の各 1 集団から B 型が検出された。2014 年 1 月に発生した 7 集団からは、AH1pdm09 が 2 集団の 6 例から、B 型が 5 集団 23 例から検出された。

2013/2014 シーズンは、2 シーズンぶりに AH1pdm09 が流行し、A 香港 (H3) 型と B 型と共に 3 種類の混合流行となった。2013 年 9 月から 2014 年 3 月までに検出されたウイルスの内訳は、AH1pdm09 が 151 例（40%）、A 香港 (H3) 型が 48 例（13%）、B 型が 179 例（47%）となり、B 型が主流株となった。B 型の分離ウイルス 109 株のうち、ワクチン株と同じ山形系統株が 85 株、ビクトリア系統株が 24 株となり、2012/2013 シーズンに引き続き山形系統株の割合が多かった。

AH1pdm09 分離株 81 株についてオセルタミビル耐性変異株のスクリーニングを行ったところ、3 株（3.7%）の変異株を検出した。これら 3 株について国立感染症研究所で薬剤感受性試験を行ったところ、

3株共にオセルタミビルとペラミビルに対して耐性を示した。このうちの2株（2013年11月と12月の分離株）は散发例で治療歴のない症例から検出され、互いの関連性は認められなかった。また、11月の分離株1例について国立感染症研究所でNA遺伝子の系統樹解析を行ったところ、同時期に札幌市や中国で検出された薬剤耐性変異株と同じグループに分類されることがわかった。残りの1株は2014年1月に発生した集団事例からの検出であり、タミフルによる治療開始後4日目に採取された検体から得られた。同集団事例の他の患者からは感受性株が得られており、この1株は治療により耐性変異を獲得した可能性が高いと考えられた。

2013年3月に中国において鳥インフルエンザA(H7N9)に対するヒトでの発症、流行事例が報告されたことに伴い、A(H7N9)疑い症例について通年で検査対応を行っている。2013/2014シーズンは、2013年12月に1例の検査を行い、A香港(H3)型が検出された。鳥インフルエンザA(H7N9)については、感染源や病原性、伝搬性などまだ不明な点が多く、流行状況を予測することは難しい。今後も季節性インフルエンザとともに鳥インフルエンザについても動向を監視していく必要がある。

(渡邊寿美、佐野貴子、伊達佳美、近藤真規子、黒木俊郎)

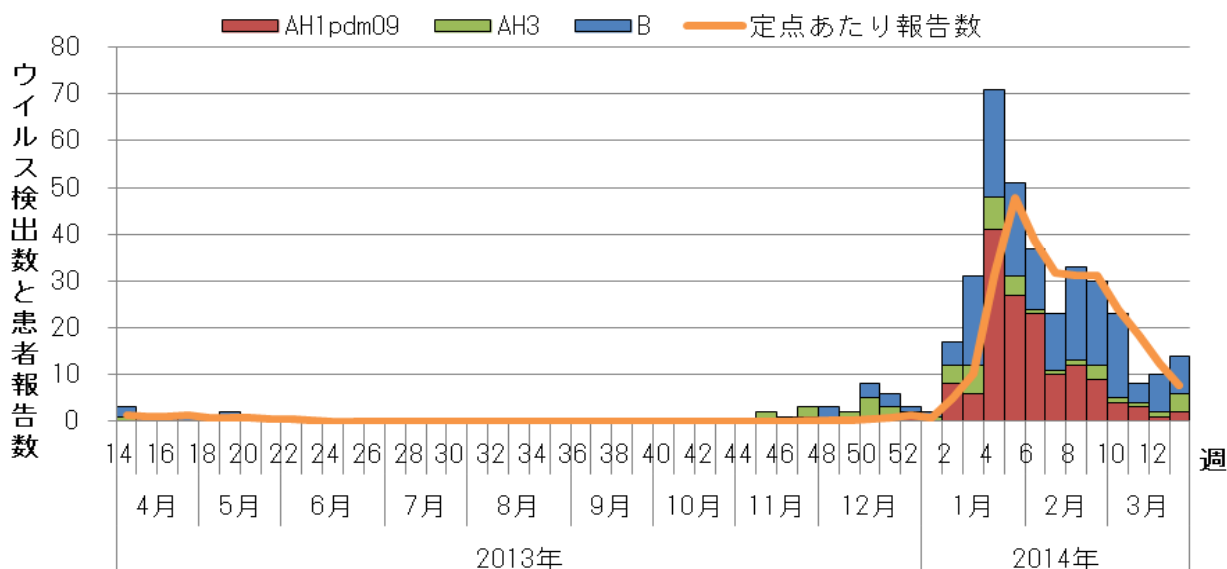


図1 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

② 横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

横浜市結核・感染症発生動向調査による平成 25 年 6 月から平成 26 年 5 月までのインフルエンザ様疾患患者数は 44, 953 人と昨シーズン同期間における 28, 016 人を上回り、過去 10 年では 3 番目の規模の流行であった。定点あたり患者数は 12 月第 51 週に流行の目安となる定点あたり 1.0 人を超え、2 月第 5 週に 48.5 人と最大の報告数となった。2 月第 7 週には 26.9 人まで減少したが、翌週は上昇に転じ 3 月第 9 週に 30.7 人となった。その後、徐々に減少し 5 月第 18 週に定点あたり 1.0 人を下回った (図 1)。

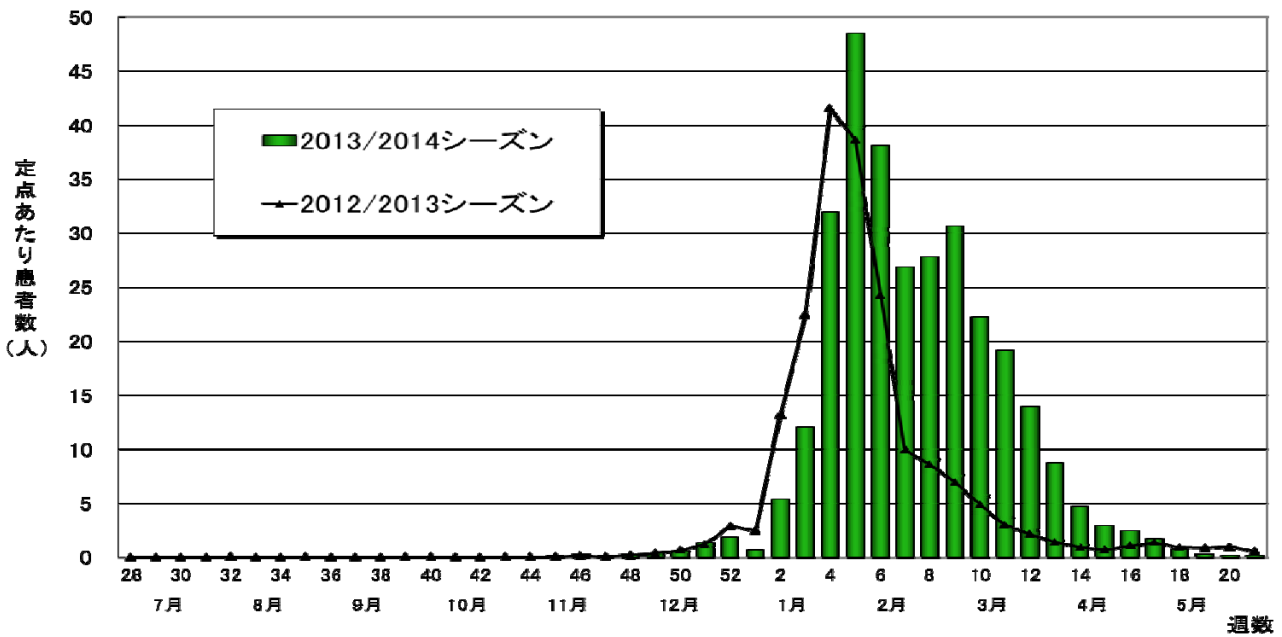


図 1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

表 1 インフルエンザのウイルス分離および遺伝子検査結果

調査の内訳	検体数	インフルエンザ陽性数	AH1pdm09	AH3 型	B 型 (山形)	B 型 (ビクトリア)
クラスターサーベイランス (集団かぜ調査)	68	65 <sup>1)</sup>	15	5	38	7
入院・重症サーベイランス	81	22	16	3	3	0
病原体定点調査	607	178 <sup>2)</sup>	46	17	86	29
その他 (依頼)	25	0	0	0	0	0
合計	781	265	77	25	127	36

1) B 型 (山形系統) と A 型 N2 遺伝子の重複 1 件を含む

2) B 型 (ビクトリア系統) と AH1pdm09 ウイルスの重複 1 件、B 型 (山形系統) と Adeno ウイルス 2 型の重複 1 件、B 型 (ビクトリア系統) と Adeno ウイルス 3 型、ヒトコロナウイルス遺伝子との重複 1 件を含む

平成 25 年 6 月から平成 26 年 5 月までの検査数と分離・検出数を表 1 に示す。全調査の合計は 781 件で、山形系統の B 型ウイルス 127 件、AH1pdm09 ウイルス 77 件、ビクトリア系統の B 型ウイルス 36 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 25 件が分離・検出された。

集団発生を監視するクラスターサーベイランスにおいては、平成 25 年 12 月 11 日 (第 50 週) に戸塚区の小学校から、翌 12 日には南区の小学校から報告があり、前者は AH1pdm09 ウイルスが、後者はビクトリア系統の B 型ウイルスが分離・検出された。その後、流行期に入った 1 月第 3 週に市内 18 区中 7 集団、第 4 週に 8 集団の発生がみられピークを示した。終息までの発生数は 18 区 747 施設 887 学級であった。検査依頼のあった 19 集団 68 人についてウイルス学的調査を実施し、AH1pdm09 ウイルス、A 香港 (H3) 型ウイルス、山形系統とビクトリア系統の B 型ウイルスが混在して分離・検出された (表 2)。

表 2 集団 発生 調査 の 検査

発 生 年 月 日	週	区	施 設	〈ウイルス分離〉			〈遺伝子検索〉				総 合 判 定	
				検 体 数	分 離 株 数	ウ イ ル ス 型	分 離 陰 性 検 体 数	HA 遺 伝 子 件 数	NA 遺 伝 子 件 数	件 数		
平成25年	12.11	第50週	戸塚 小学校	4	4	AH1pdm	0	—*	0	—	0	AH1pdm
	12.12	第50週	南 小学校	3	2	B(ビクトリア)	1	陰性	0	陰性	0	B(ビクトリア)
平成26年	1.9	第2週	栄 高齢者施設	1	1	AH3	0	—	0	—	0	AH3
	1.14	第3週	青葉 保育園	3	0	—	3	B(山形)	2	陰性	0	B(山形)
	1.14	第3週	港南 中学校	4	1	AH1pdm B(山形)	0	—	0	—	0	AH1pdm & B(山形)
	1.15	第3週	鶴見 小学校	4	4	AH1pdm	0	—	0	—	0	AH1pdm
	1.15	第3週	旭 中学校	5	5	B(山形)	0	—	0	—	0	B(山形)
	1.16	第3週	緑 幼稚園	5	3	B(山形)	2	B(山形)	1	—	0	B(山形)
	1.16	第3週	泉 保育園	3	3	B(ビクトリア)	0	—	0	—	0	B(ビクトリア)
	1.16	第3週	西 保育園	2	2	AH1pdm	0	—	0	—	1	AH1pdm
	1.20	第4週	金沢 中学校	3	3	AH3	0	—	0	—	0	AH3
	1.21	第4週	中 小学校	5	2	B(山形) B(ビクトリア)	1	B(山形)	1	—	0	B(山形) & B(ビクトリア)
	1.21	第4週	磯子 小学校	4	4	B(山形)	0	—	0	—	0	B(山形)
	1.22	第4週	保土ヶ谷 小学校	5	5	B(山形)	0	—	0	—	0	B(山形)
	1.22	第4週	都筑 小学校	3	1	AH3	2	B(山形)	2	—	0	AH3 & B(山形)
	1.22	第4週	瀬谷 中学校	2	1	B(山形)	1	B(山形)	1	陰性	0	B(山形)
	1.22	第4週	港北 小学校	3	1	AH1pdm B(山形)	0	—	0	—	0	AH1pdm & B(山形)
	1.23	第4週	神奈川 小学校	5	3	AH1pdm B(山形)	0	—	0	N2**	1	AH1pdm & B(山形)
	1.30	第5週	栄 幼稚園	4	4	B(山形)	0	—	0	—	0	B(山形)
合計			18区 19施設	68件	58株	B(山形) 31 AH1pdm 15 B(ビクトリア) 7 AH3 5	10件	B(山形)	7	N2	1	B(山形):38件 AH1pdm:15件 B(ビクトリア):7件 AH3:5件N2:1件

\*遺伝子検査のうち一は未実施

\*\*1件はB型ウイルス(山形系統)とA型(N2遺伝子)との重複感染

入院・重症サーベイランスにおいては 81 件を検査した。シーズン初めの 9 月に、フィリピンからの輸入例で AH1pdm09 ウイルス 1 株と A 香港 (H3) 型ウイルス 2 株分離された。流行期に入った 12 月下旬からは AH1pdm09 ウイルスによる入院例が増加し、22 件のインフルエンザウイルスが分離・検出された (AH1pdm09 ウイルス 16 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 3 件、山形系統の B 型ウイルス 3 件)。このうち、インフルエンザウイルスと確定した重症例は、肺炎 8 例 (AH1pdm09 ウイルス 6 件と山形系統の B 型ウイルス 2 件)、脳症 3 例 (AH1pdm09 ウイルス 2 件と A 香港 (H3) 型ウイルス 1 件)、意識障害 2 例 (AH1pdm09



ウイルス)であった。インフルエンザ以外のウイルスではボカウイルス 5 件(山形系統の B 型ウイルスと重複 1 件、ヒトコロナウイルスと重複 1 件含む)、コクサッキーウイルス A 型 4 件、エコーウイルス 4 件、風疹ウイルス 3 件、コクサッキーウイルス B 型 2 件、アデノウイルス 2 件(コクサッキーウイルス A 型と重複 1 件、ライノウイルスと重複 1 件含む)、ヒトコロナウイルス 2 件、ライノウイルス 2 件、パラインフルエンザウイルス 4 型 2 件、エンテロウイルス 71 型 2 件、VZV ウイルス 1 件、が検出された。

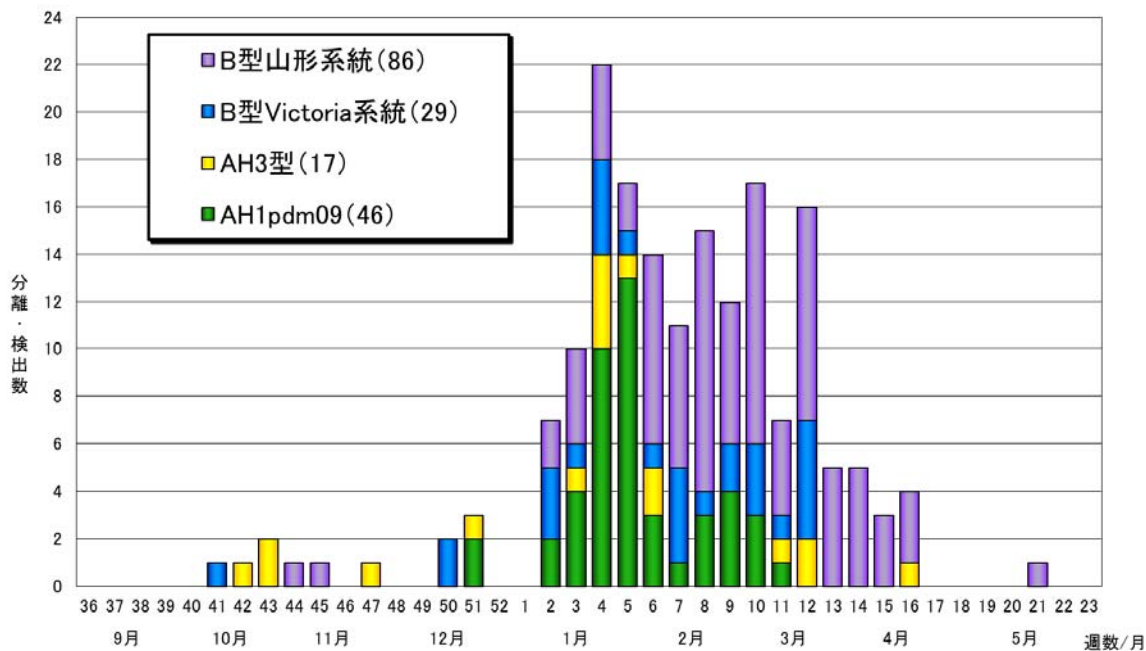


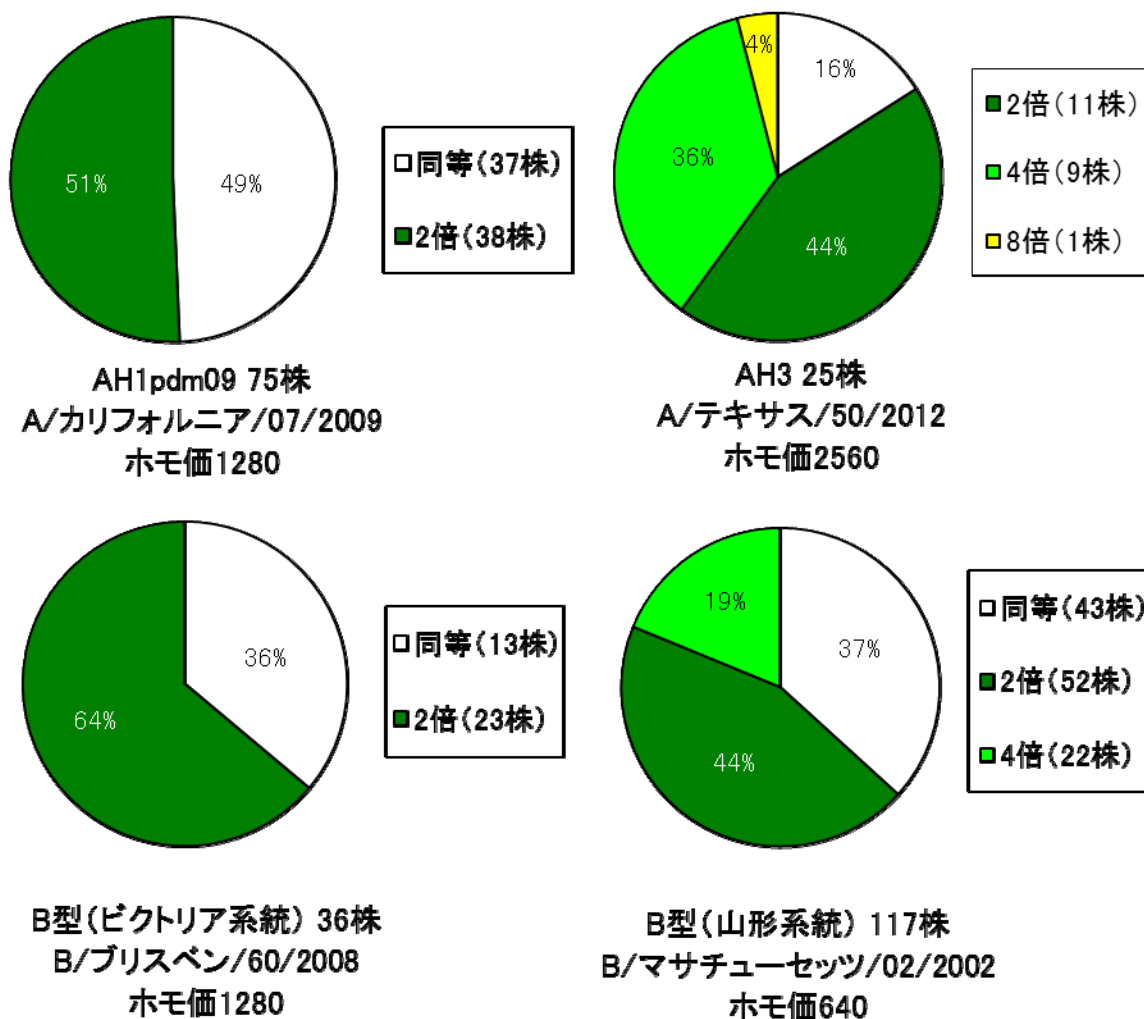
図2 病原体定点等分離・検出状況

病原体定点ウイルス調査においては 607 件(鼻咽頭検体 560 件、便由来検体 33 件、うがい液 5 件、結膜ぬぐい検体 3 件、嘔吐物 2 件、不明 4 件)を検査し、山形系統の B 型ウイルス B 型 86 件、AH1pdm09 ウイルス 46 件、ビクトリア系統の B 型ウイルス 29 件(AH1pdm09 ウイルスの重複 1 件含む)、A 香港(H3)型ウイルス 17 件が分離・検出された。今シーズンは 10 月第 41 週に鶴見区の定点からビクトリア系統の B 型ウイルスがはじめて分離され、翌第 42 週には港北区の定点から A 香港(H3)型ウイルスが分離された。また、第 44 週には瀬谷区の定点から山形系統の B 型ウイルスが、第 51 週には磯子区の定点から AH1pdm09 ウイルスが分離され、混合流行が予測された。その後、1 月に入ってから AH1pdm09 ウイルスが増え始め、1 月第 5 週をピークに 3 月第 11 週まで分離・検出された。一方、B 型ウイルスは山形系統のウイルスが優勢であったが、両系統のウイルスが混在したまま、3 月第 10 週と第 12 週にピークとなり、5 月第 21 週まで分離・検出された。他方、A 香港(H3)型ウイルスは散發で分離されたのみであった(図 2)。

昨シーズンから、ワクチン株の抗血清がこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、ワクチン株と分離株の HI 価の差で類似性を正確に比較することができなくなった。図 3 の抗原性状は参考値である。

分離したウイルスの抗原性状は、AH1pdm09 ウイルスはワクチン株である A/カリフォルニア/07/2009

と同等または2倍差であった。A香港(H3)型ウイルスは25株中24株がワクチン株であるA/テキサス/50/2012と4倍差以内であった。B型ウイルスのうち、ビクトリア系統のウイルスはレファレンス株であるB/ブリスベン/60/2008と同等または2倍差であった。山形系統のウイルスはワクチン株であるB/マサチューセッツ/02/2012とすべて4倍以内の反応性を示した(図3)。なお、国立感染症研究所で解析した横浜株はAH1pdm09ウイルス10株、A香港(H3)型7株、山形系統のB型6株、ビクトリア系統のB型5株で、AH1pdm09ウイルスとA香港(H3)型および山形系統のB型ウイルスはワクチン株と、同等または2倍差であった。ビクトリア系統のB型ウイルスは2011/2012シーズンのワクチン株であるB/ブリスベン/60/2008と同等な抗原性状であった。



注) 昨シーズンより、ワクチン株の抗血清はこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、地方衛生研究所での検査は参考値

図3 2013/2014シーズン分離株の抗原性状(ワクチン株等に対するHI価)

# AH1pdm09 HA遺伝子 NJ系統樹 (1702bp)

赤枠内: 2013/2014シーズン  
ワクチン株  
2012/2013シーズン横浜分離株  
2013/2014シーズン横浜分離株  
☆: 定点  
▲: 集団  
□: 入院例(■死亡例)  
●: 輸入例  
◆: 耐性株(H275Y) ◆: 横浜耐性株

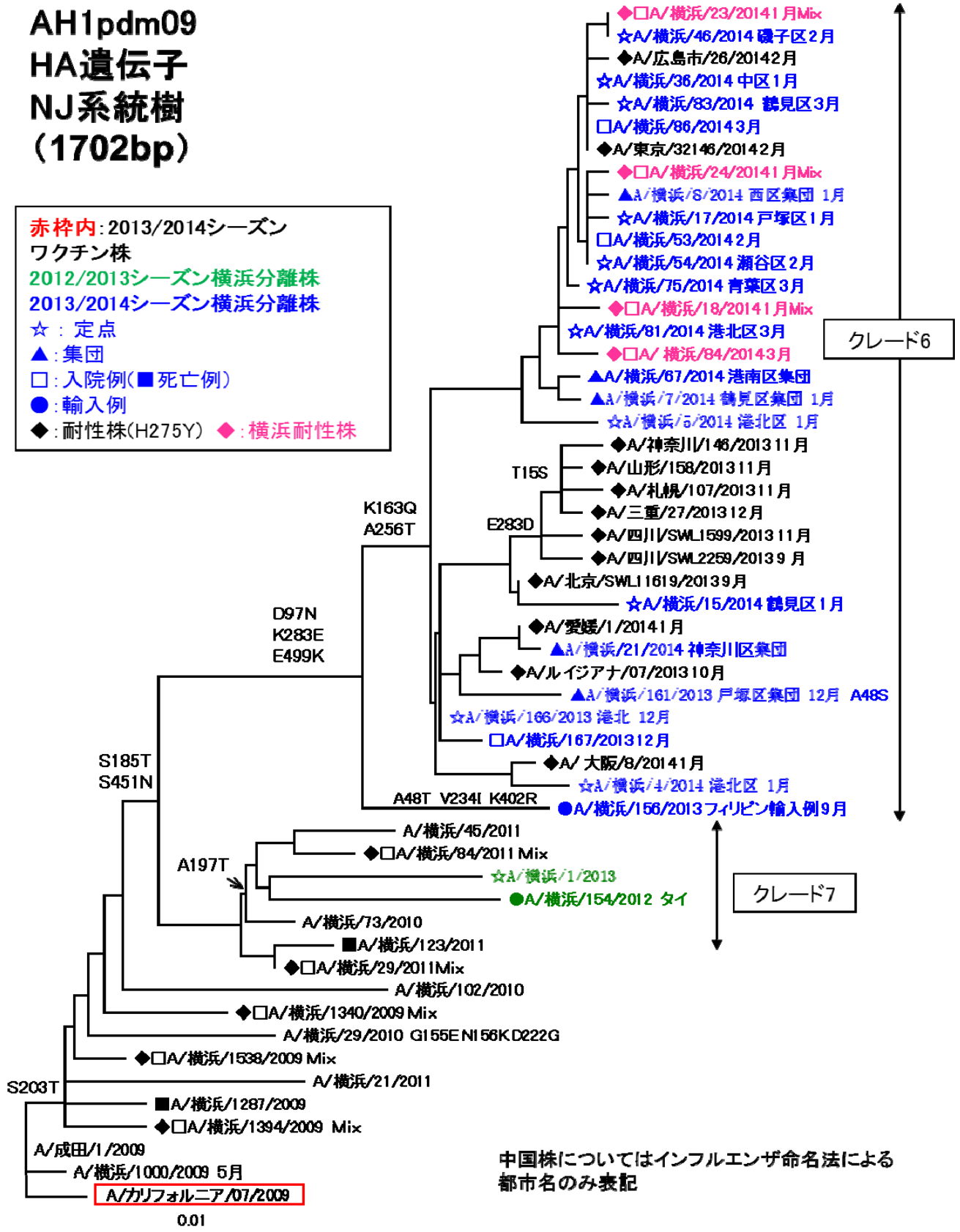


図4 AH1pdm09 ウイルスのHA1ポリペプチドのNJ系統樹

# AH3 HA1遺伝子 NJ系統樹 (1022bp)

赤枠内: 2013/2014シーズン  
ワクチン株  
2012/2013シーズン分離株  
2013/2014シーズン分離株  
☆: 定点  
▲: 集団  
□: 入院例  
●: 輸入例

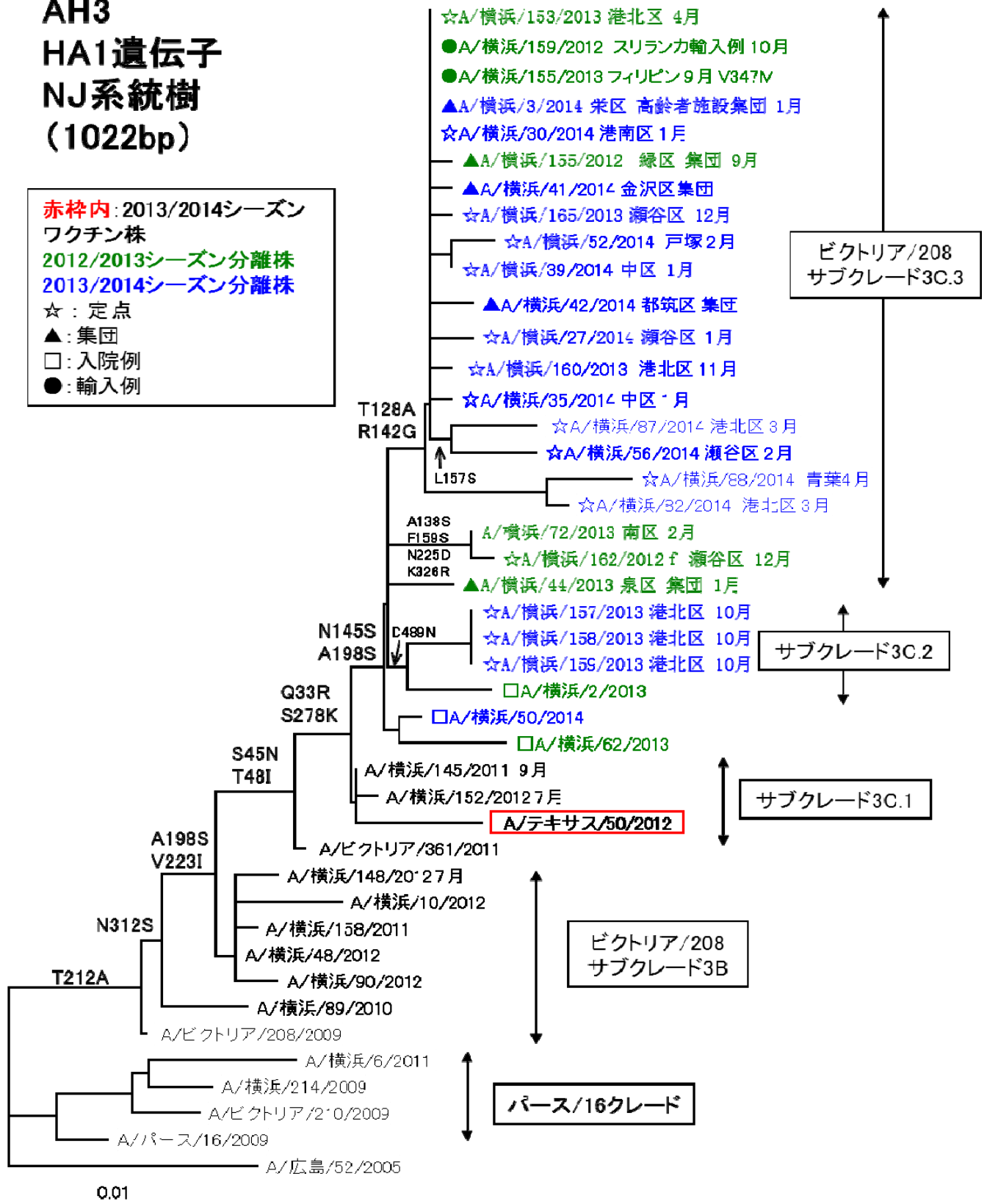


図5 A香港 (H3) N2 ウイルスの HA1 ポリペプチドの NJ 系統樹

# B型 HA1遺伝子 NJ系統樹 (1041bp)

赤枠内: 2013/2014シーズン  
ワクチン株  
 緑枠内: 2012/2013シーズン  
ワクチン株  
 2012/2013シーズン分離株  
 2013/2014シーズン分離株  
 ☆: 定点  
 ▲: 集団  
 ■: 入院例  
 ◆: 薬剤感受性低下株(DI97N)  
 ▽: NAアミノ酸挿入株(76L)  
 ◎: リアソータント株

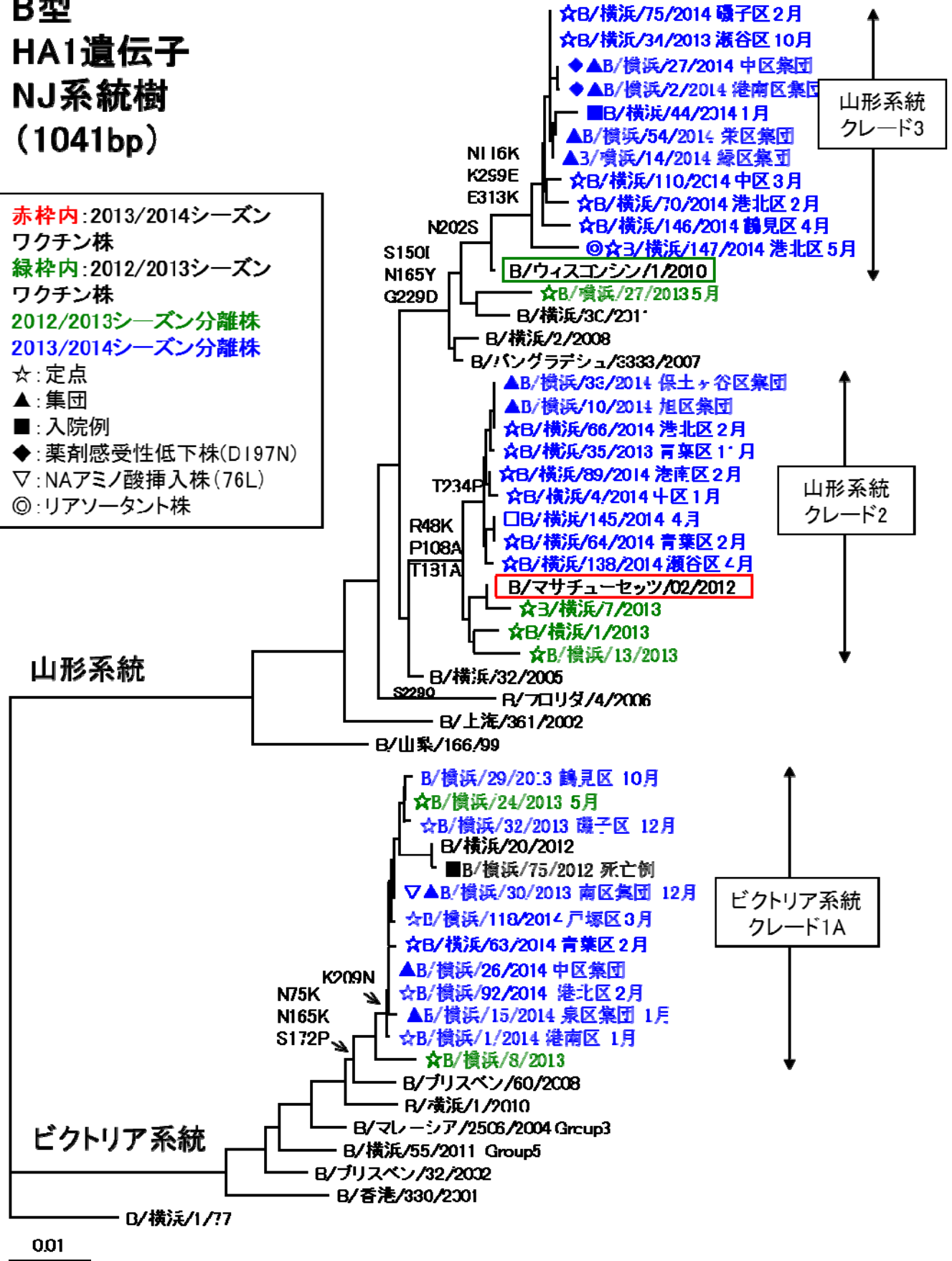


図6 B型ウイルスのHA1ポリペプチドのNJ系統樹

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスについては昨シーズン分離株のクレード7とは異なり、D97N、K283E、E499K のアミノ酸置換が共通のクレード6に含まれ、さらに K163Q および A256T が置換したグループであった(図4)。A 香港 (H3) 型ウイルスについてはワクチン株の A/テキサス/50/2012 を含むサブクレード3Cに含まれたが、T128A および R142G にアミノ酸置換したサブクレード3C.3 グループが多くを占めた(図5)。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株はレファレンス株の B/ブリスベン/60/2008 と同じクレード1Aに含まれ、さらに K209N のアミノ酸置換がみられた。山形系統のウイルスは昨シーズンのワクチン株 B/ウィスコンシン/1/2010 を含むクレード3 と今シーズンワクチン株 B/マサチューセッツ/02/2012 を含むクレード2に分かれた(図6)。NA 遺伝子では、ビクトリア系統のウイルス3株で、76番目のアミノ酸にロイシン(L)が挿入された株が分離された。また、抗原解析ならびに HA 遺伝子解析で、山形系統のクレード3のB型ウイルスであり、NA 遺伝子がビクトリア系統であったリアソータント株が2株分離された。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09 ウイルス77株、A 香港 (H3) 型ウイルス25株、B 型ウイルス154株について既知の薬剤耐性マーカーを検索した。入院・重症サーベイランスで分離した AH1pdm09 ウイルス4株に H275Y 変異(うち3株はミックス株)がみられたが、今シーズン札幌で地域流行した耐性株グループとは異なっていた(図4)。国立感染症研究所の薬剤感受性試験の結果、AH1pdm09 ウイルス3株はオセルタミビルとペラミビルに対し薬剤感受性の低下がみられたが、ザナミビル、ラニナミビルに対しては感受性であった。B 型ウイルスでは、山形系統のウイルスで D197N 変異株が5株分離された。薬剤感受性試験の結果、耐性株の基準には満たなかったが、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルのすべての薬剤に対して感受性の低下がみられた。

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行は AH1pdm09 ウイルス、A 香港 (H3) 型ウイルス、山形系統およびビクトリア系統の B 型の混合流行であった。各亜型別分離・検出数の割合はそれぞれ 29.1%、9.4%、47.9%、13.6%であり、山形系統の B 型ウイルスが半数近くを占め、次いで AH1pdm09 ウイルスが優勢であった。

AH1pdm09 ウイルス、山形系統およびビクトリア系統の B 型ウイルスは、ワクチン株やレファレンス株と4倍以内の反応性を示した。A 香港 (H3) 型ウイルスはワクチン株と8倍以上反応性の低下した株が1株(4%)みられた。

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスはクレード6に含まれ、昨シーズンまでのクレード7とは異なっていた。A 香港 (H3) 型ウイルスはワクチン株の A/テキサス/50/2012 と同じサブクレード3Cに含まれ、さらに4つのアミノ酸変異がみられた。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は昨シーズン流行株と同じクレードに含まれたが、山形系統のウイルスは今シーズンワクチン株と同じクレード2と昨シーズンワクチン株と同じクレード3に分かれほぼ同じ比率で分離・検出された。

ノイラミニダーゼ阻害薬に対する NA 遺伝子のアミノ酸耐性変異スクリーニング検査では、AH1pdm09 ウイルス4株に H275Y 変異が、山形系統の B 型ウイルス5株に D197N 変異がみられた。

(川上千春、小澤広規、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、森田昌弘、水野哲宏)

### ③ 川崎市のインフルエンザの動向

川崎市健康安全研究所

- 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図1)によると、定点あたりの患者数が1.0人を超えたのが12月の第3週(第51週)で、その後患者数は増加し、26年1月の第5週に定点あたりの患者数が40.85人とピークを迎えた。その後患者数が減少するが、警報レベルである定点あたり30人以上は2月の第4週(9週)まで続き、注意報(10人以上)を下回ったのは4月の第3週(第13週)であった。

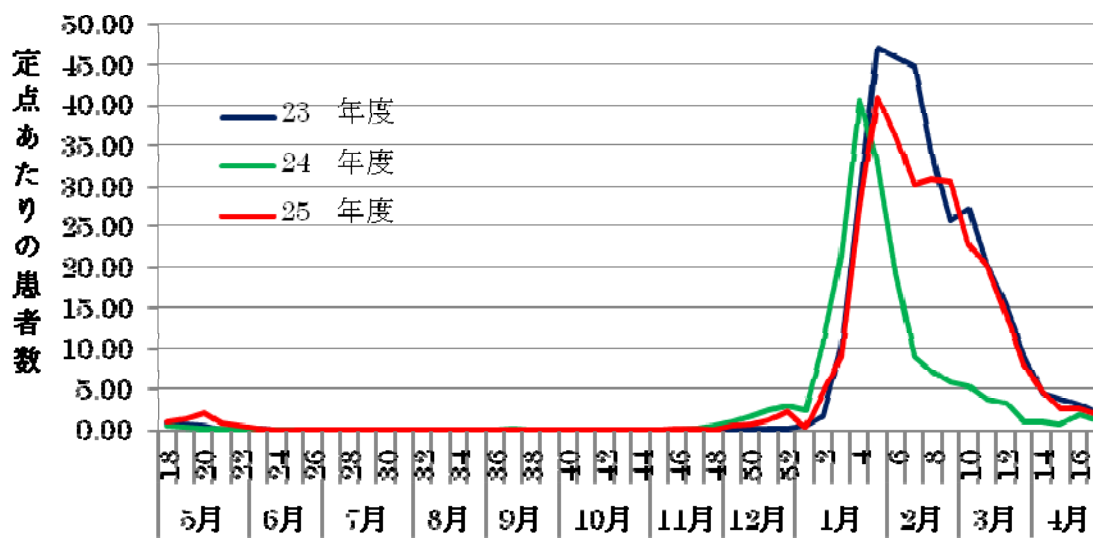


図1 定点あたりのインフルエンザ患者数

- インフルエンザウイルス分離状況

2013/2014 シーズンは、インフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が合計159例搬入され、そのうちリアルタイムPCRならびにウイルス分離培養で152例(95.6%)がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別では、AH1pdm09が60例、A香港(H3)型が31例、B型(ビクトリア系統)が17例、B型(山形系統)が29例、B型(型別不明)が15例であった。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図2)では、初めてウイルスが検出されたのは10月の第5週(44週)でA香港(H3)型であった。検出数が増加したのは26年1月からで、第5週に32例とピークを迎えた。ピーク時までには検出されたインフルエンザウイルスの内訳は、AH1pdm09が46例、A香港(H3)型が20例、B型(ビクトリア系統)が10例、B型(山形系統)が14例、B型(型別不明)が5例で、A型が69.4%であった。2月はB型の割合が増加(A14、B29)するものの、3月には再びA型が多くなり(A11、B1)、シーズンを通じてAH1pdm09、A香港(H3)型、B型(ビクトリア系統)、B型(山形系統)が混在する流行形態であった。



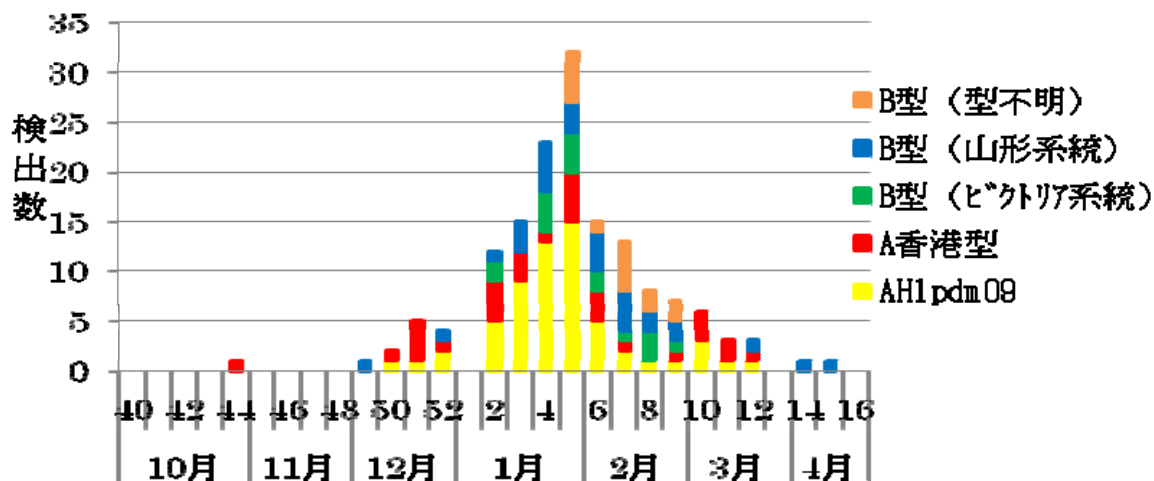


図2 週別インフルエンザウイルス検出状況

・年代別の分離状況では、小学生ならびに中学生にあたる7歳から14歳でB型が多く、20歳以上の成人層でA型、特にAH1pdm09が多い傾向がみられた。また、2009年の新型インフルエンザパンデミック時に生まれていなかった3歳児以下でAH1pdm09の検出が多かった。なお、B型でビクトリア系統と山形系統では20歳未満ではほぼ同数であったが、20歳以上では山形系統が多く検出された。

(駒根綾子、清水英明)

#### ④ インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

2013年7～9月に採取された0歳以上の県民326名(0～4歳53名、5～9歳24名、10～14歳20名、15～19歳30名、20～29歳56名、30～39歳53名、40～49歳30名、50～59歳30名、60歳以上30名)の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/テキサス/50/2012、B/マサチューセッツ/2/2012、B/ブリスベン/60/2008の4種類である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

A/カリフォルニア/7/2009は、2009/2010シーズン以後5シーズンに渡ってAH1pdm09のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価で見ると最高が5～9歳の95.8%、最低が50～59歳の40.0%、40HI価で見ると最高が15～19歳の60.0%、最低が30～39歳の11.3%であった。40HI価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に低くなった。(図1)



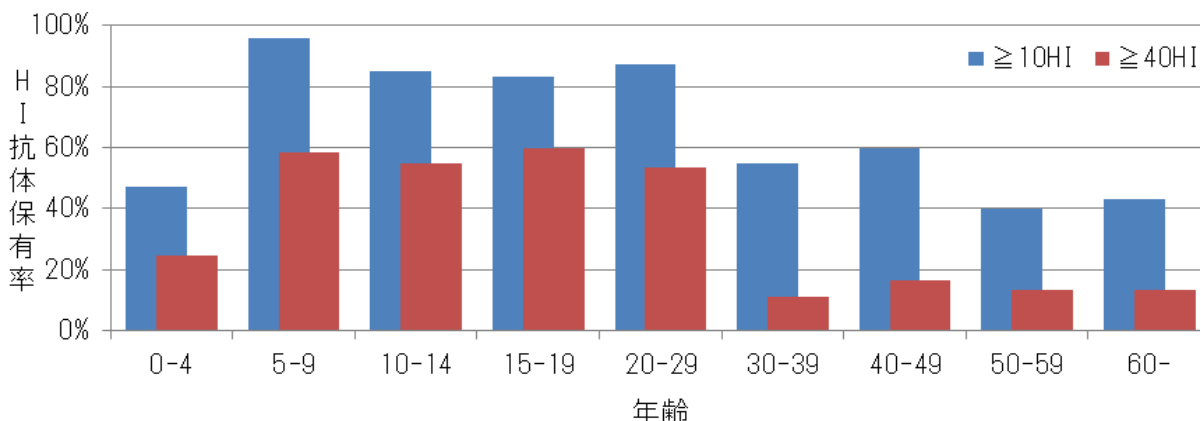


図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率

A/テキサス/50/2012 は、本シーズンから A 香港 (H3) 型のワクチン株に採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 5～9 歳の 91.7%、最低が 0～4 歳の 15.1%、40HI 価でみると最高が 5～9 歳の 87.5%、最低が 0～4 歳の 7.5%であった。40HI 価以上の抗体保有率は、5～9 歳と 10～14 歳で 80%を超えており、昨シーズンにこの年齢群で A 香港 (H3) 型が流行したことを反映していると考えられた。(図 2)

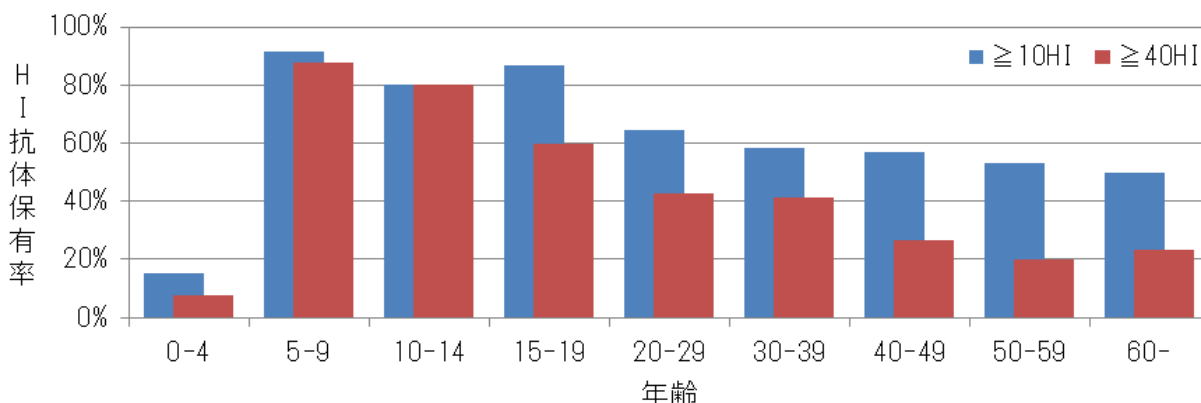


図2 A/テキサス/50/2012 抗体保有率

B/マサチューセッツ/2/2012 は、本シーズンから B 型のワクチン株として使用されており、“山形系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 15～19 歳の 96.7%、最低が 5～9 歳の 29.2%、40HI 価でみると最高が 20～29 歳の 53.6%、最低が 5～9 歳の 8.3%であった。40HI 価以上の抗体保有率は、前年調査時よりも全体的に高くなった。(図 3)

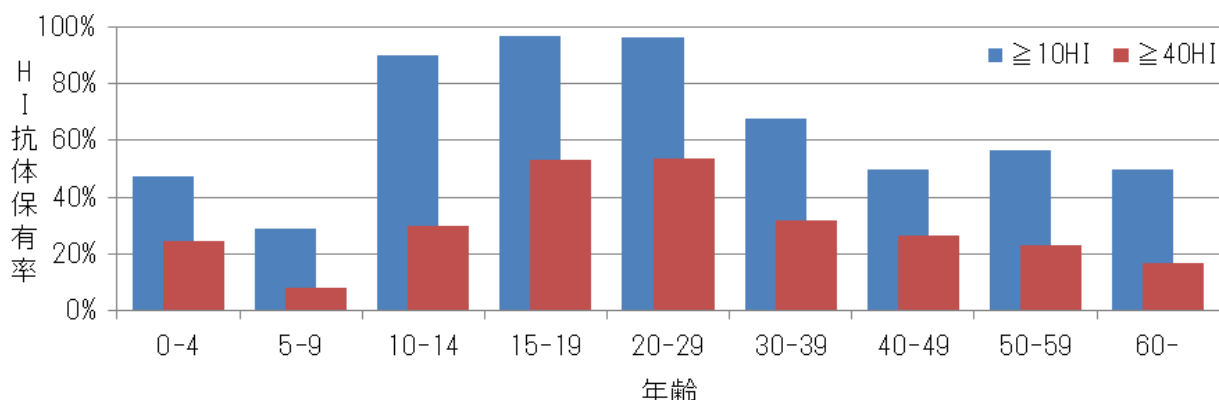


図3 B/マサチューセッツ/2/2012 抗体保有率

B/ブリスベン/60/2008 は、2009/2010～2011/2012 の3シーズンに渡ってB型のワクチン株として使用された株であり、“ビクトリア系統”に属する。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が10～14歳の85.0%、最低が0～4歳の22.6%、40HI 価でみると最高が10～14歳の30.0%、最低が0～4歳の11.3%であった。40HI 価以上の抗体保有率は前年調査時よりも全体的に低くなった。(図4)

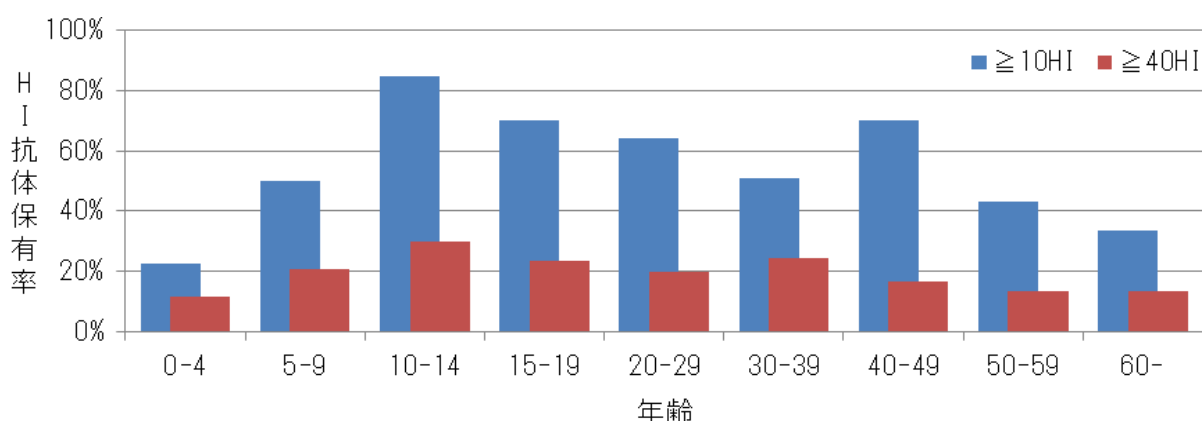


図4 B/ブリスベン/60/2008 抗体保有率

神奈川県域におけるインフルエンザの前シーズンの流行はA香港(H3)型が主流株で、B型(山形系統)との混合流行であった。しかしながら、流行の中心となった年齢群ではA香港(H3)型ワクチン株に対する抗体保有率が高かったが、その他の年齢群では低い傾向にあり、全体としては前シーズン調査時よりも低かった。いずれにしても、抗体保有率が比較的低い(25%未満)の年齢層においては、インフルエンザウイルス各型に対する感受性者が多くいると考えられ、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

(渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

## (2) HIV／エイズ

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を行っている。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 11 年 8 月からは厚生労働省「HIV 検査体制研究班」の協力により、大和保健福祉事務所の検体について核酸増幅スクリーニング（NAT）検査を実施している。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センターと略）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚保健福祉事務所、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原各保健福祉事務所においても即日検査を開始した。また、平成 19 年 11 月から秦野保健福祉事務所において、HIV 検査受検者で性感染症検査を希望する人に対し、梅毒抗体検査、性器クラミジア抗体検査を実施している。

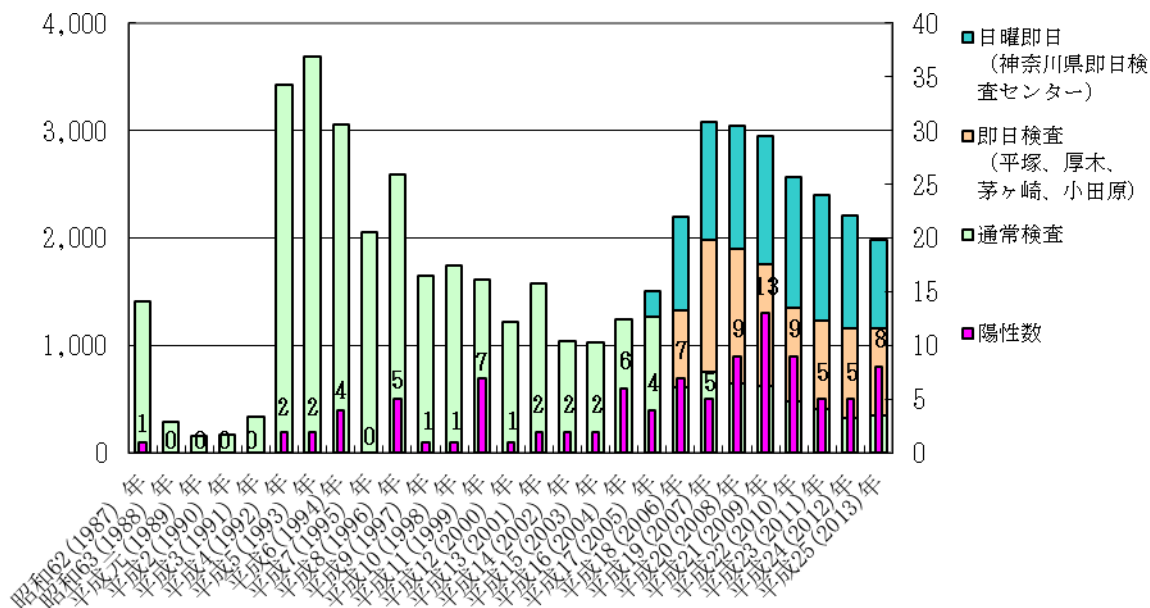
HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降、当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の保健福祉事務所への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 25 年は 1,983 件と減少傾向が続いている。

平成 25 年の検査種類別による検査数は、即日検査を実施している 4 箇所の保健福祉事務所（HWC）では 817 件、通常検査を実施している 5 箇所の HWC では 347 件、日曜即日検査では 819 件であった（表 1）。前年と比較し、即日検査実施 HWC では 2.5%減、通常検査実施 HWC では 7.4%増、日曜即日検査では 22.1%減となった。日曜即日検査での検査数の大幅な減少は、4 月より検査回数を月 2 回から 1 回に減らしたことによる影響が大きいと思われる。

HIV 陽性数は 8 例であり、陽性率は 0.4%と前年より高くなった。陽性例の性別はすべて男性であり、国籍は日本国籍が 7 名、外国籍が 1 名であった。HIV 型はすべて HIV-1 型であり、サブタイプはすべて B であった（表 2）。サブタイプ B は欧米から 1980 年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。

全国的に保健所等検査機関での HIV 検査数が減少傾向にあるが、早期発見・早期治療は感染者の予後を改善し、社会においても感染拡大の防止につながることから、神奈川県ではさらに HIV 検査体制を強化していくとともに、男性同性間性的接触者および外国籍者等を中心とした検査普及啓発活動を積極的に行っていく必要があると考える。

（佐野貴子、伊達佳美、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）



- \* 相模原は平成12年4月から、藤沢は平成18年4月から保健庁設置市となった。
- \* 津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
- \* 神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚保健福祉事務所は平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原保健福祉事務所は平成18年6月から即日検査を開始した。

図1 神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及び藤沢市を除く）でのHIV検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV検査種類別による検査数、陽性数（平成18-25年）

検査種類別	即日検査* (4保健福祉事務所)			通常検査** (5保健福祉事務所)			日曜即日検査 (即日検査センター)			合計		
	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)	検査数	陽性数	陽性率 (%)
平成18年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
平成19年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
平成20年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
平成21年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
平成22年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
平成23年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
平成24年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
平成25年	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%

\*平塚、小田原、茅ヶ崎、厚木保健福祉事務所

\*\*鎌倉、三崎、秦野、大和、足柄上保健福祉事務所

表2 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別（平成18-25年）

陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				サブタイプB/CRF01_AE				不明
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	
平成18年	7	5			1			1					
平成19年	5	2			1			1					1
平成20年	9	4		1		1	1	2					
平成21年	13	9				1		1					2
平成22年	9	5		1	1			2					
平成23年	5	3							1			1	
平成24年	5	3		2									
平成25年	8	6	1										1

② 藤沢市におけるHIV即日検査の実施状況

藤沢市保健所

原則週1回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に6月のHIV検査普及週間に平日夜間即日検査、12月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗HIV-1及びHIV-2抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成25年の検査数は447件で、内訳は通常即日検査が344件、平日夜間及び休日即日検査が各々31件及び72件であった。判定保留は4件あり、県衛生研究所の精密検査において、4件中2件が陽性と判定された。

（平井有紀、石井圭、松葉友美、佐藤健）

表 藤沢市のHIV即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	344	4	2
2	平日夜間即日検査	31	0	0
3	休日即日検査	72	0	0
	計	447	4	2

### (3) ウイルス性感染性胃腸炎

神奈川県全体の感染性胃腸炎の報告数について、平成 25 年は第 51 週に流行のピークがみられ、年齢別では、1 歳に報告が多かった。

#### (3) -1

#### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（川崎市、横浜市、横須賀市、相模原市および藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、C群ロタウイルスとした。

検査の結果、195 検体中 111 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出された。検出数は、ノロウイルスが 67 検体、A群ロタウイルスが 13 検体、アデノウイルスが 2 検体、サポウイルスが 32 検体およびアストロウイルスが 2 検体で、C群ロタウイルスは検出されなかった。ノロウイルスは各年齢層で検出されたが、その他のウイルスは、大半が 6 歳以下の小児からの検出であった。

集計を行った平成 25 年 1 月から平成 25 年 12 月では、8 月および 9 月を除いた月でウイルスの検出が認められた。

ウイルスごとの検出状況をみると、ノロウイルスは春期から夏期にかけて検出数は減少し 8 月から 10 月には検出されなかったが、11 月、12 月には検出数が急増した。ノロウイルス 67 検体の genogroup (以下、G) をみると、G I が 4 検体、G II が 63 検体で G II は例年どおり流行していた。また、検出時期ごとに検体を無作為に選出し G II の系統樹解析を実施したところ、G II の大半が 2012 年に流行した G II /4 変異型に型別され、その他の遺伝子型として G II /2、G II /6、G II /16 も見られた。A群ロタウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスは春期、サポウイルスは冬期から春期に検出が多かった。複数のウイルスが同時に検出された検体は 5 検体あり、ノロウイルス G I と G II、ノロウイルス G I とサポウイルス、ノロウイルス G II と A群ロタウイルス、ノロウイルス G II とサポウイルス、アデノウイルスとサポウイルスであった。

(鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

表 1 年齢別ウイルス検出状況（平成 25 年 1 月～12 月）

	検体数	陽性検体数	検出ウイルス						検出数
			ノロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	121	72 <sup>1-4)</sup>	42	12	2	20	0	0	76
7～12歳	17	7	2	0	0	5	0	0	7
13～22歳	10	5	3	0	0	2	0	0	5
23～64歳	39	23 <sup>5)</sup>	17	1	0	4	2	0	24
65歳以上	8	4	3	0	0	1	0	0	4
合計	195	111	67	13	2	32	2	0	116

- 1：複数ウイルス検出（ノロウイルスG I， G II）  
 2：複数ウイルス検出（ノロウイルスG I， サポウイルス）  
 3：複数ウイルス検出（ノロウイルスG II， A群ロタウイルス）  
 4：複数ウイルス検出（アデノウイルス， サポウイルス）  
 5：複数ウイルス検出（ノロウイルスG II， サポウイルス）

表 2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		A群ロタウイルス	アデノウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	C群ロタウイルス	
	G I <sup>1)</sup>	G II <sup>2)</sup>						
平成25年 1月	2 <sup>3)</sup>	12 <sup>3)</sup>	0	0	0	0	0	14
2月	1	10	0	0	5	0	0	16
3月	0	10	3	1	2	0	0	16
4月	0	0	7	0	0	0	0	7
5月	1 <sup>4)</sup>	5	2	1 <sup>5)</sup>	11 <sup>4)5)</sup>	2	0	22
6月	0	1	0	0	2	0	0	3
7月	0	1 <sup>6)</sup>	1 <sup>6)</sup>	0	2	0	0	4
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	2	0	0	2
11月	0	6	0	0	1	0	0	7
12月	0	18 <sup>7)</sup>	0	0	7 <sup>7)</sup>	0	0	25
小計	4	63						
合計	67		13	2	32	2	0	116

- 1：genogroup I  
 2：genogroup II  
 3：複数ウイルス検出（ノロウイルスG I， G II）  
 4：複数ウイルス検出（ノロウイルスG I， サポウイルス）  
 5：複数ウイルス検出（アデノウイルス， サポウイルス）  
 6：複数ウイルス検出（ノロウイルスG II， A群ロタウイルス）  
 7：複数ウイルス検出（ノロウイルスG II， サポウイルス）

(3) -2

平成 25 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 206 事例より 50 事例少なく 156 事例で、最も発生件数が多い横浜市は前年の 164 事例から 128 事例に減少した。

	平成23年				平成24年				平成25年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	104	442	336	76	164	767	531	69	128	555	389	70
川崎市	14	35	31	89	15	71	48	68	10	56	39	70
相模原市	—	—	—	—	4	72	42	58	1	5	4	80
横須賀市	7	91	45	49	6	32	22	81	7	101	73	72
藤沢市	6	19	14	74	7	27	24	89	6	23	18	78
上記を除く神奈川県	7	18	16	89	10	27	27	100	4	13	12	92
計	138	605	442	73	206	996	694	70	156	753	535	71

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 4 事例確認された。いずれの事例からもノロウイルス G II が検出された。ノロウイルス以外の集団発生は平成 21 年に C 群ロタウイルス、平成 22 年に A 群ロタウイルス（G 1）、平成 23 年には A 群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、平成 25 年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

表 神奈川県 of ウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H25. 1	高齢者福祉施設	不明	1	1	ノロウイルス	G II
2	H25. 1	高齢者福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	G II
3	H25. 12	高齢者福祉施設	不明	5	4	ノロウイルス	G II
4	H25. 12	高齢者福祉施設	不明	4	4	ノロウイルス	G II



## ② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 25 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 133 事例であった。ノロウイルスが 118 事例より検出され、その遺伝子群は GⅡが 111 事例、GⅠが 5 例、GⅠと GⅡの混合事例が 2 事例であり、GⅡが大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 3 事例、サポウイルスが 7 事例より検出された。なお、5 事例は起因ウイルス不明であった。

(熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、森田昌弘)

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H25.1	高齢者施設	13	5	4	ノロウイルス	GⅡ
2	H25.1	高齢者施設	21	3	3	ノロウイルス	GⅡ
3	H25.1	高齢者施設	22	21	8	ノロウイルス	GⅡ
4	H25.1	高齢者施設	不明	4	2	ノロウイルス	GⅡ
5	H25.1	その他	18	5	3	ノロウイルス	GⅡ
6	H25.1	高齢者施設	不明	5	3	サポウイルス	
7	H25.1	高齢者施設	13	7	7	ノロウイルス	GⅡ
8	H25.1	病院	56	8	8	ノロウイルス	GⅡ
9	H25.1	高齢者施設	21	5	5	ノロウイルス	GⅡ
10	H25.1	高齢者施設	18	6	3	ノロウイルス	GⅡ
11	H25.1	保育園	16	2	2	ノロウイルス	GⅡ
12	H25.1	高齢者施設	11	3	3	ノロウイルス	GⅡ
13	H25.1	高齢者施設	8	3	3	ノロウイルス	GⅡ
14	H25.1	その他	5	11	4	ノロウイルス	GⅡ
15	H25.1	高齢者施設	6	2	2	ノロウイルス	GⅡ
16	H25.1	高齢者施設	3	5	5	ノロウイルス	GⅡ
17	H25.1	高齢者施設	11	5	4	ノロウイルス	GⅡ
18	H25.1	小学校	10	2	2	ノロウイルス	GⅠ
19	H25.1	高齢者施設	19	27	8	ノロウイルス	GⅡ
20	H25.1	その他	15	4	3	ノロウイルス	GⅡ
21	H25.1	保育園	20	4	3	ノロウイルス	GⅡ
22	H25.1	高齢者施設	18	3	3	ノロウイルス	GⅡ
23	H25.1	高齢者施設	不明	3	2	ノロウイルス	GⅡ
24	H25.1	高齢者施設	8	2	2	ノロウイルス	GⅡ
25	H25.1	高齢者施設	7	3	3	ノロウイルス	GⅡ
26	H25.2	高齢者施設	15	5	4	ノロウイルス	GⅡ
27	H25.2	小学校	13	3	3	ノロウイルス	GⅡ
28	H25.2	高齢者施設	9	6	5	ノロウイルス	GⅡ

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
29	H25. 2	小学校	8	3	2	ノロウイルス	G II
30	H25. 2	高齢者施設	8	3	2	ノロウイルス	G II
31	H25. 2	高齢者施設	8	2	2	ノロウイルス	G II
32	H25. 2	小学校	6	2	2	ノロウイルス	G II
33	H25. 2	病院	13	8	4	ノロウイルス	G I、G II
34	H25. 2	高齢者施設	19	3	2	ノロウイルス	G II
35	H25. 2	保育園	16	2	2	ロタウイルス	
36	H25. 2	高齢者施設	46	3	1	ノロウイルス	G II
37	H25. 2	小学校	7	4	3	サポウイルス	
38	H25. 2	福祉施設	21	5	2	サポウイルス	
39	H25. 2	中学校	64	3	3	ノロウイルス	G II
40	H25. 2	病院	7	5	3	ノロウイルス	G II
41	H25. 3	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G II
42	H25. 3	高齢者施設	7	4	1	ノロウイルス	G II
43	H25. 3	高齢者施設	14	8	6	ノロウイルス	G II
44	H25. 3	高齢者施設	8	7	4	ノロウイルス	G II
45	H25. 3	小学校	20	3	2	サポウイルス	
46	H25. 3	保育園	10	3	2	ロタウイルス	
47	H25. 4	保育園	不明	5	1	サポウイルス	
48	H25. 5	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	G II
49	H25. 5	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	G II
50	H25. 5	保育園	不明	6	6	ノロウイルス	G II
51	H25. 5	高齢者施設	不明	15	5	ノロウイルス	G II
52	H25. 5	保育園	不明	3	1	ノロウイルス	G II
53	H25. 5	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	G I
54	H25. 5	高齢者施設	不明	1	1	ノロウイルス	G II
55	H25. 5	高齢者施設	不明	7	4	ノロウイルス	G II
56	H25. 5	福祉施設	不明	5	4	ノロウイルス	G II
57	H25. 6	幼稚園	不明	2	2	ロタウイルス	
58	H25. 6	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	G I
59	H25. 6	高齢者施設	不明	3	3	ノロウイルス	G II
60	H25. 6	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	G II
61	H25. 9	福祉施設	不明	15	6	ノロウイルス	G II
62	H25. 10	高齢者施設	不明	2	1	ノロウイルス	G II
63	H25. 11	保育園	30	5	3	ノロウイルス	G II
64	H25. 11	小学校	8	3	1	ノロウイルス	G II
65	H25. 11	保育園	9	5	4	ノロウイルス	G II
66	H25. 11	保育園	30	5	4	ノロウイルス	G II

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
67	H25.11	保育園	7	4	3	ノロウイルス	GII
68	H25.11	小学校	16	2	2	ノロウイルス	GII
69	H25.11	小学校	12	6	6	ノロウイルス	GII
70	H25.11	保育園	12	3	2	ノロウイルス	GII
71	H25.11	小学校	20	3	3	ノロウイルス	GI
72	H25.11	保育園	20	4	2	ノロウイルス	GII
73	H25.11	保育園	11	4	2	ノロウイルス	GII
74	H25.11	小学校	31	5	4	ノロウイルス	GII
75	H25.11	保育園	16	4	4	ノロウイルス	GII
76	H25.11	小学校	16	6	4	ノロウイルス	GII
77	H25.11	保育園	13	3	2	ノロウイルス	GII
78	H25.12	小学校	18	2	2	ノロウイルス	GII
79	H25.12	保育園	12	4	4	サポウイルス	
80	H25.12	保育園	4	3	3	ノロウイルス	GII
81	H25.12	高齢者施設	14	5	5	ノロウイルス	GII
82	H25.12	小学校	15	5	5	ノロウイルス	GII
83	H25.12	保育園	13	4	3	ノロウイルス	GII
84	H25.12	保育園	9	3	1	ノロウイルス	GII
85	H25.12	保育園	26	5	4	ノロウイルス	GII
86	H25.12	保育園	3	1	1	ノロウイルス	GII
87	H25.12	保育園	17	4	4	ノロウイルス	GII
88	H25.12	高齢者施設	4	3	3	ノロウイルス	GII
89	H25.12	保育園	17	2	2	ノロウイルス	GII
90	H25.12	保育園	28	6	3	ノロウイルス	GII
91	H25.12	高齢者施設	14	5	5	ノロウイルス	GII
92	H25.12	高齢者施設	9	9	8	ノロウイルス	GII
93	H25.12	保育園	12	4	2	ノロウイルス	GII
94	H25.12	保育園	6	1	1	ノロウイルス	GII
95	H25.12	小学校	26	2	2	ノロウイルス	GII
96	H25.12	保育園	22	11	2	ノロウイルス	GII
97	H25.12	保育園	25	4	4	ノロウイルス	GII
98	H25.12	保育園	11	4	3	サポウイルス	
99	H25.12	福祉施設	3	2	1	ノロウイルス	GII
100	H25.12	保育園	9	3	3	ノロウイルス	GII
101	H25.12	小学校	17	1	1	ノロウイルス	GII
102	H25.12	小学校	11	2	2	ノロウイルス	GII
103	H25.12	保育園	21	3	3	ノロウイルス	GII
104	H25.12	保育園	35	2	2	ノロウイルス	GII

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
105	H25.12	保育園	18	2	2	ノロウイルス	GII
106	H25.12	保育園	11	5	4	ノロウイルス	GII
107	H25.12	保育園	12	2	1	ノロウイルス	GII
108	H25.12	保育園	不明	3	2	ノロウイルス	GII
109	H25.12	保育園	不明	3	2	ノロウイルス	GI、GII
110	H25.12	保育園	17	9	3	ノロウイルス	GII
111	H25.12	小学校	11	4	4	ノロウイルス	GI
112	H25.12	保育園	19	3	3	ノロウイルス	GII
113	H25.12	保育園	23	4	3	ノロウイルス	GII
114	H25.12	保育園	15	2	2	ノロウイルス	GII
115	H25.12	小学校	8	3	2	ノロウイルス	GII
116	H25.12	高齢者施設	10	6	4	ノロウイルス	GII
117	H25.12	小学校	16	3	2	ノロウイルス	GII
118	H25.12	保育園	23	1	1	ノロウイルス	GII
119	H25.12	保育園	10	4	3	ノロウイルス	GII
120	H25.12	小学校	8	2	2	ノロウイルス	GII
121	H25.12	小学校	7	3	3	ノロウイルス	GII
122	H25.12	保育園	8	3	2	ノロウイルス	GII
123	H25.12	保育園	7	1	1	ノロウイルス	GII
124	H25.12	福祉施設	11	3	3	ノロウイルス	GII
125	H25.12	保育園	10	7	6	ノロウイルス	GII
126	H25.12	保育園	12	2	2	ノロウイルス	GII
127	H25.12	高齢者施設	16	4	3	ノロウイルス	GII
128	H25.12	保育園	32	2	2	ノロウイルス	GII

555

389

### ③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市健康安全研究所

川崎市ではノロウイルスを原因とした集団胃腸炎が 10 例発生した。検出された遺伝子群はすべて G II であった。

(石川真理子、清水英明)

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H25. 1	高齢者福祉施設	60	3	2	ノロウイルス	G II
2	H25. 1	高齢者福祉施設	23	2	1	ノロウイルス	G II
3	H25. 1	高齢者福祉施設	18	2	1	ノロウイルス	G II
4	H25. 1	高齢者福祉施設	36	2	1	ノロウイルス	G II
5	H25. 1	保育園	24	19	13	ノロウイルス	G II
6	H25. 1	高齢者福祉施設	14	3	3	ノロウイルス	G II
7	H25. 8	保育園	32	3	3	ノロウイルス	G II
8	H25. 11	保育園	42	7	4	ノロウイルス	G II
9	H25. 11	保育園	15	13	9	ノロウイルス	G II
10	H25. 12	有料老人ホーム	18	2	2	ノロウイルス	G II
計			282	56	39		

### ④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生試験所

相模原市では、ノロウイルスを原因とした食中毒が 1 例（検出数 13）、有症苦情が 1 例（検出数 5）報告された。検出された遺伝子群はすべて G II であった。また、障害者支援施設において集団胃腸炎が 1 事例発生し、サポウイルスが検出された（検出数 4）。

(鷺谷則子、鈴木敏彦、望月響子、荒川小夜子)

⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市では平成 25 年 1 月から 12 月の間において、ノロウイルスが原因の集団胃腸炎が 7 事例発生した。遺伝子群は 1 事例が G I、6 事例 G II であった。

(竹内 恵美)

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果 (平成 25 年)

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H25. 1	葬儀場	2	2	2	ノロウイルス	G II
2	H25. 1	飲食店	2	14	8	ノロウイルス	G II
3	H25. 2	高齢者福祉施設	3	3	2	ノロウイルス	G II
4	H25. 4	小学校	2	2	2	ノロウイルス	G I
5	H25. 9	保育園	23	37	28	ノロウイルス	G II
6	H25. 12	飲食店	11	23	20	ノロウイルス	G II
7	H25. 12	福祉施設	13	20	11	ノロウイルス	G II
合計			56	101	73		

⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成 25 年 1 月から 12 月の間に、ノロウイルスによる集団胃腸炎が 6 例発生した。いずれも施設内での感染が疑われた事例で、検出数は 18 件で遺伝子群はすべて G II であった。

(平井有紀、石井圭、松葉友美、佐藤健)

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H25. 1	高齢者施設	16	4	4	ノロウイルス	G II
2	H25. 3	高齢者施設	19	2	2	ノロウイルス	G II
3	H25. 3	高齢者施設	70	6	5	ノロウイルス	G II
4	H25. 5	高齢者施設	12	5	3	ノロウイルス	G II
5	H25. 12	保育施設	25	5	3	ノロウイルス	G II
6	H25. 12	高齢者施設	25	1	1	ノロウイルス	G II
計			167	23	18		

#### (4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の検出状況

神奈川県衛生研究所

###### <手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 164 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、120 例から 124 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A6 型 70 株、CA16 型 15 株、CA5 型 1 株、CB4 型 2 株、エンテロウイルス (EV) 71 型 24 株、ライノウイルス 6 株、エコーウイルス 7 型 2 株、アデノウイルス 5 型 2 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 2 株であった。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 4 例あり、CA6 型とライノウイルスが 1 例、CA6 型とアデノウイルス 5 型が 1 例、CA6 型と CB4 型が 1 例、CA16 とライノウイルスが 1 例であった。平成 25 年夏季は例年に比べて手足口病の検査依頼件数が多く、検出されたウイルスの多くがヘルパンギーナの主因ウイルスとされていた CA6 型であった。CA6 を原因とする手足口病は平成 23 年度夏季にも流行しており、今後動向が注目される。秋季以降は従来の手足口病の主因ウイルスである EV71 型と CA16 型が主に検出された。

###### <ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 34 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、23 例から 26 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (C) A6 型 12 株、CA5 型 2 株、CA4 型 1 株、CA2 型 1 株、CA10 型 1 株、CA12 型 1 株、CB4 型 2 株、CB5 型 1 株、エンテロウイルス 71 型 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 株、アデノウイルス (Ad) 2 型が 1 株、Ad5 型が 2 株であった。このうち同一患者検体から重複して検出された例が 3 例あり、CA6 型と Ad5 型が 1 例、CA6 型と CB4 型が 1 例、CA6 型と CB5 型が 1 例であった。平成 25 年は CA6 型が手足口病同様最も多く検出された。

###### <咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 34 例についてウイルス分離検査を実施したところ、31 株のウイルスが検出された。最も多く検出されたウイルスは、アデノウイルス (Ad) 2 型 12 株で、その他 Ad3 型 8 株、Ad4 型 8 株及び Ad1 型 3 株が検出された。

(伊達佳美、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、黒木敏郎)

##### ② 川崎市の検出状況

川崎市健康安全研究所

###### <手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 15 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、14 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキー A6 型 9 例、コクサッキー A16 型 1 例、エンテロウイルス 71 型 1 例、ライノウイルス 2 例、アデノウイルス 2 型 1 例であった。

###### <咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 1 例についてウイルス分離検査を実施したところアデノウイルス 3 型が検出された。

(松島勇紀、清水英明)

## (5) 蚊媒介感染症

### ① 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

米国におけるウエストナイルウイルス（WNV）の流行に伴い、横浜市は行政的な防疫対策として死亡鳥類と蚊を用いた WNV のサーベイランス事業を平成 15 年 7 月 15 日から実施している。

本年度の死亡鳥類の検査はなかった。

一方で、デングウイルスや WNV、日本脳炎ウイルス、チクングニアウイルスなど、蚊を媒介とする感染症のサーベイランス事業を、平成 23 年度より横浜市内 18 区 19 ヶ所の公園にドライアイス併用のライトトラップを設置し、採集された蚊を用いて開始した。

採集方法としては、夕方にライトトラップを設置し、翌日の朝に採集された蚊を回収した。公園内での一連のライトトラップの設置、蚊の回収、当所への検体の搬送に関しては、横浜市各区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。平成 25 年度の蚊の採集期間は、6 月 4 日から 10 月 30 日までで、19 ヶ所の公園・事業所において、10 回ずつ採集した。検査した蚊の総個体数は、9,198 匹であった。蚊の種類別ではアカイエカ群 1,036 匹、ヒトスジシマカ 7,663 匹、コガタアカイエカ 10 匹、ヤマトヤブカ 184 匹、オオクロヤブカ 20 匹、キンパラナガハシカ 215 匹、その他 70 匹であった。また、デングウイルスや WNV、日本脳炎ウイルスを含むフラビウイルス、チクングニアウイルス遺伝子は、全て不検出であった。

（林 宏子、小澤 広規、伊藤真弓、小曾根恵子、植木 聡、宇宿 秀三、森田 昌弘）



表 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス検査結果

		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
区名	トラップ設置場所	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	鶴見	大黒中央公園	24	25	45	59	28	348	81	136	64	221	1031
2	神奈川	三ツ沢公園	128	3	17	41	24	57	25	40	80	42	457
3	西	掃部山公園	14	4	107	37	1	373	197	102	97	19	951
4	中	シンボルタワー	10	1	2	15	20	3	7	7	59	12	136
5	南	蒔田の森公園	9	78	62	0	69	235	184	36	44	5	722
6	港南	久良岐公園	48	28	47	69	30	25	28	26	155	11	467
7	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園	0	6	36	14	165	63	42	52	27	6	411
8	旭	こども自然公園	11	5	63	13	68	34	47	24	10	20	295
9	磯子	岡村公園	10	65	208	228	174	196	36	63	230	9	1219
10	金沢	長浜公園	2	2	42	34	51	135	38	21	71	4	400
11	港北	大倉山公園	36	10	13	68	61	220	145	86	30	45	714
12	緑	北八朔公園	8	8	33	5	49	103	88	41	127	7	469
13	青葉	青葉区土木事務所	0	0	0	10	2	3	6	3	2	0	26
14	都筑(*1)	都筑中央公園	6	-	7	-	20	43	25	6	1	6	114
15	戸塚	舞岡公園	54	0	24	39	9	42	18	5	7	9	207
16	栄	小菅ヶ谷北公園	0	0	18	7	25	46	34	26	22	2	180
17	泉	泉中央公園	5	7	4	5	12	16	10	4	24	12	99
18	瀬谷	二ツ橋公園	6	0	9	40	5	9	2	10	27	5	113
19	鶴見	馬場花木園	16	2	35	296	47	340	241	176	25	9	1187
総計			387	244	772	980	860	2291	1254	864	1102	444	9198
蚊の種類			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
アカイエカ群			125	73	74	178	90	140	66	106	99	85	1036
ヒトスジシマカ			195	78	664	741	736	2119	1150	723	914	343	7663
コガタアカイエカ			0	0	0	0	0	0	1	5	4	0	10
ヤマトヤブカ			5	90	16	28	4	12	10	7	8	4	184
オオクロヤブカ			1	2	5	1	2	3	1	0	2	3	20
キンパラナガハシカ			57	0	8	28	23	10	15	20	48	6	215
その他(*2)			4	1	5	4	5	7	11	3	27	3	70
総計			387	244	772	980	860	2291	1254	864	1102	444	9198
ウイルス遺伝子の検出結果			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
フラビウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
チクングニアウイルス			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(\*1) 都筑区では10/23、10/30に追加調査を実施しましたが、蚊類は捕獲されませんでした。

(\*2) その他には、カラツイエカ、フタクロホシチビカ等が含まれています。

## ② 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

川崎市健康安全研究所

市内7箇所の保健所にライトトラップを設置し、平成25年6月から11月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊183プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊76プールについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

(駒根綾子、清水英明)

表 川崎市のWNVサーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

採取月（プール数）	6月	7月	8月	9月	10月	11月	総計
川崎保健所	5	10	8	5	2	3	33
幸保健所	4	6	4	4	2	0	20
中原保健所	6	9	7	6	2	0	30
高津保健所	5	5	5	4	4	0	23
宮前保健所	5	7	6	8	8	2	36
多摩保健所	3	6	6	2	3	1	21
麻生保健所	4	5	5	3	3	0	20
合計	32	48	41	32	24	6	183
蚊の種類（雄雌合計匹数）							
アカイエカ群	182	256	80	49	40	7	614
ヒトスジシマカ	10	59	157	179	57	5	467
ヤマトヤブカ	0	0	0	0	0	1	1
総計	192	315	237	228	97	13	1082
ウイルス遺伝子の検出結果							
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニヤウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

### ③ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として平成 25 年 6 月より 9 月まで計 4 回実施した。設置場所は三笠公園敷地内及び動物愛護センター敷地内とし、蚊を捕獲(ドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法)、分類した後、RT-PCR 法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査、デングウイルス遺伝子検査及びチクングニアウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した 109 匹の蚊(イエカ類 15 匹、ヤブカ類 94 匹)からウエストナイルウイルス、デングウイルス及びチクングニアウイルスの遺伝子は検出されなかった。

(山口純子)

表 ウエストナイル熱等媒介蚊検査結果(平成 25 年)

設置回数		1	2	3	4	総計(匹)
設置月		6月	7月	8月	9月	
設置場所	三笠公園	13	17	22	3	55
	動物愛護センター	8	31	6	9	54
総計		21	48	28	12	109
内訳	イエカ類	5	6	1	3	15
	ヤブカ類	16	42	27	9	94
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

## (6) その他のウイルス性感染症

### (6)-1

#### ① 神奈川県日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950年代には年間数千人の発生があったが、1967年から1976年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980年代には年間数十人となった。1992年以降は毎年10名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く日本脳炎ウイルスの主要な増幅動物とされ、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊の吸血行動によりヒトや他の動物へ感染する。ブタにおける日本脳炎ウイルス抗体保有状況を調査することで、日本脳炎ウイルスの侵淫状況の把握を行い、ヒトへの感染予防の注意を促すため県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後5～8ヵ月齢の県内産の豚を対象に、平成25年7月から9月までの期間に採取した160検体(8回×20検体)について、血中のJaGAr01株に対する血球凝集抑制(HI)抗体及び2-メルカプトエタノール感受性(2-ME)抗体を測定した。その結果、7月30日に採血された1検体、9月3日1検体、9月10日5検体、9月24日7検体(計14検体)から20倍以上のHI抗体が検出された。また、9月10日の5検体中3検体、9月24日の7検体中2検体(計5検体)から2-ME抗体が検出された。平成25年は9月に抗体が確認されたことから、県内における9月中旬のウイルス活動が示され、日本脳炎ウイルスを持つ蚊による感染機会があったと考えられた。ヒトへの感染予防対策を講じるために、引き続き豚の日本脳炎ウイルスの抗体保有状況調査を行い、日本脳炎ウイルスの侵淫度について追跡する必要があると思われる。

(鈴木理恵子、金城恵子、木村睦未、近藤真規子、黒木俊郎)

表 豚の日本脳炎ウイルス抗体保有状況(平成25年7月～9月)

採血月日	検査数	HI 抗体価							抗体陽性率 (%)	2-ME感受性抗体 陽性数/検査数(%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
7/23	20	20							0	
7/30	20	19		1					5	0
8/6	20	20							0	
8/13	20	20							0	
8/27	20	20							0	
9/3	20	19					1		5	0
9/10	20	15					2	3	25	3/5(60)
9/24	20	13					1	3	35	2/7(29)

(6)-2

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑似患者からの麻疹ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市を除く）では国の通知に基づき、麻疹疑似例報告について PCR 検査を実施している。2013 年に当所に搬入された麻疹疑似報告 64 例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ 3 例（9 月 2 例、12 月 1 例）から麻疹ウイルスが検出された。検出された麻疹ウイルスについて系統樹解析を行ったところ、9 月に検出された 2 例は D8 型、12 月の 1 例は B3 型であった。D8 型 2 例は、潜伏期間から兄弟間で感染したと推定されたが、海外渡航歴はなく国内での感染と考えられた。8 月には東京都と静岡県から 1 例ずつ患者報告があり、いずれも台湾への渡航歴が確認されているが、この兄弟との疫学的リンクについては不明であった。しかし、国立感染症研究所で東京、静岡、神奈川の計 4 例の系統樹解析を行ったところ、塩基配列（450bp）が全て一致していたことから、同じ麻疹ウイルス株による感染であることが確認された。B3 型はフィリピン等東南アジアを中心とした流行型であり、患者のグアムへの渡航歴も確認されたことから、海外輸入例と推定された。

麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった 61 例について、麻疹と臨床症状の類似した風疹ウイルスについて PCR 検査を行い、61 例中 32 例から風疹ウイルスを検出した。検出された風疹ウイルスの系統樹解析を行ったところ、30 例が 2B 型、2 例が 1E 型であった。神奈川県では 2011 年から 2B 型が検出されていたが、2013 年には西日本を中心として全国的な流行がみられ、2B 型は国内で定着していると思われる。

（鈴木理恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

② 相模原市の麻疹ウイルス検出状況

相模原市衛生試験所

平成 25 年に相模原市内の医療機関において麻疹と臨床診断された 14 例（9 か月～64 歳）のべ 22 検体について麻疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、麻疹ウイルス遺伝子が検出された事例はなかった。なお、追加検査として全事例において風疹ウイルス遺伝子検査を実施したところ、22 検体中 6 検体から風疹ウイルスが検出された。

（鷺谷則子、鈴木敏彦、望月響子、荒川小夜子）

(6)-3

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

昭和 53 年から義務接種として始まったわが国の麻疹ワクチン予防接種は、平成 6 年 10 月の予防接種法改正にともない勸奨性となり、平成 18 年 4 月からはそれまでの 1 回接種から 2 回接種へと移行した。平成 19 年には 10 代から 20 代を中心とする大規模な流行が発生したため、平成 20 年 4 月から 5 年間の時限措置として、中学 1 年生と高校 3 年生に相当する年齢者の 2 回目接種を追加するなど、麻疹対策が強化されている。小児の麻疹ウイルスに対する免疫状態を把握することが必要なことから、昭和 54 年以降、麻疹ウイルスに対する抗体の保有状況調査を行っている。

平成 25 年 7 月に採取された小児（0～14 歳以下）102 名および 15 歳以上の一般健康人 230 人の血清計 332 例について麻疹ウイルス抗原を吸着したゼラチン粒子による凝集反応（PA）法で麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。年齢別に PA 抗体価 1：16 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳以下の乳児の抗体保有率は 57.1%で、抗体を保有していたのは、生後 0 ヶ月～5 ヶ月の乳児であり母子移行抗体と思われた。0 ヶ月～5 ヶ月の乳児の 20%、6 ヶ月～12 ヶ月の乳児では 100%が抗体陰性であった。第 1 期のワクチン接種対象年齢を含む 1 歳～4 歳の年齢群では 86.0%が抗体を保有していたが、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 64.3%と低く、2 歳～4 歳では 96.6%と高くなっていた。第 2 期ワクチン接種対象年齢を含む 5 歳～9 歳の年齢群では 100.0%、第 3 期を含む 10 歳～14 歳では 85.0%、第 4 期を含む 15 歳～19 歳の年齢群では 96.7%、20 歳以上の群では 83.9%～100.0%、全年齢層の平均抗体保有率は 90.7%で、昨年の 96.8%と比較すると抗体保有率は低下していた。2008 年 4 月から 5 年間の時限措置として行われてきた中学 1 年生（第 3 期）、高校 3 年生（第 4 期）の追加接種の実施により、全国的には抗体保有率の上昇がみられているが、2012 年度における神奈川県の麻疹・風疹ワクチンの第 2 期以降の接種率は 95%に達しておらず（第 2 期 92.9%、第 3 期 83.6%、第 4 期 68.2%）、全国平均（第 2 期 93.7%、第 3 期 88.8%、第 4 期 83.2%）を大きく下回っていた。このことが、今回調査における抗体保有率低下の一要因と思われる。また、抗体価 1：128 以上の発症予防可能レベルの抗体保有者は 77.1%、発症予防可能レベル未満（抗体価 1：64 以下）は 22.9%である。発症予防可能レベル未満のうちワクチンの追加接種対象群（9 歳以下）が占める割合は 20%で、今後ワクチンの接種により抗体保有率の上昇が期待できるが、10 歳以上のワクチンの追加接種対象群以外の 80%は、ワクチンの接種を推奨するなど対策が必要となる。「麻疹に関する特定感染症予防指針」の告示効果もあり、患者報告数は減少しているが、患者の多くは渡航歴があり、その遺伝子型も海外での流行型で、渡航歴のない患者から検出される遺伝子型も海外での流行型と同様なことから、国内での二次感染が強く疑われる。ワクチン接種による抗体保有率を上昇させることで、海外輸入例を発端とした麻疹の流行を抑制するためにも、今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況の把握を行い、予防接種の必要性と麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要と思われる。

（鈴木理恵子、木村睦未、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

表 麻疹ウイルス抗体保有状況（平成 25 年 7 月）

年齢	抗体価		P A抗体価							検査数 (人)	抗体 保有率 (%)	2012年 抗体保有率 (%)
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	≥2048			
1歳未満	6		1		5		1		1	14	57.1	33.3
1～4歳	6		1	1	4	5	16	8	2	43	86.0	94.7
5～9歳					9	8	6	2		25	100.0	95.7
10～14歳	3	1		5	4	4	3			20	85.0	90.9
15～19歳	1		2	3	5	9	6	1	3	30	96.7	100.0
20～24歳	2			2	8	6	4	2	4	28	92.9	93.3
25～29歳	2		2	6	5	6	5	2		28	92.9	100.0
30～34歳	4		2	1	3	10	4	2	3	29	86.2	100.0
35～39歳			1	2	5	6	5	4	2	25	100.0	100.0
40～49歳	5	1	3	2	5	6	4	3	2	31	83.9	100.0
50～59歳	1		2	2	5	1	8	3	7	29	96.6	100.0
60歳以上	1	1	3	1	4	2	9	4	5	30	96.7	100.0
計	31	3	17	25	62	63	71	31	29	332	90.7	96.8

(6)-4

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 25 年においては、一般健康人男女 332 名を対象として、麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

年齢別に HI 抗体価 1 : 8 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳以下の乳児の抗体保有率は 57.1% で、このほとんどは生後 0 ヶ月～5 ヶ月の乳児であり母子移行抗体と思われた。しかし、0 ヶ月～5 ヶ月の乳児の 20%、6 ヶ月～12 ヶ月の乳児の 100% が抗体陰性であった。

ワクチン接種対象年齢を含む 1 歳～4 歳の年齢群では 86.0% が抗体を保有していたが、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 64.3% と低く、2 歳～4 歳では 96.6% と高くなり、5 歳～9 歳では 96.0%、10 歳～14 歳では 90.0%、15 歳～19 歳では 96.7% であった。

ワクチン対象年齢群以外では、昨年と同様に 20 歳～24 歳で抗体保有率が 71.4% と最も低く、25 歳以上の群では 86.2%～96.6% となり、全年齢層の平均抗体保有率は 88.3% で、昨年の 88.4% と同様であった。

「感染症流行予測調査報告書（平成 22 年度）」では、麻疹抗体を保有しない 20 歳以上の男性が 10%～30% いると報告されている。今回の調査では、男女ともに 20 歳～24 歳の年齢群の抗体保有率は低く、男性だけではなく女性も含めワクチン接種を推奨する必要がある。抗体保有率の低い年齢層は今後の流行の主体になると考えられ、これらの年齢層の抗体保有状況の推移を監視するとともに、男性および妊娠前や妊娠可能年齢層への麻疹ワクチン接種を継続して奨励する必要があると思われる。

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

表 風疹ウイルス抗体保有状況（平成 25 年 7 月）

年齢	抗体価	H I 抗体価								検査数 (人)	抗体 保有率 (%)	2012年 抗体保有率 (%)	
		<8	8	16	32	64	128	256	512				≥1024
1 歳未満		6	1	1	3	2	1				14	57.1	33.3
1～4歳		6	2	1	8	11	11	2		2	43	86.0	94.7
5～9歳		1	1	3	11	6	2		1		25	96.0	95.7
10～14歳		2		3	7	6	2				20	90.0	86.4
15～19歳		1		7	12	5	4	1			30	96.7	90.9
20～24歳		8	3	2	8	6		1			28	71.4	73.3
25～29歳		3		4	6	5	7	2	1		28	89.3	90.0
30～34歳		1		3	5	9	7	3	1		29	96.6	100.0
35～39歳		2		2	6	8	4	3			25	92.0	83.3
40～49歳		3	2	3	5	5	7	2	2	2	31	90.3	87.5
50～59歳		4	1	1	8	8	4	3			29	86.2	82.1
60歳以上		2	1	4	9	4	7		2	1	30	93.3	96.0
計		39	11	34	88	75	56	17	7	5	332	88.3	88.4



## 2 細菌性感染症

### (1) 腸チフス・パラチフス

#### ① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のフェージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 25 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではチフス菌感染事例が 2 件、パラチフス A 菌感染事例が 2 件認められた。患者の海外渡航先は、カンボジアおよびベトナムへの渡航者が 1 名、インドネシアが 1 名、ネパール、インドおよびバングラディッシュが 1 名、カンボジアが 1 名であった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

#### 平成 25 年に分離されたチフス菌およびパラチフス A 菌

所轄保健福祉事務所	分離菌	フェージ型	患者性別	患者年齢	渡航歴
鎌倉	パラチフス A 菌	2	男	76	カンボジア・ベトナム
鎌倉	パラチフス A 菌	1	男	61	インドネシア
鎌倉	チフス菌	E1	女	24	ネパール・インド・バングラディッシュ
大和	チフス菌	UVS4	女	36	カンボジア

#### ② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 25 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 5 件、パラチフス A 菌は 2 件、計 7 件であった。本年は、9 月と 10 月に海外渡航歴が無く国内発生が疑われる腸チフスが 2 件、海外に渡航した後に腸チフス、パラチフスを発症した事例が 5 件であった。海外渡航先等患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。薬剤感受性はミャンマー、ネパールに渡航した腸チフス患者の 2 株 (No. 1 および No. 4) がナリジクス酸耐性、インド、ネパールに渡航した腸チフス患者の 2 株 (No. 2 および No. 7) がナリジクス酸及びシプロフロキサシンに耐性を示し、インド亜大陸由来の株がキノロン系薬剤に耐性を示す傾向にあった。また、1 例はネパール国籍の患者でネパールに里帰りした際に感染した事例であった。なお、国内発生が疑われたフェージ型 A の 2 株は同時期に関東甲信越地方で分離された他の国内発生事例の菌株と MLVA、PFGE がほぼ同様であり、同じ clonal complex であると示唆された事例であった。

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

表 チフス菌、パラチフス A 菌のフェージ型

番号	分離月日	性別	年齢	疾病名	フェージ型	備考
1	H25. 1. 8	男	35	腸チフス	E1	ミャンマーに渡航歴あり
2	H25. 4. 19	男	20	パラチフス	5	インドに渡航歴あり
3	H25. 5. 31	男	65	パラチフス	2	カンボジア・ベトナムに渡航歴あり
4	H25. 7. 16	男	33	腸チフス	E1	ネパールに渡航歴あり（ネパール国籍）
5	H25. 9. 17	男	73	腸チフス	A	海外渡航歴なし
6	H25. 10. 18	男	34	腸チフス	A	海外渡航歴なし
7	H25. 11. 8	女	21	腸チフス	UVS1	ネパールに渡航歴あり

③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果

川崎市健康安全研究所

平成 25 年 1 月～12 月の間に川崎市内で分離されたチフス菌は 1 件、パラチフス A 菌は 2 件であった。パラチフスを発症した 2 名はカンボジアへの渡航歴のある患者であり、チフスを発症した 1 名は渡航歴がなかった。患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。

(本間幸子 湯澤栄子 窪村亜希子 小河内麻衣 佐藤弘康)

表 チフス菌、パラチフス A 菌のフェージ型

番号	発症日	性別	年齢	菌種	フェージ型	渡航先
1	H. 25. 4. 19	男	26	パラチフス A	2	カンボジア
2	H. 25. 6. 2	女	47	パラチフス A	2	カンボジア
3	H. 25. 7. 28	男	32	腸チフス	A	なし

## (2) 細菌性腸管系感染症

### ① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 25 年 1 月から 12 月における腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の分離状況を以下の表に示した。EHEC の受領株数および接触者検便で分離された株数は、O157 が 31 株、O26 が 4 株、O103 が 3 株、O121 が 2 株、O111 が 1 株の計 41 株であった。表に所轄保健福祉事務所の分離数と毒素型を示した。複数の他の自治体間で同一の PFGE パターンを示す O157 が分離された事例が 1 件確認され、本事例では、PFGE および IS-Printing の解析結果を用いて自治体間において迅速に情報共有されたが、原因は不明であった。他の分離株については家族内事例あるいは散発事例由来株であり、集団感染は確認されなかった。

(古川一郎、小泉明子、佐多辰、石原ともえ、渡辺祐子)

表 所轄保健福祉事務所からの EHEC 受領状況

所轄保健福祉事務所	O157			O26	O103	O121	O111	計
	VT1&2	VT1	VT2	VT1	VT1	VT2	VT1&2	
厚 木	3		6	1	1			11
秦 野	5	1	1	2	1		1	11
大 和	4		3					7
鎌 倉			3		1			4
平 塚	1		1	1				3
小田原	2					1		3
足柄上	1					1		2
計	16	1	14	4	3	2	1	41

### ② 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 25 年 1 月から 12 月において神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)に送付あるいは接触者検便から当所で分離された赤痢菌株は 4 株(表)で、*Shigella flexnerii* が 1 株、*Shigella sonnei* が 3 株であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。

(古川一郎、小泉明子、佐多辰、石原ともえ、渡辺祐子)

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所	性別	年齢	菌種	渡航歴
平塚	男	27	<i>S. flexnerii</i>	インド
鎌倉	女	61	<i>S. sonnei</i>	なし
鎌倉	女	28	<i>S. sonnei</i>	ベトナム
鎌倉	男	60	<i>S. sonnei</i>	ベトナム

平成 25 年 1 月から 12 月に神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

③ 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 25 年 1 月から 12 月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。

病原菌の検出数は 135 件中 27 件(20.0%)であり、その内訳は腸管病原性大腸菌(EPEC)16 件、毒素原性大腸菌(ETEC)1 件、カンピロバクター・ジェジュニ 6 件、サルモネラ属菌 3 件、ビブリオ・フルビアリス 1 件、セレウス菌 1 件、エロモナス・ハイドロフィラ 1 件であった。同一患者から重複して分離された事例は、カンピロバクター・ジェジュニ及びエロモナス・ハイドロフィラの重複が 1 件、腸管病原性大腸菌及びセレウス菌の重複が 1 件認められた。

EPEC 16 株の血清型の内訳は、015 (4 株)、06 (3 株)、025 (2 株)、028ac (1 株)、044 (1 株)、055 (1 株)、086a (1 株)、0127a (1 株)、0153 (1 株)、0158 (1 株)であった。ETEC 1 株は血清型別不能であった。

(古川一郎、石原ともえ、渡辺祐子)

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	14	16	18	18	11	9	10	3	4	7	11	14	135
陽性数	1	0	2	3	3	2	3	0	2	4	6	1	27
%	7.1		11.1	16.7	27.3	22.2	30.0		50.0	57.1	54.5	7.1	20.0
検出病原体内訳													
腸管病原性大腸菌	1		2	1	3		1			4	3	1	16
毒素原性大腸菌							1						1
カンピロバクター・ジェジュニ				1		1	1		1		2		6
サルモネラ属菌				1		1					1		3
ビブリオ・フルビアリス									1				1
セレウス菌										1			1
エロモナス・ハイドロフィラ									1				1

#### ④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 25 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 81 株であり、その血清型と毒素型は表のとおりであり、O 群別では、例年どおり O157 が一番多く 64 株 (79.0%) であった。次いで O103 が 9 株 (11.1%)、O26 が 6 株 (7.4%) となり、患者家族の接触者調査において菌が多く分離されたことから、O103 の割合が多かったことが本年の特徴であった。本年は、大規模な集団事例は、あまり見られず家族内での感染が散見される程度であった。6 月に川崎市内の焼肉店を利用した O157 集団食中毒事例に関連して 2 家族から菌が分離された。

川崎市の事例では、菌株送付と共に当所で行った IS-printing による解析結果を伝えた。昨年を引き続き、IS-printing による解析は、複数の自治体にまたがる集団発生の際にはアウトブレイクを探知する情報として有用であると思われた。

(山田三紀子 松本裕子 太田嘉)

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	菌株数
O157 : H7	VT1&2	38
O157 : H7	VT2	18
O157 : H-	VT1&2	5
O157 : H-	VT2	2
O157 : H-	VT1	1
O103 : H-	VT1	5
O103 : H+	VT1	4
O26 : H11	VT1	5
O26 : H-	VT1	1
O121 : H+	VT2	1
O186 : H-	VT1&2	1
計		81

#### ⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 25 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は 8 株であり、その菌種、血清型は表のとおりであった。

*Shigella sonnei* が 4 株、*S. flexneri* 2、*S. flexneri* 2b および *S. flexneri* 4、*S. flexneri* 6 が各 1 株であった。

11 月に分離された *S. flexneri* 2 および 12 月に分離された *S. sonnei* の患者は渡航歴がなく国内発生が示唆された。海外渡航歴は、インド亜大陸、東南アジアおよびアフリカであった。

なお、本年は横浜市内でコレラの発生は確認されなかった。

(松本裕子 山田三紀子 太田嘉)

表 赤痢菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	H25. 1. 4	男	22	<i>S. flexneri</i>	2b	インドネシア
2	H25. 6. 15	女	35	<i>S. sonnei</i>		カンボジア・ベトナム
3	H25. 7. 19	女	41	<i>S. sonnei</i>		インド
4	H25. 8. 16	女	26	<i>S. sonnei</i>		カンボジア
5	H25. 10. 4	男	22	<i>S. flexneri</i>	4	インド・ネパール・バングラディシュ
6	H25. 11. 9	男	62	<i>S. flexneri</i>	6	ルワンダ・タンザニア
7	H25. 11. 9	男	23	<i>S. flexneri</i>	2	海外渡航歴なし
8	H25. 12. 3	男	78	<i>S. sonnei</i>		海外渡航歴なし

⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況

川崎市健康安全研究所

平成 25 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 118 株であり、その血清型と毒素型は表のとおりである。最も多い血清型は O145 の 67 株 (56.8%) であり、次いで O157 が 44 株 (37.3%) であった。O145 については、8 月に保育施設において集団事例があり、62 株が分離された。また、9 月には焼肉店において、O157 による集団食中毒事例があった。

(本間幸子 湯澤栄子 窪村亜希子 小河内麻衣 佐藤弘康)

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	株数
O145:H-	VT1	62
O145:H-	VT2	5
O157:H7	VT2	29
O157:H7	VT1&2	14
O157:H-	VT1&2	1
O103:H2	VT1	3
O111:H-	VT1	2
O111:H-	VT1&2	1
O26:H11	VT1	1
計		118

⑦ 相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生試験所

感染症法に基づく感染症病原菌検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成 25 年 1 月から 12 月までの検査対象はすべて腸管出血性大腸菌（0157、0111、026、0103）で 11 事例あり、検査対象者はのべ 42 名であった。うち、病原菌は 2 名から検出され、血清型は 0157 : H7（VT1/VT2）および 0157 : H7（VT2）であった。

月別の検査状況は表のとおりであった。

（田村有美、佐藤宏樹、金沢聡子）

表 相模原市の三類感染症病原菌検索状況（）は陽性数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
事例数						1	4	4	1		1		11
腸管出血性大腸菌						3	14(1)	20(1)	3		2		42(2)

⑧ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市内各医療機関から提出された下痢・腹痛を主症状とする患者糞便と菌株、感染症法に基づく発症者、発症者家族及び接触者の糞便を対象に腸管系病原菌検査を実施した。実施期間は平成 25 年 1 月から 12 月で、これらの結果について報告する。材料は糞便 32 件、菌株 5 件の合計 37 件であった。病原菌分離・同定は常法により行った。

病原菌検出状況を表 1 に示す。検査した 37 件から腸管系病原菌が 13 株検出された。陽性株の内訳は、腸管出血性大腸菌が 10 株、毒素原性大腸菌が 2 株、エンテロトキシン A 型産生黄色ブドウ球菌が 1 株であった。

検出病原菌の血清型を表 2 に示す。腸管出血性大腸菌は 0157:H7 が 5 株、OUT:HNM が 4 株、026:H11 が 1 株であった。毒素原性大腸菌は 06:HNM が 1 株、027:H7 が 1 株であった。

（木村実千明、天野肇、古川美奈子、片倉孝子、長澤由美子、金川治義）

表1 散発下痢症・接触者等からの病原菌検出状況（平成25年1月～12月）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	1(0)	2(0)	5(1)	2(0)	0(0)	0(0)	16(0)	8(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(3)	37 <sup>†</sup> (4)
陽性株数	0(0)	0(0)	5(2)	2(0)	0(0)	0(0)	5(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	12(2)
陽性株内訳													
腸管出血性大腸菌		2(0)	2(0)				5(0)	1(0)					10(0)
毒素原性大腸菌		2(2)											2(2)
黄色ブドウ球菌		1(0)											1(0)

備考：† 印の内訳（菌株5件，糞便32件）

（ ）は海外渡航者由来を示す。

表2 検出病原菌の血清型（平成25年1月～12月）

病原菌	株数	血清型
腸管出血性大腸菌	10	0157:H7(5)，OUT:HNM(4)，026:H11(1)
毒素原性大腸菌	2	06:HNM(1)，027:H7(1)

備考：（ ）は菌株数を示す。

⑨ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

藤沢市保健所

平成25年1月から12月の間に発生した三類感染症の患者及び患者家族の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は5事例8検体で、病原菌検出状況は表に示したとおりである。内訳は、腸管出血性大腸菌感染症0103が1事例4検体、腸管出血性大腸菌感染症0157が3事例3検体、腸管出血性大腸菌感染症0186が1事例1検体であった。

（平井有紀、石井圭、松葉友美、佐藤健）

表 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性株数
1	腸管出血性大腸菌 0103	1	4	1
2	腸管出血性大腸菌 0157	3	3	0
3	腸管出血性大腸菌 0186	1	1	0
	計	5	8	1



### (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、平成25年は春から初夏にかけて報告が増加した。年齢別では、5歳から6歳を中心に報告が多かった。

#### ① A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東甲信静支部）活動の一環として2013年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内5施設の情報をまとめた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所（39株）、横浜市衛生研究所（42株）、川崎市健康安全研究所（5株）及び相模原市衛生試験所（1株）の計87株で、昨年の116株に比べ減少した。図1に分離株数及びT型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。

検出されたT型は、1型、2型、3型、4型、6型、11型、12型、25型、28型、B3264型および型別不能の11種類であった。これらのうち、T4型が23株（26.4%）と最も多く、以下T12型が12株（13.8%）、T6型11株（12.6%）、T1型が8株（9.2%）およびTB3264が7株（8.0%）の順で、これら5血清型で全体の70.1%を占めた。

最近4年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。2012年に比べ、検出数、検出率ともに、例年T4とT12型が高い傾向にあるが、昨年はT4が最も高くなった。また、昨年検出されていないT2型およびT9型が検出されている。

（大屋日登美、渡辺祐子、相川勝弘、黒木俊郎）

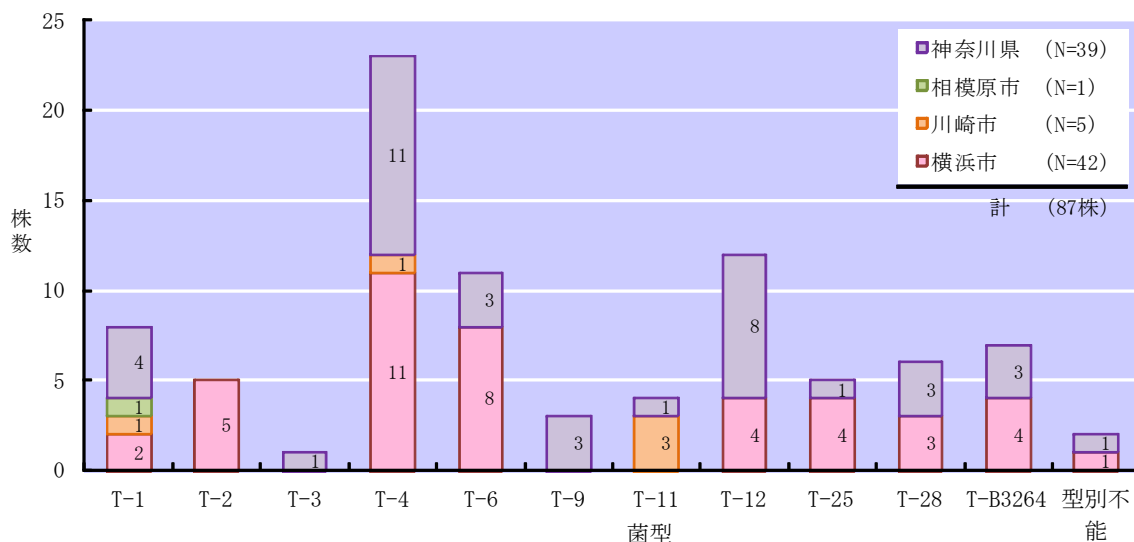


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(平成25年1~12月)

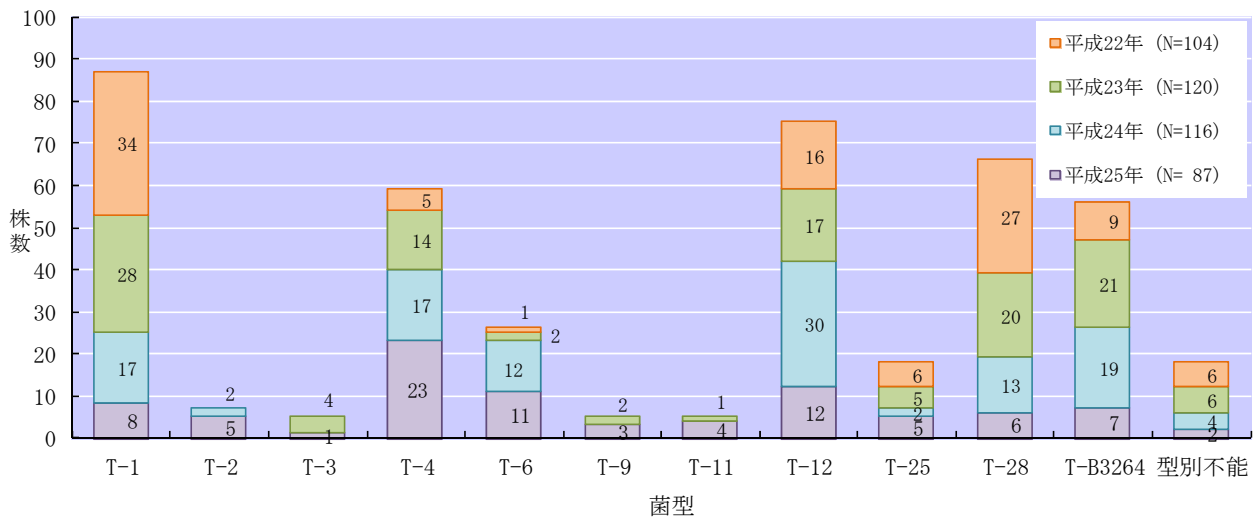


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移(平成22～25年)

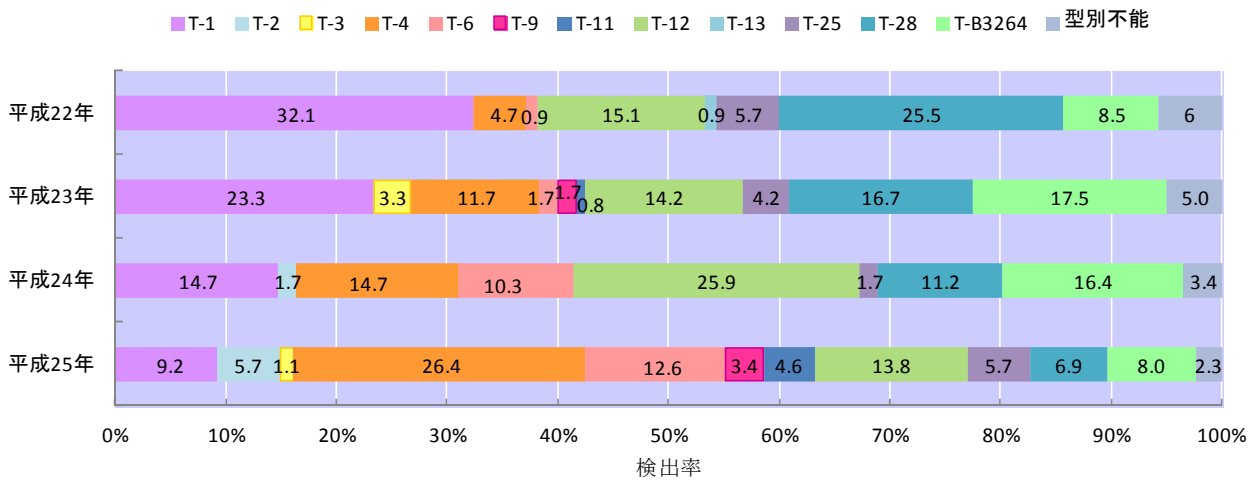


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移(平成22～25年)

## ② 横浜市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関（9ヶ所）において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成 25 年 1 月から 12 月までの検出状況は咽頭炎、発疹等の症状があり、溶血レンサ球菌の依頼があった 52 件中のうち、A 群溶血レンサ球菌は 42 件から分離された。その T 型別は表のとおりであった。

（松本裕子 山本芳郎 太田嘉）

表 A 群溶血レンサ球菌の T 型別結果

	T1	T2	T4	T6	T12	T25	T28	TB3264	T型別不能
2013年1～12月	2	5	11	8	4	4	3	4	1

## ③ 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性連鎖球菌の検索を実施した。平成 25 年 1 月から 12 月までに搬入された検体 5 件中 5 件から A 群溶血連鎖球菌が分離された（100.0%）。その T 型は T-1 が 1 件、T-4 が 1 件、T-11 が 3 件であった。

（宮下安子 淀谷雄亮 飯高順子）

#### (4) 結核

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における QFT 検査成績

神奈川県衛生研究所

QFT 検査は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の改正（平成 19 年）により潜在性結核感染症の診断検査法の一つとなり、感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第 4 版 平成 22 年）の中では QFT が第一優先の検査法と位置づけられた。その後 QFT と測定原理の異なる手法である T-SPOT が健康保険適用となり、QFT とともに広く実施されるようになってきたのを踏まえて現在では手引の内容が修正されている（改訂第 5 版 平成 26 年 3 月）。

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）では、検体数が年々増加してきており、平成 25 年には 229 事例 1,151 検体の依頼があり、前年（295 事例、1,156 検体）より事例数においては減少傾向がみられたが、検体数は同程度であった。結果は、陽性が 100 検体（8.6%）、判定保留が 100 検体（8.6%）、陰性が 943 検体（81.6%）、判定不可が 8 検体（0.7%）であった（表）。

平成 21 年から平成 25 年の 5 年間の事例数を被験者と患者の接触場所別に図に示した。平成 25 年を接触場所別にみると延べ 281 事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が 136 事例と最も多く、次にその他、職場がそれぞれ 51 事例、医療機関 42 事例、学校 1 事例の順であったが、1 事例あたりの検体数は、学校 17 検体と最も多く、医療機関 9.5 検体、職場 6.2 検体、その他 2.5 検体で、家庭は 2.1 検体と最も少なかった。陽性率が最も高かったのは学校 29.4%で、ついで家庭 14.5%、その他、職場がそれぞれ 7.9%、医療機関 4.5%の順であった。

（相川勝弘、大屋日登美、稲田貴嗣、浅井良夫、黒木俊郎）

表 結核接触者健診における QFT 検査結果（平成 25 年）

検体数	陽性数		判定保留		陰性数		判定不可	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%
1,151	100	8.6	100	8.6	943	81.6	8	0.7

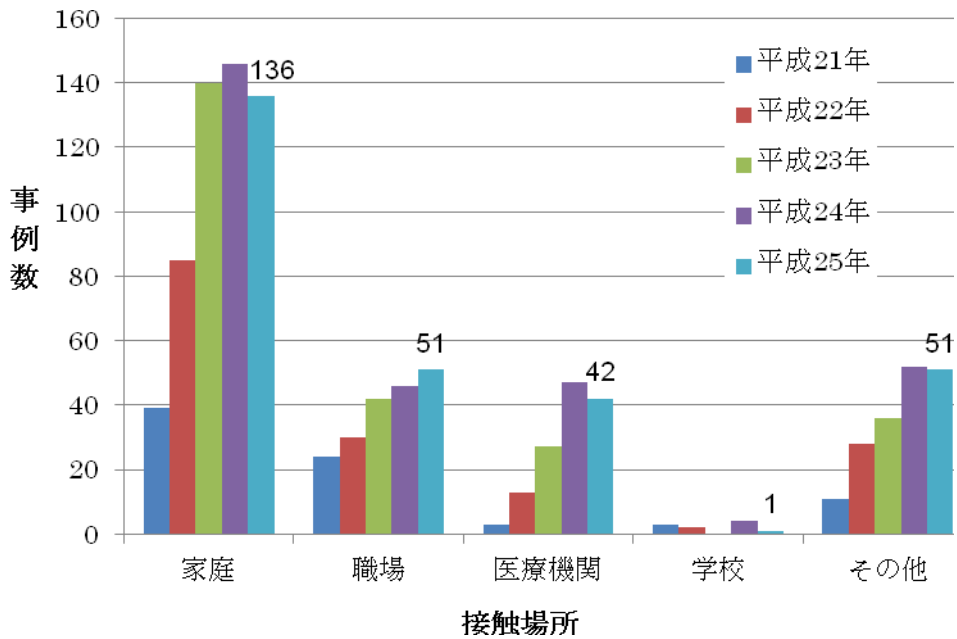


図 被験者と患者の接触場所別の事例数 (平成 21～25 年)

## ② 横浜市における QFT 検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市では平成 19 年 11 月より結核接触者検診における QFT 検査を開始した。平成 25 年には 9 事例 235 検体の依頼があった。表に示すように、陽性 10 検体 (4.3%)、判定保留 16 検体 (6.8%)、陰性 209 検体 (88.9%)、判定不可 0 検体 (0.0%) であった。9 月から外注検査の T-スポット検査に切り替わり、当所での QFT 検査は終了となった。

(小川敦子 松本裕子 太田嘉)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果 (平成 25 年)

検体数	陽性数		判定保留		陰性数		判定不可	
	検体数	%	検体数	%	検体数	%	検体数	%
235	10	4.3	16	6.8	209	88.9	0	0

### ③ 川崎市における QFT 検査成績

川崎市健康安全研究所

川崎市では平成 19 年から結核接触者における QFT 検査を実施している。平成 25 年は採血管不具合の影響を受け 9 月で検査を中止した。9 月までの検査結果は表に示すように、陽性 22 件 (5.8%)、判定保留 19 件 (5.0%)、陰性 338 件 (89.2%)、判定不可 0 件 (0.0%) であった。

9 月から 11 月の 3 カ月間は T-Spot TB を外部委託し、12 月から内部での検査を開始した。

(宮下安子 淀谷雄亮 飯高 順子)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果 (平成 25 年)

検査件数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
379	22	5.8	19	5	338	89.2	0	0

### ④ 横須賀市における QFT 検査成績

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市では平成 20 年 4 月から結核接触者検診における QFT 検査を実施している。平成 25 年 1 月から 4 月までの間に 90 件の依頼があった。表に示すように、陽性 10 件 (11.1%)、判定保留 15 件 (16.7%)、陰性 65 件 (72.2%)、判定不可 0 件 (0.0%) であった。陽性率 (11.1%) は、平成 23 年 (14.8%)、平成 24 年 (17.0%) と比較してやや低くなっている。平成 25 年 5 月から結核接触者検診の検査を QFT 検査から T-SPOT. TB 検査に変更し、それに伴い外部委託となった。

(木村実千明、天野肇、古川美奈子、片倉 孝子)

表 結核接触者検診における QFT 検査結果 (平成 25 年 1 月～4 月)

検査件数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
90	10	11.1	15	16.7	65	72.2	0	0.0

## (5) 百日咳

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS481-PCR 法及びPTp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成17年までは検出はなく、18年に3検体、19年に49検体でいずれも陽性検体はなかった。平成20年以降、病原体が分離培養及びPCRで検出されるようになった。平成25年は、11検体を検査し、培養法、IS481-PCR法ともに全て陰性であった。この5年間における検体数は平成21年が95検体、22年が38検体、23年は80検体、24年は51検体、25年は11検体で合計275検体であった(図1)。検出状況は、培養法で275検体中13検体(4.7%)、IS481-PCR法で275検体中15検体(5.5%)であった。

また、月別検査数については、例年6~8月に多くなる傾向があるが、昨年については検査数が少なくその傾向はみられなかった(図2)。検出された平成21~24年において月別検出状況をみると7月に比較的多く検出されていた(図3)。

(大屋日登美、鈴木美雪、石原ともえ、相川勝弘、黒木俊郎)

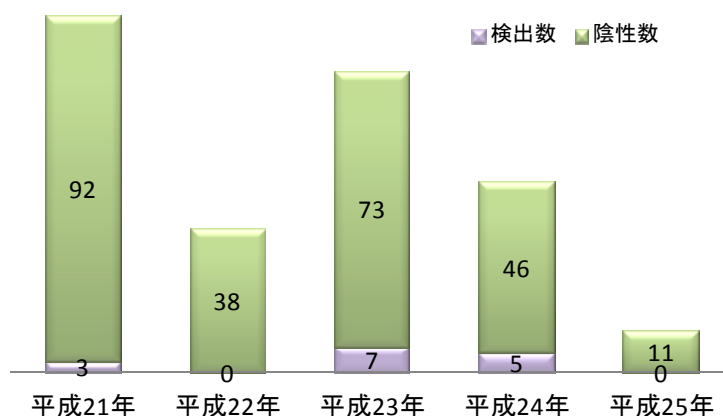


図1 百日咳の年別検出状況

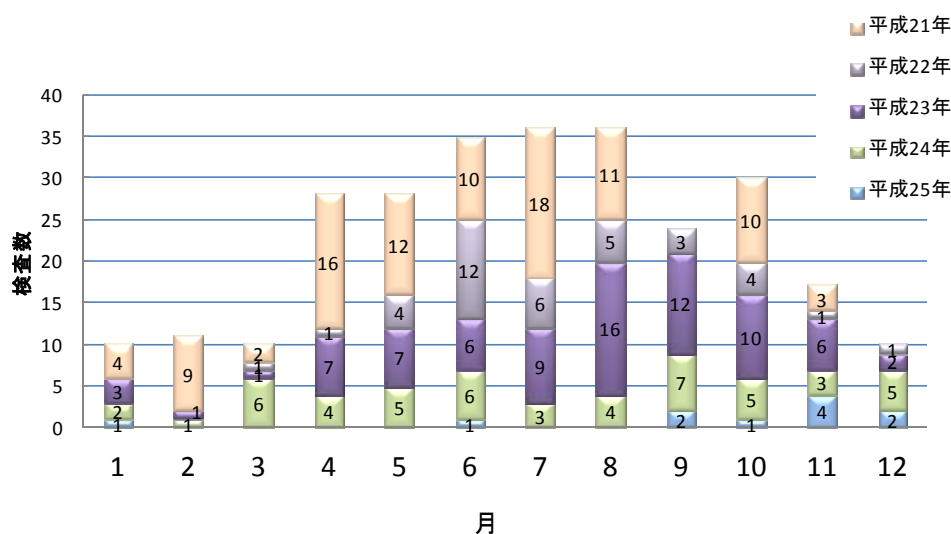


図2 百日咳の累積月別検査数

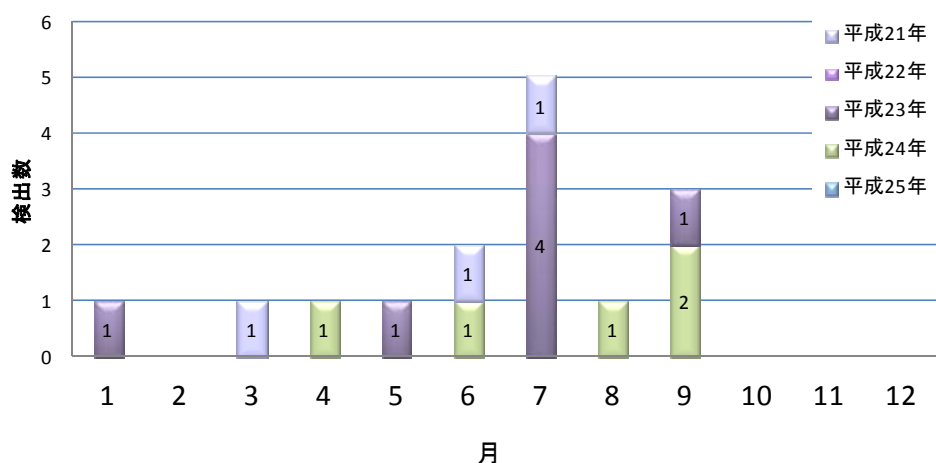


図3 百日咳の累積月別検出数

② 横浜市の百日咳検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市内の小児科病原体定点医療機関及びその他の医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、LAMP法による百日咳菌遺伝子検査を実施している。平成25年は鼻汁、後鼻腔ぬぐい液、髄液の11検体（表中、分離された菌株が搬入されたNo.7と10を除く）につき検査を行い、4件（36.4%）が陽性となった。また、2件（No.7と10）については病院で分離された菌株が搬入され、市内で百日咳菌または遺伝子が確認された患者は計6件であった。患者の由来は表のとおりであり、全員が1歳未満であった。DPTワクチン歴は、未接種または1回接種であった。なお、抗菌薬による治療開始前に検体採取が行われた事例や、LAMP法で早期に増幅が認められた検体などについては、培養検査も合わせて行い、2件（No.5、6）について百日咳菌が分離された。

（松本裕子 小泉充正 太田嘉）



表 百日咳の患者情報

番号	検体採取月	性別	月齢	主症状	DPTワクチン接種歴	LAMP結果	培養結果
1	3	女	3M	咳嗽・チアノーゼ	DPT 1回	陰性	N. T.
2	5	男	2M	咳嗽	なし	<b>陽 性</b>	N. T.
3	5	男	1M	咳嗽・チアノーゼ	なし	陰性	N. T.
4	8	女	1M	肺炎・けいれん	なし	陰性	N. T.
5	8	女	1M	肺炎	なし	<b>陽 性</b>	<b>陽 性</b>
6	8	女	2M	上気道炎・哺乳不良	なし	<b>陽 性</b>	<b>陽 性</b>
7	10	女	8M	不明	不明	N. T.	<b>陽 性</b>
8	10	男	3M	気管支炎・喘鳴・多呼吸	なし	陰性	N. T.
9	11	女	3M	上気道炎	なし	陰性	N. T.
10	11	女	6M	慢性咳嗽	不明	N. T.	<b>陽 性</b>
11	11	男	3M	発熱・気管支炎	なし	陰性	N. T.
12	12	女	1M	肺炎・気管支炎・上気道炎・呼吸不全	なし	<b>陽 性</b>	N. T.
13	12	男	2M	発熱・気管支炎	なし	陰性	N. T.

## (6) マイコプラズマ肺炎

### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマ検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法およびPCR法による検査を実施している。平成25年1月から12月の検出状況は、PCRで33検体中12件（36.4%）が検出された。このうち分離培養では陽性が8件、陰性が25件となった。全国的に流行があった平成23～24年に比べると病原体検出数が大きく減少したが、流行のなかった年と同程度であった。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが、2000年以降国内外で検出されている。神奈川県においても23S rRNA遺伝子のドメインV領域の2063番目のアデニンAがグアニンGに点変異しているA2063Gが最も多く検出され、A2064Gも検出されている。この変異を持つ耐性株は、14員環マクロライドに高度耐性を示し、A2064Gは16員環マクロライドにも高度耐性を示す特徴がある。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

（大屋日登美、相川勝弘、黒木俊郎）

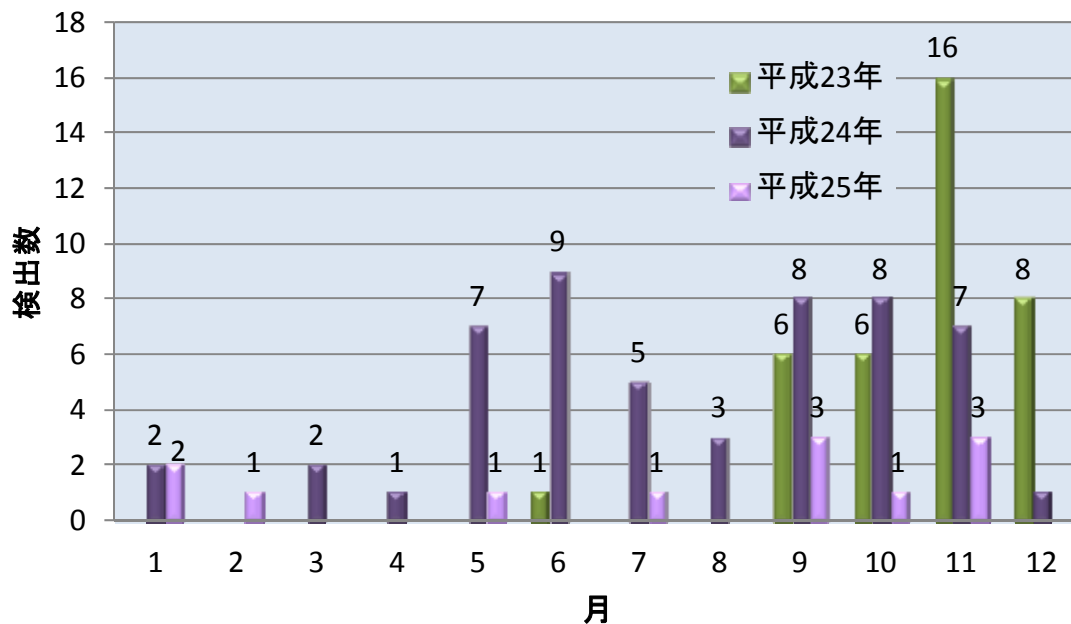


図 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

### 3 その他の感染症

#### (1) つつが虫病

##### ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

神奈川県衛生研究所

神奈川県のつつが虫病患者発生数は、平成2年の112名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年20名程度の患者数で推移している。

つつが虫病患者発生を季節別にみると、毎年秋期（9～11月）に患者が多く、平成25年も10月1名、11月6名、12月1名（計8名）であり、県内で感染が見られた株はKawasaki およびKuroki が各々4例であった。

つつが虫病患者からの聞き取り調査で得られた感染推定地域は、例年、足柄上郡山北町、松田町および南足柄市の3地区に集中しているが、本年は、南足柄市（3名）、山北町、松田町、小田原市、秦野市および伊勢原市（各1名）の計6地域であった。平成25年のつつが虫病感染時の行動も、昨年と同様に山地や平地の畑、田圃などでの農作業が多く、日常生活での感染の機会が多くみられた。

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

## ＜予防接種実施状況＞

参考資料

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

		平成23年度			平成24年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)
ジフテリア 百日せき 破傷風	1 期初回 1 回	83,242	79,898	96.0%	86,671	54,287	62.6%
	1 期初回 2 回	83,209	78,671	94.5%	87,233	59,971	68.7%
	1 期初回 3 回	83,213	78,064	93.8%	87,860	66,531	75.7%
	1 期追加	84,083	80,009	95.2%	92,324	82,427	89.3%
	2 期	85,635	67,891	79.3%	88,825	59,307	66.8%
ポリオ	1 回	92,382	55,643	60.2%	98,992	16,202	16.4%
	2 回	92,029	62,183	67.6%	95,008	24,271	25.5%
麻しん	1 期	79,493	75,813	95.4%	78,186	76,165	97.4%
	2 期	77,292	70,737	91.5%	79,075	72,683	91.9%
	3 期	83,719	68,994	82.4%	82,685	68,656	83.0%
	4 期	80,163	56,938	71.0%	83,053	54,188	65.2%
風しん	1 期	79,493	75,810	95.4%	78,186	76,165	97.4%
	2 期	77,292	70,734	91.5%	79,075	72,683	91.9%
	3 期	83,719	69,069	82.5%	82,685	68,656	83.0%
	4 期	80,163	57,110	71.2%	83,053	54,188	65.2%
日本脳炎	1 期初回 1 回	108,114	140,278	129.8%	126,545	99,120	78.3%
	1 期初回 2 回	107,831	149,304	138.5%	126,980	101,127	79.6%
	1 期追加	112,897	131,033	116.1%	137,350	118,837	86.5%
	2 期	100,912	63,743	63.2%	113,181	43,803	38.7%
インフルエンザ		1,886,387	786,404	41.7%	1,965,595	798,456	40.6%
内訳	65歳以上	1,862,764	784,130	42.1%	1,919,653	796,699	41.5%
	予防接種法施行令 で定める60歳以上 65歳未満の者	23,623	2,274	9.6%	45,942	1,757	3.8%

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成  
 (※)ジフテリア・百日せき・破傷風の1期初回及び追加については、DPTでの接種者数を計上している。  
 (※)麻しんは麻しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上している。  
 (※)風しんは風しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上している。

(健康危機管理課)

## <感染症関係機関>

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1827
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通り 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045 (743) 8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市港南区港南中央通 10-1	045 (847) 8436
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2357
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 8426
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市和泉町 4636-2	045 (800) 2444
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市磯子区滝頭 1-2-17	045 (754) 9800
川崎市健康福祉局保健医療部疾病対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2441
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6681
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3271
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3306
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生試験所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-12	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鶴沼 2131-1	0466 (50) 3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通り 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171
大和保健福祉事務所	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
三崎保健福祉事務所	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
秦野保健福祉事務所	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
足柄上保健福祉事務所	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9502
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (722) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)